

松島	岩屋	相知	赤池	三井田川	方城	峰地	
長崎	杵島第三坑	芳谷	同	同	同	福岡	
美園ガードナイガバナール 會社製 堅型複筒	フロットマンZ	佐賀	ペンシルバニヤ インガールランド	インガールランド XRBF二型	サリバン		
三〇	三二五	三〇	六〇	一五〇	五〇		
一	二	一	一	一	一	一	
矢野製作所製 電氣コイルドリル	足尾式手持 シカゴニューマツク ワイル會社製 ワットルウヤイアント	泉式 フロットマンAZ一六	小型昭和ドリル シカゴニューマツク ワイル會社製 ワットルウヤイアント	足尾式一一番型 インガールランド ウヤクハンマール R一二番型	フロッツトマン ハイスピードラヂアル コイルカッター	中山式二六番型 米國ホーソーン會社製 電氣ドリル サリバン會社製 チエーンコイルカッター フロッツトマン ハイスピードラヂアル コイルカッター	同 國華電氣ドリル
一三	一三	一三	〇七五	〇七五	三〇	一三	一三
一	一	一	二	二	二	一	一
一五六	同	新設	同	同	同	同	新設

(ハ) 其他ノ非金屬山

鹿島	祝ケ浦	高島	崎戸
同	同	同	長崎
日立製作所製	別子式	別子式	スイスロコモチーア マシウオーク社製 長崎三菱造船所製 ロイヤリー型 ビストン型
六〇	一五	一五	六〇
一	一	二	二
別子式 デンプーウオ一九五番型	昭和万能式 コイルピックCA型	足尾式一〇番型 アンバーウオ一ハンマー 九五番型 シーメンスコイルドリル E四一七番型 泉式コイルドリル ベテント九二七六番型 同 ベテント九二七八番型 ハリエルコイルドリル	動式電動鑿岩機七番型 フロットマンハンマードリ ルAZ一一番型 サリバンロータータイロツ クドリル 八新型 フロットマン コイルピックCA型
二	一	一	一
一五七	一	一	一

鑛山名	府縣名 又ハ國名	壓氣機		鑿岩機		備考
		名	馬力 臺數	名	馬力 臺數	
松尾	岩手	サリバンWG六型	一	サリバンL七型	一	備
				インガールDCW	一	同
				足尾式一二型	一	同
					二	増設

●坑内運搬設備
 ●坑内ノ發展採鑛方法ノ改善ニ伴ヒ坑内運搬力ノ充實ト能率増進ノ必要ハ勢ヒ機械ノ應用又ハ改修ヲ促シ
 運搬機械ノ新設若シクハ増設、改修、軌道ノ敷設或ハ増設ヲ爲シタルモノ多シ、其主ナルモノ次ノ如シ

(イ) 金 屬 山

鑛山名	府縣名 又ハ國名	種 類	機 式	馬 力 (括弧内ハ臺 數ヲ示ス)	臺數計	備 考
三井 鑛	天 鹽	空 氣 捲 揚 機	インガール 九日 マッガイ	五七	一	増設
釜石 鑛	天 鹽	同	同	一	一	増設
尾去澤 鑛	秋 田	ガソリン 機 關 車	オストロ ライ フ	八	一	元山第二鑿坑及昭和鑛一〇號間延長三、五〇 〇尺新設
荒井 鑛	同	電 氣 捲 揚 機	フ	二〇	一	百石坑ニ使用延長一、九八〇尺増設
不深 鑛	同	同	同	一〇	一	増設
翁倉 鑛	同	同	同	一五	一	同
西澤 鑛	同	同	同	五	一	同
足尾 鑛	同	同	同	四	一	同

鑛山名	府縣名 又ハ國名	種 類	機 式	馬 力 (括弧内ハ臺 數ヲ示ス)	臺數計	備 考
日光 鑛	同	電 氣 捲 揚 機	同	五	一	同
黒渡 鑛	同	同	同	五	一	同
新長 鑛	同	同	同	五	一	同
坂野 鑛	同	同	同	五	一	同
岡崎 鑛	同	同	同	五	一	同
川根 鑛	同	同	同	五	一	同
津根 鑛	同	同	同	五	一	同
肥田 鑛	同	同	同	五	一	同
地野 鑛	同	同	同	五	一	同
延野 鑛	同	同	同	五	一	同
兵庫 鑛	同	同	同	五	一	同
中野 鑛	同	電 車 軌 道	同	三	一	新設
生野 鑛	同	電 氣 捲 揚 機	同	二〇	一	同
飯盛 鑛	同	電 氣 捲 揚 機	同	二〇	一	同
和歌山 鑛	同	電 氣 捲 揚 機	同	二〇	一	同
美島 鑛	同	電 氣 捲 揚 機	同	二〇	一	同
山美 鑛	同	電 氣 捲 揚 機	同	二〇	一	同
川山 鑛	同	電 氣 捲 揚 機	同	二〇	一	同
繩川 鑛	同	電 氣 捲 揚 機	同	二〇	一	同
三川 鑛	同	電 氣 捲 揚 機	同	二〇	一	同
金三 鑛	同	電 氣 捲 揚 機	同	二〇	一	同

鑛山名	府縣名	種	樣式	馬力 (括弧内ノ臺數ヲ示ス)	臺數計	備	考
幌 內	幌 內	同	同	100(1)100(1)50(1)	2	從來ノ五〇馬力ヲ變更ス	
住友 志内 松	住友 志内 松	同	同	100(1)100(1)100(1)	3	從來ノ五〇馬力ヲ變更ス	
住友 上歌 志内	住友 上歌 志内	同	同	100(1)100(1)100(1)	3	從來ノ五〇馬力ヲ變更ス	
三菱 美 唄	三菱 美 唄	同	同	100(1)100(1)100(1)	4	從來ノ五〇馬力ヲ變更ス	
三菱 芦 別	三菱 芦 別	同	同	5(1)10(1)5(1)	3	從來ノ五〇馬力ヲ變更ス	
茂 内 尻	茂 内 尻	同	同	40(1)150(1)	2	汽笛徑八吋	
幌 内 太	幌 内 太	同	同	5(1)5(1)	2	汽笛徑八吋	
三井 美 唄	三井 美 唄	同	同	5(1)5(1)	2	汽笛徑八吋	
新 美 唄	新 美 唄	同	同	5(1)5(1)	2	汽笛徑八吋	
三井 砂 川	三井 砂 川	同	同	6.5(1)100(1)	1	汽笛徑八吋	
雄 別	雄 別	同	同	3(1)3(1)	2	但シ一臺ハ蒸汽捲揚機ヲ變更ス	
春 探	春 探	同	同	7.5(1)100(1)	4	但シ一臺ハ蒸汽捲揚機ヲ變更ス	

鑛山名	府縣名	種	樣式	馬力 (括弧内ノ臺數ヲ示ス)	臺數計	備	考
伊 豫 連	伊 豫 連	同	同	7.5	1	新設	
大 峰	大 峰	同	同	7.5	1	同	
白 瀧	白 瀧	同	同	7.5	1	同	
宗 高	宗 高	同	同	7.5	1	同	
楨 山	楨 山	同	同	7.5	1	同	
宮 崎	宮 崎	同	同	7.5	1	同	
嶺 口	嶺 口	同	同	7.5	1	同	
愛 媛	愛 媛	同	同	7.5	1	同	

鑛山名	府縣名	種	樣式	馬力 (括弧内ノ臺數ヲ示ス)	臺數計	備	考
夕 張	夕 張	同	同	100(1)100(1)50(1)	2	從來ノ六〇馬力ヲ改設	
新 夕 張	新 夕 張	同	同	100(1)100(1)50(1)	2	從來ノ六〇馬力ヲ改設	
眞 谷 地	眞 谷 地	同	同	100(1)100(1)50(1)	2	從來ノ六〇馬力ヲ改設	
登 川	登 川	同	同	100(1)100(1)50(1)	2	從來ノ六〇馬力ヲ改設	
萬 字	萬 字	同	同	100(1)100(1)50(1)	2	從來ノ六〇馬力ヲ改設	
空 知	空 知	同	同	100(1)100(1)50(1)	2	從來ノ六〇馬力ヲ改設	

大山	高松	中鶴	木屋	明屋	古河	新入	大之浦	稻築	上山
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
電氣捲揚機	電氣捲揚機	蒸氣捲揚機	電氣捲揚機	電氣捲揚機	同	同	電氣捲揚機	同	同
單式	同式	同式	逆式	單式	同式	同式	逆式	單式	同式
七	五〇〇	一〇〇	二〇〇	五〇〇	一〇〇〇	一五〇〇	一〇〇〇	三〇〇〇	一〇〇〇
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
汽笛徑一二吋	汽笛徑一二吋	汽笛徑一四吋							汽笛徑五〇九耗

大和	大定	住友	飯塚	網分	二瀬	平山	古河	三井	鎮野	吉限
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
電氣捲揚機	電氣捲揚機	電氣捲揚機	電氣捲揚機	電氣捲揚機	電氣捲揚機	電氣捲揚機	電氣捲揚機	電氣捲揚機	同	同
單式	同式	同式	同式	同式	同式	同式	同式	同式	同式	同式
二〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	二〇〇	二〇〇	三〇〇	四〇〇	六〇〇	二〇〇	三〇〇
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
試用中	汽笛徑一〇吋	同	同	同	同	同	同	同	同	同

鑛山名	府縣名	種	樣	馬力	臺數計	備	考
試八四〇	同	同	同	同	同	同	
一社	同	同	同	同	同	同	
下原	同	同	同	同	同	同	
池ノ久	同	同	同	同	同	同	
長手	同	同	同	同	同	同	
高針	同	同	同	同	同	同	
松井	愛知	蒸汽捲揚機	單胴式	二五	一		
其他ノ非金屬山							
杵島第三坑	長崎	電氣エンドレス	單網式	六〇	一		
松島	同	電氣捲揚機	同	三〇	一		
高島	同	電氣エンドレス	單胴式	一〇〇	一	汽笛徑一二吋	
東島	同	蒸汽捲揚機	同	三〇	一	同	
神田	同	同	同	三〇	一	同	
鹿町	同	同	同	六〇	一	同	
中里	同	電氣捲揚機	同	六〇	一	同	
芳野	同	同	同	六〇	一	同	

鑛山名	府縣名	種	樣	馬力	臺數計	備	考
山田	福岡	蒸汽捲揚機	單胴式	二〇〇	一	汽笛徑一八吋	
芳雄	同	電氣捲揚機	同	二〇〇	一	汽笛徑八吋	
月限第二坑	同	蒸汽捲揚機	同	一〇〇(一五)	一	汽笛徑一六吋	
姪濱	同	電氣捲揚機	同	一〇〇(五〇)	一	幅一呎七吋深サ五吋長三〇間	
大國	同	鐵製切羽運搬機	同	一〇〇	四		
豐國	同	電氣エンドレス	逆胴式	二〇	一		
起業小松	同	蒸汽捲揚機	單胴式	三〇	一	汽笛徑一四吋	
大峰三坑	同	電氣捲揚機	同	五〇	一		
峰地	同	蒸汽捲揚機	同	四〇〇	二		
方城	同	電氣エンドレス	逆胴式	一五〇(一五〇)	三		
三井田川	同	電氣捲揚機	單胴式	一〇〇(一五〇)	一〇		
赤池	同	電氣捲揚機	單胴式	三五四(一〇〇)	七		
赤池	同	電氣捲揚機	單胴式	三五〇(一五〇)	三		
赤池	同	電氣捲揚機	單胴式	三五〇(一五〇)	三		
赤池	同	電氣捲揚機	單胴式	一〇〇	一		
相芳谷	同	同	同	二〇	一		
岩屋	同	電氣捲揚機	單胴式	二〇	一		

●坑外運搬設備ノ改善ニ伴ヒ坑外運搬力ノ増加ヲ必要トスルト共ニ能率増進ヲ企圖シ設備ノ改善、擴張或ハ新設ヲ爲シタルモノ次ノ如シ

(イ) 金 屬 山

鐵山名	又府縣名	種 類	樣 式	馬力臺數	重軌量條	軌距	延長	備 考
三 棚	好 原	同 架	自動復線往復式	一	三	四	九	新設
足 尾	岡 山	電 車	玉村單線式	一	三	四	九	新設
松 田	岐 阜	同 架	單線玉村式	一	三	四	九	新設
鷺 森	岩 手	同 架	單線玉村式	一	三	四	九	新設

(ロ) 石 炭 山

鐵山名	又府縣名	種 類	樣 式	馬力臺數	重軌量條	軌距	延長	備 考
夕 張	石 狩	電 氣	複 式	一	一	一	一	從來ノ五〇馬力ヲ變更
新 張	同	同	同	一	一	一	一	從來ノ一六馬力ヲ變更ス
直 張	同	同	同	一	一	一	一	一
萬 谷	同	同	同	一	一	一	一	一
幌 谷	同	同	同	一	一	一	一	一
幾 春	同	同	同	一	一	一	一	一
住友歌志内	同	同	同	一	一	一	一	一

鐵山名	又府縣名	種 類	樣 式	馬力臺數	重軌量條	軌距	延長	備 考
住友新志内	同	同 架	四輪聯結水槽付	一	一	一	一	增設
茅 沼	後 志	同 架	同	一	一	一	一	增設
小 野	福 島	同 架	同	一	一	一	一	增設
入 山	同	同 架	同	一	一	一	一	增設
野 口	同	同 架	同	一	一	一	一	增設
東 見	同	同 架	同	一	一	一	一	增設
沖 之	同	同 架	同	一	一	一	一	增設
海 軍	同	同 架	同	一	一	一	一	增設
昭 和	同	同 架	同	一	一	一	一	增設
大 和	同	同 架	同	一	一	一	一	增設
高 松	同	同 架	同	一	一	一	一	增設
中 鶴	同	同 架	同	一	一	一	一	增設
上 山	同	同 架	同	一	一	一	一	增設
上 田	同	同 架	同	一	一	一	一	增設
住友忠	同	同 架	同	一	一	一	一	增設
二 瀬	同	同 架	同	一	一	一	一	增設

石狩	鑛山名	又府縣名 又國名	種類	様式	馬力	臺數	軌重 量條	軌距	延長	備考
鹿町	同	同	電氣エンドレス	下網式	三〇	一	三	三〇	一七九〇	汽管徑一二吋 硬捨用
崎戸	長崎	同	電氣エンドレス	同	三〇	一	三	三〇	一七九〇	汽管徑六吋 硬捨用
相知芳谷	佐賀	同	馬車軌道	同	五〇	一	三	二〇	一七九〇	汽管徑六吋 硬捨用
赤池	同	同	電氣捲揚機	複胴式	六〇	一	三	三〇	一七九〇	汽管徑六吋 硬捨用
三井川	同	同	電氣捲揚機	逆轉式	六〇	一	三	三〇	一七九〇	汽管徑六吋 硬捨用
峰地	同	同	蒸氣エンドレス	同	一五〇	一	三	三〇	一七九〇	汽管徑六吋 硬捨用
大峯	同	同	蒸氣捲揚機	同	二〇〇	一	三	三〇	一七九〇	汽管徑六吋 硬捨用
豐國	同	同	電氣捲揚機	同	三〇	一	三	三〇	一七九〇	汽管徑六吋 硬捨用
芳雄	同	同	電氣捲揚機	同	三〇	一	三	三〇	一七九〇	汽管徑六吋 硬捨用
平山	同	同	電氣捲揚機	同	三〇	一	三	三〇	一七九〇	汽管徑六吋 硬捨用
二瀬	同	同	電氣捲揚機	同	三〇	一	三	三〇	一七九〇	汽管徑六吋 硬捨用

(ハ) 石油山

新津	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

(ニ) 其他ノ非金屬山

鑛山名	府縣名 又國名	種類	様式	馬力	臺數	軌重 量條	軌距	延長	備考
幌別	又府縣名	蒸氣機關車	四輪聯結サイドカック トムヤング型	一五〇	一		三〇	六二五	馬匹運搬ヲ變更ス
松尾	岩手	架空索道	玉村單線式	一五〇	一		三〇	三三三	變更
那須	栃木	同	自動複線式	一五〇	一		三〇	六八〇	變更
吾妻	群馬	同	自動單線式	一五〇	一		三〇	八二八〇	
小串	同	同	同	一五〇	一		三〇	四八三〇	
米子	同	同	同	一五〇	一		三〇	四八三〇	

●排水設備 坑内ノ發展ニ伴ヒ湧水量モ自然増加ヲ來シ又水準以下掘鑿ノ爲新ニ排水設備ヲ必要トスルモノヲ生スルニ至
リシ等唧筒ヲ増設又ハ新設スルモノ少ナカラズ、他方排水系統ノ整理ヲ行ヒ設備ノ改廢ヲ企圖シタルモノ亦少ナシトセス
今ソノ主ナルモノヲ列記スレバ左ノ如シ

(イ) 金 屬 山

鑛山名	又府ハ縣名	樣式	馬力(括弧内)	臺數計	備考
三井 岩井 瑞	又府ハ縣名	ウオーシントン タービンポンプ	八五	一	新設
湯原 崎	宮崎	日立製三段渦卷 ブラントヤイ唧筒	四五	一	同
細倉 岡	同	三段五時牛 タービン唧筒	四	一	同
花岡 倉	同	日立製三段渦卷 ブラントヤイ唧筒	三	一	同
荒川 岡	同	三段五時牛 タービン唧筒	二七	一	同
不訪 倉	同	日立製三段渦卷 ブラントヤイ唧筒	二〇	一	同
東照 茨	同	日立製三段渦卷 ブラントヤイ唧筒	二〇	一	同
明延 新	同	日立製三段渦卷 ブラントヤイ唧筒	二〇	一	同
中瀬 延	同	日立製三段渦卷 ブラントヤイ唧筒	二〇	一	同
伊豫 新	同	日立製三段渦卷 ブラントヤイ唧筒	二〇	一	同
宗國 新	同	日立製三段渦卷 ブラントヤイ唧筒	二〇	一	同
三井 野	同	日立製三段渦卷 ブラントヤイ唧筒	二〇	一	同

鑛山名	又府ハ縣名	樣式	馬力(括弧内)	臺數計	備考
登春 川	石狩	タービンポンプ	八五	一	同
幾春 別	同	タービンポンプ	三五	一	同
住友 別	同	タービンポンプ	一五	一	同
上歌 別	同	タービンポンプ	一五	一	同
住友 別	同	タービンポンプ	一五	一	同
三友 別	同	タービンポンプ	一五	一	同
茂美 別	同	タービンポンプ	一五	一	同
幌尻 別	同	タービンポンプ	一五	一	同
彌生 別	同	タービンポンプ	一五	一	同
三井 別	同	タービンポンプ	一五	一	同
新井 別	同	タービンポンプ	一五	一	同
三井 別	同	タービンポンプ	一五	一	同
雄井 別	同	タービンポンプ	一五	一	同
尺別 別	同	タービンポンプ	一五	一	同
茅沼 別	同	タービンポンプ	一五	一	同
木友 別	同	タービンポンプ	一五	一	同
大田 別	同	タービンポンプ	一五	一	同
内石 別	同	タービンポンプ	一五	一	同

國木山	第二長門起業	荒川	三池	勝山	海軍新	昭原	大島	敷島	久原	大橋	中鶴	大成	木屋	明屋	新入
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

大之浦	稻上	上山	総田	豆田	漆生	大和	大定	飯浦	網分	二湖	平山	日吉	三野	鎮井
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

住友	網分	平山	三井	三井	赤池	相芳	崎
友忠	瀨分	山	井田	井田	池	谷	
限	同	同	川	川	同	佐	
福	同	同	同	同	同	賀	
岡	同	同	同	同	同	崎	
シ	シ	幸	シ	シ	シ	シ	同
ロ	ラ	袋	ル	ル	翼	コ	同
ツ	ト	製	ツ	ツ	式	コ	同
コ	コ		コ	コ			
100	100	100	100	100	100	100	100
150,000	180,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
1	1	1	1	1	1	1	1
原動	原動	原動	原動	原動	原動	原動	原動
蒸	蒸	蒸	蒸	蒸	蒸	蒸	蒸
汽	汽	汽	汽	汽	汽	汽	汽
機	機	機	機	機	機	機	機

●運鑛 貧鑛處理、遺利回收或ハ生産費低減ノ目的ニテ選鑛設備ノ創設、改善又ハ擴張シタル主ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ、尙前年來諸々ノ鑛山ニ於テ設置セル優先浮游選鑛設備ハ機械ノ改修試薬ノ配合等夫々研究ヲ續ケ漸次相當ノ成績ヲ舉ケツツアリ

鑛山名

府縣名
又ハ國名

記

事

鴻ノ舞

北見

格子篩一、碎鑛機「ブレイキ」式及「ジャイレートリ」式各一、及「ベルトコムベヤ」二、ヲ有スル簡單ナル選鑛場ヲ新設セリ

土畑

岩手

第二碎鑛場内ニ12"×24"「ロール」二臺ヲ据付タル外粗鑛舍ノ建築ヲナシタリ

水澤

同

大塚製「ブレイキ」、クラツシヤ「10"×7"」及同所製「クロムロール」(15"×30")各一臺ヲ増設セリ

釜石

同

能率増進ノ目的ニテ新ニ粉鑛處理ヲ志シ一ヶ月取扱元鑛量三千屯ノ磁力選鑛場ノ新設ニ著手セリ

細倉

宮城

碎鑛能力ヲ増加スル爲「ブレイキクラツシヤ」一臺ヲ増設シ又從來休轉中ナリシ三吋「ロール」及二十四吋「ロール」ヲ改修「ウイルフレーターブル」九臺ヲ増設シ破碎ト分級トヲ一層完全ナラシメタル結果取扱能力二割、採取率一〇%ヲ増加セリ

足尾

栃木

亞鉛選鑛場ヲ粘土質銅鑛處理ノ選鑛場ニ改造シ通洞第二選鑛場ノ「セントリフューガルクラツシングロール」三臺及附屬「バケツトエレヅエーター」ヲ廢止シ「ハーディンデポールミル」一臺及附屬「トラツグクラシファイヤー」三臺並ニ「ボートランドヒルター」一臺及附屬「バキヤムポンプ」二臺、「コンプレッサー」一臺ヲ据付ケタリ

南澤

栃木

「ハンチントンミル」及「トロンメル」各一臺ヲ増設セリ

神岡

岐阜

鹿間、茂住兩選鑛場共比重選鑛法ヲ廢シ全浮游選鑛法ニ變更セリ

久根 静岡 B型「クロームロール」、「コニカルボールミル」、M・S式浮選機及之ニ附属スル「バケツトエレベーター」、「ドラツグクラツシフアイヤー」ヲ増設シ又第二及第三選鑛場ヨリ流出スル泥鑛ヲ「ドーアーシツクナー」ニ導キ浮選鑛法ニ依リ精鑛ヲ採收スルコトセリ

飯盛 和歌山 粉鑛處理ノ目的ヲ以テ四坑選鑛場ニ「ドラツグクラツシフアイヤー」及「ウイルフレーターブル」各一臺ニ坑選鑛場ニ「ウイルフレイターブル」一臺ヲ増設セリ

鉛山 和歌山 MS式浮選鑛機三臺ヲ増設ス

別子 愛媛 笹津選鑛場完成シ操業ヲ開始セリ主要設備トシテハ「セーキングスクリーン」二臺、「ドラムフイダー」二臺手選帶二臺ニシテ一ケ年間取扱元鑛最大豫定量五五、〇〇〇噸ナリ粉鑛處理ノ目的ヲ以テ「ゼームス式テーブル」一臺及「ハルツ式ジツガー」一臺ヲ新設セリ

三繩 徳島 「ブレイキ式クラツシャヤ」十馬力一臺ヲ設置セリ

大峰 愛媛 機械選鑛場ヲ新設シ操業ヲ開始セリ其設備ハ「ブレイキクラツシャヤ」二臺、「トロムメル一臺」、「コニカルボールミル」一臺、「ドラツクベルトクラツシフアイヤー」一臺、K O式浮選鑛機二臺、「ドーアーシツクナー」一臺、「オリバーフィルター」二臺等ナリ

宗國 山口 水壓式分級器、「ドーアークラツシフアイヤー」、「コニカルボールミル」、「ウイルフレイターブル」、「ドーアーシツクナー」、「ラウンドフレーム」各一臺ヲ増設セリ

尾平 大分 ●選炭 石炭山ニアリテハ新界甚ダ不況ナル結果品質ノ向上ヲ必要トシ逐年選炭設備ノ新設、改善又ハ擴張ヲ行ヒ來レリ

本年度ノ主ナルモノ左ノ如シ

鑛山名 府縣名 又ハ國名

記

事

幾春別 石狩 「レヲラベル」式洗炭機中小塊用三臺、微粉炭用三臺ヲ増設シ之ニ附隨シ「エレベーター」、「バンドコムベヤヤ」、「ロータリースクリン」、「水切」シリンダー」等ヲ増設セリ

住友歌志内 同 「ブラケツト」式洗炭機(長三〇呎徑四呎)一臺ヲ設置セリ

上歌志内 同 「シエーキングスクリーン」(毎時三〇噸)一臺ヲ十一番層炭用トシテ新設セリ

住友新歌志内 同 共益社式水洗機(毎時四〇噸及二〇噸)、「ジンマースクリン」、「ピツキングハンドコンベヤヤ」(以上毎時五〇噸)各一臺及「タービンポンプ」二臺ヲ新設セリ

茂尻 同 洗炭機「ジツガー」式二臺(毎時一〇噸)、同「シニキン」式一臺(再洗用、毎時一〇噸)、「ルトコンベヤヤ」及「タービンポンプ」各一臺ヲ増設セリ

彌生 同 共益社式水洗機(毎時三五噸)一臺ヲ粉炭水洗用トシテ増設セリ

雄別 釧路 共益社式水洗機(毎時五〇噸)一臺、「カーブラー」二臺、「チツブラー」、「フイダー」、「ジンマースクリン」、「バンドコンベヤヤ」各一臺ヲ増設セリ

春採 同 跳汰式「ジツガー」水洗機(毎時二〇噸)四臺ヲ増設セリ

内郷 福島 「ドレーバー」式洗炭機(毎時二五噸)ヲ綴坑ニ二臺、町田坑及高取坑ニ各一臺宛ヲ新設セリ

入山 同 桶洗式水洗機(一ケ月三、九〇〇噸)一臺ヲ四坑ニ新設シ、「ジツガー」(一、二、三、四、五)噸三臺ヲ五坑ニ増設セリ

小野田 福島 小野田堅坑及長倉坑ニ桶流式水洗機各一臺ヲ新設セリ
 好間 同 共益社式水洗機(毎時一〇噸及五噸)ヲ二臺新設セリ
 大倉無煙 茨城 三坑設置ノ水洗機全部(四基)ヲ改造スルト共ニ一基増設シタル結果從來ノ洗炭量一ヶ月
 千代田 茨城 二千五百噸ナリシガ八千噸ヲ處理シ得ルニ至レリ
 粗惡炭及挾雜物ノ含有スル不良粉炭ヲ處理スヘク「ドレーバー」式ヲ設計ノ基本トセル一
 種ノ水洗機設置工事中ナリ
 沖見初 山口 手選用「リングベルトコンベヤー」能力一時間三十五噸一臺及粉炭用トシテ水洗機能力一
 時間十二噸二臺、小塊用トシテ同能力一時間六噸一臺ヲ設置セリ
 高田 福岡 二十噸「ジョークラッシュヤ」ヨリ出タル二號炭ヲ粉碎スル目的ヲ以テ十噸「ロールクラ
 ッシャー」一臺ヲ設置シ又硬炭ヲ再選スル目的ヲ以テ十噸「バウム」式豫選機一臺ヲ増設
 セリ
 海軍新原 同 第六坑選炭場ヲ改修シ「サイドチップラー」一個、「ピツキングベルト」二條、搗炭機三個
 ヲ設置セリ
 大谷 同 粉炭水洗ノ目的ヲ以テ能力一時間十噸ノ「ジツガー」式水洗機一臺ヲ設置セリ
 龜山 同 能力一時間五十噸ノ共益社式水洗機一臺ヲ新設シ中塊以下ヲ水洗ニ附ス
 昭和三和 同 能力一日五百噸鑛型鐵板選炭機一臺及能力一時間三十五噸共益社式水洗機一臺ヲ新設セ
 リ

敷島 同 手選炭機ニハ能力十噸ノ振動式「テーブル」ヲ新設シ洗炭機ニハ能力約五噸ノ「ジツガー」
 式ヲ新設セリ
 高松 同 能力一日八百噸選炭機一臺、能力一時間三十噸中小塊水洗用共益社「ジツガー」式水洗機
 一臺、能力一時間四十噸粉炭水洗用共益社「ジツガー」式水洗機一臺ヲ設置セリ
 御徳 同 精選炭ノ增收ヲ目的トシテ能力一時間十五噸「ジツガー」式水洗機一臺ヲ増設セリ
 大之浦 同 二坑選炭場ニ共益社式水洗機能力一時間二十噸一臺、三坑選炭場ニ同能力一時間二十噸
 一臺ヲ増設シ五坑選炭場ニ同能力一時間三十噸、同十五噸、同十噸各一臺並ニ其ノ附屬
 水洗設備ヲ設置セリ
 上山 同 「ジンマー」式選炭機、共益社式水洗機能力一時間二十五噸、同十五噸各一臺ヲ設置セリ
 上山田 同 堅坑口ニ能力一時間四十噸選炭機二臺、同三十五噸共益社式粉炭水洗機二臺、同十五噸「ジ
 ッガー」式小塊水洗機二臺、同二十五噸共益社式再洗機一臺ヨリ成ル選炭設備ヲ設置セリ
 鮫田 同 水洗原炭金物除去用トシテ「キロワット」「マグネットセパレーター」一臺ヲ新設セリ
 住友大瀨 長崎 幅五呎長ヲ五十五呎「ピツキングベルト」一條及能力一時間四十噸「バウム」式水洗機一臺
 ヲ増設セリ
 飯塚大浦 福岡 第二坑ニ能力一時間二十噸共益社式再選機ヲ設置シ從來放棄シツツアリシ水洗硬ヲ再選
 網分 同 スルコトトシ尙ホ同坑二號炭破碎用碎炭機ヲ設置シ從來ノ二號炭ヲ粉碎水洗スルコトト
 セリ共益社式粉炭水洗機能力一時間三十五噸一臺及同再洗用粉炭水洗機能力一時間十噸

二 瀬 福岡 小正坑ニ能力一時間二十噸「ジンマー」式選炭機一臺ヲ新設セリ
 平 山 同 集丸八尺坑ニ能力一時間六十噸「ジンマー」式「プレートコンベヤー」二臺、能力一時間五十噸共益社式一臺、平山第一坑ニ能力一時間六十噸「ジンマー」式「プレートコンベヤー」一臺、能力一時間三十噸共益社式一臺ヲ新設セリ
 古河下山田 同 二號炭洗炭ノ目的ヲ以テ能力一時間十噸各五馬力ノ「クラッシュヤー」二臺ヲ新設セリ
 三井山野 同 第三坑ニ能力一時間三十五噸ノ共益社式水洗機一臺、第四坑ニ能力一時間十噸ノ共益社式水洗機一臺ヲ設置セリ
 吉 隈 同 共益社式再選機能力一時間三十五噸一臺ヲ増設セリ
 山 田 同 能力一時間五十噸ノ共益社式「ジツガー」水洗機一臺、能力一時間四十噸ノ共益社式「ジツガー」再選機一臺ヲ新設セリ
 芳 雄 同 上三緒坑ニ於テ粉炭水洗ヲ爲ス爲メ共益社式「ジツガー」水洗機能力一時間五十噸一臺及同三十五噸一臺ヲ新設セリ
 豐 國 同 第一坑水洗機用「ベル」式送風機毎分千二百立方呎三臺ヲ廢シ「ブラウンボヘリー」製「ターボブローワー」毎分四千立方呎風壓二封度一臺ヲ設置セリ
 三井田川 同 第二坑産出粉炭全部ノ水洗ヲナス爲メ能力一時間三十五噸「ジツガー」式洗炭機一臺及右粉炭洗硬炭並ニ既設中塊洗炭機ヨリ出ツル洗硬炭再洗ノ爲メ能力一時間二十噸「ジツ

赤 池 同 「ガ」式再洗機一臺ヲ新設セリ
 杵島第三坑 佐賀 前年度完成セル洗粉及洗中塊ノ鐵筋「コンクリート」ボケット「内ニ洗粉ボケット」ニハ移動式「ゴムコンベヤー」幅一六吋長サ四十八呎能力一時間六十噸一臺、中塊「ボケット」ニハ固定式「コンベヤー」幅二呎六吋長サ二十四呎傾斜四十三度能力一時間十五噸一臺ヲ設置セリ
 岩 屋 同 選炭能力一時間五十噸ノ「セーキングスクリーン」一臺ヲ増設セリ
 池 野 長崎 手選用「ベルト」一臺ヲ増設セリ
 中 里 同 第六坑ニ能力一時間十噸「ブラツケット」式選炭機一臺ヲ新設セリ
 芳野浦 同 能力一時間十噸「ジツガー」水洗機ヲ設置セリ
 ●製錬 本年度ニ於テ製錬設備ノ新設、改修又ハ擴張ヲナシタルモノ次ノ如シ
 設備ノ擴張ヲ行ヒ左ノ諸設備ヲ新設又ハ増設セリ
 濃聚槽(ドアー式徑三二呎深一〇呎) 一個
 エアリーフトポンプ(セントラルバイブ式) 二臺
 金液槽(木槽徑一〇呎深五呎) 一個

●製錬 本年度ニ於テ製錬設備ノ新設、改修又ハ擴張ヲナシタルモノ次ノ如シ

礦山名 府縣名 又ハ國名

鴻ノ舞 北見

タービンポンプ(みのくち式)

トロツコポンプ(二聯式)

搗鑛機(十本立一〇五〇封度)

濕式製鍊場ヲ新設スヘク工事中ニシテ其設備左ノ如シ

融出機(鐵板半圓筒型徑三・一八尺、長一〇尺硫黄元鑛用)

凝結機(同) 上 流出硫黄ヲ受ケ凝結セシム)

回液機(圓筒型徑三・一八尺、深五尺凝結機ヨリノ廢液ヲ受ク)

附屬液槽準備液槽(同) 上 鹽化石灰液ヲ入ル)

熔融器(鑄鐵製鍋徑三・五尺、深一・六尺粗製硫黄熔融用)

精製器(圓筒型徑一・二六尺、深二尺粗製硫黄淨過用)

硫黄受(鍋 徑三・五尺、深一・六尺 粘製硫黄ヲ受ク)

第九號高炉ノ改修中ナルカソノ外粉鑛ノ磁力選鑛ヲ行フト共ニソノ精鑛ヲ燒結スヘク燒

結工場ノ新設ニ著手セリ

本年ノ著手ニ係リ八月燒取釜一基ヲ新設シ尙ニ二基増設ノ計劃中ナリ

三月更ニ燒取釜三基ヲ増設セリ

三月舊鑛洋ノ青化製鍊ヲ開始シ十二月ニハ搗鑛製鍊場ノ新設ニ著手セリ

豫テ改造中ナリシ第六號熔鑛炉ハ五月完成使用ヲ開始セリ

惠山渡島

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

一臺

足尾 栃木

篠井 栃木

那須 同

小串 群馬

吾妻 同

米子 長野

森部 岐阜

別子 愛媛

若鉛電解槽ノ増設、第二熔鑛爐ノ改造、轉爐用送風機ノ改廢ヲ行ヒ又煉銅煙道共通部ノ

改造ト共ニ位置ヲ變更セリ

簡單ナル搗鑛製鍊場ヲ新設セリ

燒取式製鍊竈一基ヲ増設セリ

燒取式製鍊竈三基ヲ増設セリ

燒取式製鍊竈三基ヲ増設セリ

燒取式製鍊竈二基ヲ増設セリ

簡單ナル搗鑛製鍊場ヲ新設セリ

四阪島製鍊所熔鑛爐羽口ニ於ケル微粉炭吹込裝置並ニ之カ製造供給設備ハ本年度全爐ニ

對シ完成ヲ遂ケタリ

同製鍊所轉爐排煙ノ一部ニ對スル電氣收塵試驗設備ヲ改修シ本設備トナシ同排煙ノ全部

ニ對シ作業ヲ開始セリ

新居濱電鍊工場ニ於テ電解槽陰極板ノ數及電流ノ強サヲ増加スルコトニヨリ製鍊能力ヲ

左ノ如ク増加セリ

取扱合金銀粗銅 凡ソ二、一〇〇萬斤ヲ凡ソ二、三四〇萬斤ニ増加

產出電氣銅 凡ソ二、〇四〇萬斤ヲ凡ソ二、二八〇萬斤ニ増加

產出セレンニウム 凡ソ二、五〇〇封度ヲ凡ソ五、〇〇〇封度ニ増加

尾 平 大分
横 峰 宮崎
山 ケ 野 鹿兒島

團鑛爐一基設置セリ
送風機一臺及真吹爐床五個ヲ増設セリ
「コニカルミル」一臺、複式「ドーア」、クラツシフアイヤー」一臺、「スタンブミル」五本、汰盤二臺ヲ増設セリ

硫 黄 島 同

硫黄製鍊場ヲ新設シ一基ニ付蒸溜釜十二個ヲ備ヘタル爐二基ヲ設置セリ

●製油 本年度製油ニ關スル設備中主ナルモノ次ノ如シ

鑛山名 府縣名 又ハ國名

記

事

黒川鑛山 秋田

貯油槽十基(容量合計一七、一八〇石)及電動機五臺、「ロータリープロワー」一臺、「ポンプ」三臺並ニ白土乾燥爐一臺ヲ増設シタリ

附屬秋田製油所

西山鑛山 新潟

揮發油原料及溜出油ノ品質ヲ試驗スル爲揮發油試驗蒸溜釜一基ヲ設置シ、揮發油貯藏用鐵槽五基及附屬唧筒三臺ヲ増設セリ

附屬相崎製油所

高 町 同

又批把島及大州ノ兩製罐工場ニ自動縱「ハンダ」著機械ヲ新設シ油槽車注油場ヲ擴張シ同時ニ六車ノ注油ヲ可能ナラシメタリ

新津鑛山 同

處理能力一日瓦斯二百萬立方呎、原油三百乃至五百石ノ第二揮發油採收所ヲ増設セリ製造能力一ヶ月約五百噸ノ「アスファルト」製造裝置ヲ新設シ製蠟用「プレツスマシン」一臺ヲ増設セリ

又工場ノ擴張ニ伴ヒ鐵槽十一基及附屬上家並ニ外焚多管式汽罐一基ヲ増設セリ

●鑛害除去設備 本年中ニ於テ鑛水、鑛煙等廢棄物處理ノ爲又ハ微粉炭回收ノ爲諸般ノ設備ヲ施セルモノ尠ナカラス、其ノ主ナルモノ次ノ如シ

(イ) 金 屬 山

鑛山名 府縣名 又ハ國名

記

事

平 糖 岩 手

從來使用セル搗鑛場附屬沈澱池二個ノ外更ニ二個ヲ築造シ其ノ沈澱容積ノ増大ヲ計レリ

釜 石 同

第二沈澱池廢洋深ノ目的ヲ以テ「エキスカベーター」一基ヲ新設シ九月ソノ運轉ヲ開始セリ

細 倉 宮 城

粉鑛磁選及燒結工場ヨリ生スル廢水沈澱ノ爲徑十八呎、深六呎ノ周圍及底部共混凝土製沈澱池二個ヲ新設セリ

土 深 井 秋 田

熔鑛爐收塵ハ從來長十七間、巾十九尺ナリシヲ長サ二十六間ニ擴張シ又「ボット」ニ巾八尺、長四十間ノ收塵室ヲ新設シ煙害ノ輕減ニ努メ尙廢水沈澱設備ニ於テハ一號二號沈澱池ヲ擴張シ容積百五十立坪ヲ増加スルニ至レリ

吉 乃 同

選鑛場ノ擴張ニ伴ヒ既設沈澱池ノ下流約二百三十間ノ地點ニ長サ五間、巾六間、深サ六尺ノモノ二個ヲ増設セリ

前年十二月起工セル村尻沈澱池ハ五月竣工シ次イテ鑛水導管トシテ徑一尺五寸ノ「コンクリート」管延長百十八間ノ敷設ヲ完成シタル外更ニ鑛水中和ノ爲石灰攪拌ヲ試ミ尙總放水量ヲ減少セシムル目的ニテ鑛水ノ繰返使用ヲ計畫セリ

足尾 粉木

間藤淨水場ニ濾過機ニテ處理シタル沈澱物ヲ日光乾燥シタル後更ニ乾燥スベク回轉乾燥爐一基新設セリ

尾小屋 石川

中才沈澱池ノ沈澱泥渣ヲ壓縮シ水分ヲ除去スル爲砂形乾泥池西側ニ「フィルタープレツス」七臺及附屬「プランヂャーポンプ」四臺ヲ設置シ之ヨリ出ヅル泥渣ヲ堆積スル爲乾泥池ノ西南ニ高サ十四尺ノ石垣ヲ築キタル千三百九十坪ノ堆積場ヲ設ケ又現在ノ原堆積場ノ西側ニ一萬二千五百餘坪ノ堆積場ヲ増設スベク工事中ナリ

生野 兵庫

選鑛場ノ擴張ニ伴ヒ六間×五間×六尺ノ沈澱池三個ヲ増設セリ
波佐羅選鑛場廢水及大曲堆積場滲透水處理ノ目的ヲ以テ四〇尺「ドールシツクナー」ヲ新設セリ

本山 岡山

神子畑選鑛場ニ於テハ尾鑛處理並ニ除害設備改善ノ爲メ九呎×八呎「オリバーフィルター」二臺ヲ設置セリ
坑内水及緣鑛製造工場ヨリノ廢水ヲ清澄ナラシムル目的ヲ以テ沈澱池四個ヲ新設セリ其大サ各々二二坪、七坪、三五坪及一九坪ナリトス

別子 愛媛

轉爐瓦斯ニ對スル電氣收塵設備ノ完成ニ關シテハ製鍊ノ項ニ記載ノ通りナリ

横峰 宮崎

二箇所ノ鑛滓堆積場ヲ新設セリ其ノ收容量一ハ約七萬五千噸、一ハ約十五萬噸ナリ
廢泥處理ニ關シ泥鑛ヲ極力抽收シ汚水ノ河川ニ流入スルヲ防止スル爲メ三個ノ沈澱池（幅二十四尺長サ二十二尺深サ四尺一個、幅二十二尺長サ二十四尺深サ四尺一個、幅二十

(ロ) 石炭山

鑛山名 府縣名 又ハ國名

住友新志内 石狩

微粉炭沈澱用トシテ木板造リ沈澱槽（長サ五間巾二間深二尺五寸）三個ヲ新設セリ

住友歌志内 同

沈澱槽二個ノ改設ヲナシ尙捨石堆積場板柵二個ヲ増設セリ

幾春別 同

「コンクリート」造リ沈澱池（長サ一三三尺巾一三三尺深三尺）一個ヲ増設セリ

内郷 福島

町田坑、高坂坑、綴坑ニ於テ洗炭機ノ使用ヲ開始セシニヨリ左記沈澱池ヲ新設セリ

高坂坑 一、一〇〇坪（面積） 深三尺 容積一八、八〇〇立方尺

町田坑第一 九（同） 同三尺

町田坑第二 四〇（同） 同三尺

綴坑 三五（同） 同三尺

水洗機新設ト同時ニ深サ四尺五寸長サ十五間幅七間ノ鐵筋混凝土沈澱池ヲ設ケ用水ヲ反覆使用ス

龜山 福岡

第五坑々外ニ水洗水清澄ノ爲面積百十一坪ノ沈澱池ヲ新設セリ

大之浦 同

水洗機操業ニヨリ沈澱池濾過池方四間ノモノ二箇所三十二坪ヲ新設シ鑛滓ノ處理ヲナス

上山 同

水洗機操業ニヨリ沈澱池濾過池方四間ノモノ二箇所三十二坪ヲ新設シ鑛滓ノ處理ヲナス

二尺長サ二十五尺深サ四尺一個）ヲ増設シ從來ノ沈澱池ヲ通過セル廢泥水ヲ更ニ之等ニ導クコトトセリ、又熔鑛爐排煙用煙突ヲ混凝土造ニ改造シ煙塵室ヲ擴大シ煙道ノ斷面積ヲ増加セリ

記

事

飯塚大浦 福岡 第一坑三尺一坑用トシテ水洗微粉炭沈澱池長サ十九間、幅七間、深サ四尺ヲ三個、長サ十五間四合、幅七間、深サ四尺ヲ二個新設シ第二坑三尺二坑用トシテ長サ十三間五合、幅六間、深サ三尺七寸五分ヲ五個新設セリ
 幅十一間、長サ十六間ノ微粉炭沈澱池一箇所設置セリ
 山内坑ニ於テ水洗炭増加ニ因リ從來ノ沈澱池ニテハ狹隘ニ付混凝土造リ長サ二十間、幅三間、深サ二尺三寸ノモノヲ増築セリ
 第六坑水洗機設置ニ伴ヒ廢水處理ノ爲メ沈澱池(長サ七間、幅三間、深サ五尺、長サ六間、幅四間、深サ六尺、總延長六十四間、幅三尺、深サ五尺)ヲ設置セリ

●發電所 機械力ノ應用進ムニ從ヒ之ガ動力トシテ有利ナル電力ノ利用増加シ逐年自家發電所ノ新設又ハ擴張ヲナスモノ増加セリ、本年中ニ於テ工事ヲ完成シ或ハ工事中ノモノヲ表示スレハ左ノ如シ

(イ) 金 屬 山

鑛山名	府縣名又ハ國名	容 量	原動力ノ種類	備 考
中 神 高 不 尾 轟 瀨 岡 千 倉 澤 兵 岐 新 同 秋 後 庫 阜 湯 田 志		直流 交流	火 力 水 力 水 力 重油發動機	新設(從來ノ水力發電所ノ補助) 有效落差一七〇尺工事中 本量一〇個 新 設 土木工事七分進捗、明年八月竣工ノ豫定 下ノ本坑精米機運轉及點灯用 新 設

(ロ) 石 炭 山

鑛山名	府縣名又ハ國名	容 量	原動力ノ種類	備 考
夕 茂 住 崎 張 尻 友 友 石 同 限 友 狩 同 岡 戸		交流 同	火 力 同	増 設 同 既設發電機ノ内一、〇〇〇、キロワット一臺ヲ撤去セリ

(ハ) 石 油 山

鑛山名	府縣名又ハ國名	容 量	原動力ノ種類	備 考
振 增 幌 老 幌 延 膽 北 天 振 見 鹽		直流 同	火 力 同	新設點灯用 改 設 新設點灯用

(ニ) 其他ノ非金屬山

鑛山名	府縣名又ハ國名	容 量	原動力ノ種類	備 考
幌 利 福 島 振 島		交流 同	水 力 同	新 設 増 設

●汽罐、汽機及蒸汽「タービン」 電力ノ採用ハ近時益々増加ノ傾向ニアリト雖尙自家燃料ヲ有スル石炭、石油及亞炭山

第六章 礦山事業ノ概況
 ニ於テハ熱機關ノ使用依然トシテ衰ヘス、新設又ハ増設セルモノ左ノ如シ

(イ) 金 屬 山

鑛山名	又ハ府縣名	種 類	樣 式	大 小	馬 力 臺 數	備 考
轟	後志	蒸 汽 罐 關	ロコモビール式	四呎五寸	一	新設 發電機用新設
珊	天鹽	石 油 發 動 機	同	四呎	一	新設 發電機用新設
蘭	後志	同	同	四呎	一	新設 發電機用新設
試登第二四六七號	天鹽	同	同	四呎	一	新設 發電機用新設
岩	青森	同	同	四呎	一	新設 發電機用新設
鷺	岩手	吸入瓦斯機關	池貝製ユタカ	三呎	一	新設 發電機用新設
釜	同	同	同	三呎	一	新設 發電機用新設
湯	同	同	同	三呎	一	新設 發電機用新設
不	同	同	同	三呎	一	新設 發電機用新設
池	同	同	同	三呎	一	新設 發電機用新設
鹿兒島	同	同	同	三呎	一	新設 發電機用新設

(ロ) 石 炭 山

鑛山名	又ハ府縣名	種 類	樣 式	大 小	馬 力 臺 數	備 考
住友歌志内	同	同	同	同	同	同
茂	同	同	同	同	同	同
三井美	同	同	同	同	同	同
三井川	同	同	同	同	同	同
三井砂	同	同	同	同	同	同
三井別	同	同	同	同	同	同
尺	同	同	同	同	同	同
昭	同	同	同	同	同	同
大	同	同	同	同	同	同
勿	同	同	同	同	同	同
王	同	同	同	同	同	同
見	同	同	同	同	同	同
國	同	同	同	同	同	同
海	同	同	同	同	同	同
昭	同	同	同	同	同	同
久	同	同	同	同	同	同
中	同	同	同	同	同	同

第六章 礦山事業ノ概況

鑛山名	府縣名	種類	様式	大	サ	馬力	臺數	備考
木屋瀬	福岡	汽	竪ランカシヤ型	三〇	六	三〇	一	浴場用
古河目尾	同	同	煙管式船用	六六	二	六六	一	捲揚機用
新入	同	同	多管式船用	二〇〇	九	二〇〇	一	浴場用
大定	同	同	立置式	八〇	二	八〇	一	抗内排水鐵車捲揚用
住友	同	同	チエリ式	五〇	一	五〇	一	同
網分	同	同	ガール式	七〇	六	七〇	一	發電機増設ノ爲メ
二瀬	同	同	ランカシヤ式	四〇	二	四〇	一	蒸氣タービン用
平山	同	同	イブコックエンドワイルコックシヤ式	七〇	二	七〇	一	同
玄王	同	同	ランカシヤ式	七〇	二	七〇	一	同
山田	同	同	同	二〇	一	二〇	一	同
月坑	同	同	同	二〇	一	二〇	一	同
岩屋	同	同	同	二〇	一	二〇	一	同
東松	同	同	同	二〇	一	二〇	一	同
神田	同	同	同	二〇	一	二〇	一	同

(ハ) 石油山

鑛山名	府縣名	種類	様式	大	サ	馬力	臺數	備考
振老	同	蒸	竪置單筒アイアアル式	三〇	三	三〇	一	改設
厚真	同	同	竪置單筒アイアアル式	九	二	九	一	採油動力増設
幌延	同	同	竪置單筒アイアアル式	九	二	九	一	揮發油採収用新設
石狩	同	同	竪置單筒アイアアル式	三	一	三	一	發電機用新設
油川	同	同	竪置單筒アイアアル式	二	一	二	一	發電機用新設
由利	同	同	竪置單筒アイアアル式	二	一	二	一	掘鑿井用増設
男鹿	同	同	竪置單筒アイアアル式	二	一	二	一	掘鑿井用新設
高鹿	同	同	竪置單筒アイアアル式	二	一	二	一	掘鑿井用
割田	同	同	竪置單筒アイアアル式	二	一	二	一	同

鑛山名	府縣名 又ハ國名	種類	樣式	大		馬力	臺數	備考
				徑	深			
香取		同	同	四・六	二・〇		一	掘鑿井用
與板		同	同	四・〇	二・一		一	同
刈羽		同	同	四・〇	二・二		一	同
山西		同	同	四・〇	二・二		一	同
安通		同	同	六・〇	二・七		一	同
新田		同	同	六・〇	二・七		一	同
新潟		同	同	六・〇	二・八		一	同
西山		同	同	四・〇	二・八		一	同
割町		同	同	六・〇	二・七		一	掘鑿井用
新潟		同	同	六・〇	二・五		一	同

(ニ) 其他ノ非金屬山

鑛山名	府縣名 又ハ國名	種類	樣式	大		馬力	臺數	備考
社井別		罐類		徑	深			
一松	同	同	同	三・一	一・〇		一	掘鑿井用
幌別		同	同	二・六	一・〇		一	同
愛知		同	同	一・〇	八・五		一	同
汽機		同	同	二・四	七・二		一	同
關車		同	同	二・五	八・〇		一	同
罐類		同	同	二・〇	七・二		一	同
外焚		同	同	二・四	七・二		一	同
多管		同	同	二・五	七・二		一	同
管式		同	同	二・四	七・二		一	同

(三) 新ニ事業ニ着手シタル鑛山

新ニ事業ニ着手シタル鑛山ニシテ主ナルモノヲ列記スレバ左ノ如シ

鹿折鑛山 金銀 宮城縣本吉郡鹿折村 古賀康造

久シク休業中ノ處三月ヨリ舊搗鑛々洋ノ簡單ナル青化製鍊ヲ開始シ一ケ月青金約三百斤ノ産額ヲ見ルニ至レリ明年三月ヨリハ坑内ノ探鑛並ニ採鑛ヲ開始スルト共ニ其ノ鑛石ヲ搗鑛製鍊ニ附スヘキ計畫ニテ既ニ搗鑛製鍊場ノ設置工事ニ着手セリ、搗鑛機ハ六百五十封度五本立ヲ使用シ其ノ動力ハ「ベルトン」水車ニ據ル豫定ナリ

- 尙操業中ノ青化製鍊設備ハ左ノ如シ
- 原液槽 徑五尺 深五尺 二箇
 - 浴解槽 徑十尺 深四尺 三箇
 - 貴液槽 徑二尺五寸 深二尺五寸 一箇
 - 受液槽 徑五尺 深五尺 一箇
 - 亞鉛箱 長七尺一寸 高一尺五寸 巾一尺四寸 二箇
 - ポンプ 松田式 一箇

河内鑛山 (試登第二〇五八號) 金銀銅 栃木縣河内郡羽黒村 富田末學

一月舊坑ノ取明ケニ着手シ三月三號坑ニ於テ五月一號坑ニ於テ富鑛帶ヲ發見シ採鑛ヲ開始セリ
鑛床ハ石英粗面岩中ニ胚胎スル合金銀ノ石英脈ニシテ走向百三十度、傾斜北十度乃至三十度、脈幅五尺乃至二十餘尺アルモ探掘ニ耐ユルモノハ二―三尺ニシテ本年中ニ合金十萬分ノ二、含銀十萬分ノ四二・八ノモノ十一萬二千五百貫ヲ採掘セリ

河守鑛山 (京都府試登第二二五〇號) 金銀銅 京都府加佐郡河守上村外一郡一村 日本産業株式會社

本年八月事業ニ著手セリ鑛床ハ蛇紋岩中ニ胚胎スル數條ノ鑛脈ニシテ扁豆狀ヲ呈シ鑛巾數寸ヨリ二尺ニ及フモノアリ鑛石ハ主トシテ黃銅鑛ヨリナルモ稍々多量ノ磁鐵鑛ヲ伴フヲ特徵トシ含銅七乃至一〇%ヲ示セリ
著手以來探鑛ハ二坑及三坑ヲ通シテ又探鑛ハ二坑ニ於テ之ヲ行ヒ著々操業ノ歩ヲ進メ銅鑛一ヶ月一五〇噸ノ產額ヲ見ルニ至レリ

尙ホ次年度ニ於テハ探掘鑛區トナシ選鑛場輕便索道運鑛車道等ノ建設ヲ計リ益々事業ノ發展ニ努ムル豫定ナリ
半田鑛山 銅硫化鐵 德島縣美馬郡中田町外二村 日本産業株式會社

大正十二年以來休業中ナリシガ本年現鑛業權者ノ有ニ歸スルト共ニ九月一日事業ヲ開始セリ、鑛床ハ結晶片岩系ニ屬スル綠泥片岩中ニ胚胎スル含銅硫化鐵鑛ニシテ走向北七十度東、傾斜北西ニ三五度乃至四五度ヲ示シ走向ニ長ク連續シ鑛巾二尺五寸乃至三尺ナレトモ中央部ハ緻密ナル硫化鐵鑛ヨリナリ其上下兩側ニ厚サ五寸含銅品位二%乃至五%ノ鑛石ヲ伴フモノトス

著手以來稼行中ナルハ高濤坑ニシテ本年中ハ專ラ取開ケニ從事シ其傍ラ本坑地並及ビ掘下リノ殘鑛ヲ探掘セルモノニシ

テ本年末迄ニ約二〇〇噸ノ出鑛ヲ見タリ

尙次年度ニ於テハS、L、M「ロータリーコンプレッサー」一臺ヲ新設シ鑿岩機ヲ以テ大規模ノ探鑛ヲ行ハントシ目下準備中ナリ

穴内鑛山 探登第二二八號 滿庵 高知縣長岡郡天坪村外一村 石原鑛業合資會社

本年一月事業ニ著手セリ、鑛床ハ秩父古生層中ニ胚胎スル菱滿庵鑛ニシテ金屬滿庵二二%乃至四四%ヲ示シ脈巾一定セザルモ相當大ナリ

露頭ノ分布極メテ廣ク就中穴内部落附近ニ於ケルモノ有望ニシテ現在該方面ヲ稼行中ナリ探鑛方法ハ專ラ露天掘ニ據リタルモ最近坑内掘ヲ採用シ鑛体ノ下部ニ於テ探鑛ヲ兼テ將來ノ探鑛準備トシテ開坑掘進セシニ鑛況益々良好トナレリ
尙將來ニ於テハ從來ノ露天掘ヲ廢シ坑内掘ニ改ムルト共ニ手掘ノ一部ヲ鑿岩機掘ニ代ヘ一方坑外運搬施設モ亦從來ノ木馬自働輕便索道及馬車ヲ廢シ軌道及自働傾斜捲ヲ設ケ更ニ輕便軌道ヲ敷設シタル上汽關車運轉ヲ開始セント計畫中ナリ

石炭山

王子炭礦 山口縣宇部市 水上寅藏

當鑛區内ノ五ツ段及大派層ハ既ニ大部分昔時探掘セラレタルヲ以テ其ノ下層ニ在ル三尺層(炭層厚サ二尺八寸内外)探掘ノ目的ヲ以テ九月ヨリ事業ニ着手セリ

三尺層露頭際ニ於テ鑿坑内徑五尺六寸ノモノ二個ヲ開鑿シ深サ七十五尺ニテ着炭セリ依テ主要坑道ノ掘進ヲナシ相當事業ノ進捗ヲ見「エバンス」式唧筒三十四馬力三臺、八吋蒸氣捲揚機一臺、汽罐「コルニツシユ」式徑六呎六吋長サ十二呎ノモノ及船用徑六呎長サ十二呎ノモノ各一臺ヲソレソレ設置セリ

第二長門起業炭礦 石炭 山口縣厚狹郡高千帆村 長門起業炭礦株式會社

五月事業ニ着手シ堅坑、斜坑、捲揚機、唧筒等坑内外ノ諸設備ニ取り掛カリ六月全部完成採炭ヲ開始セリ主ナル設備トシテハ排水唧筒十馬力「スベシアル」一臺及二十馬力捲揚機一臺ナリ

昭和炭礦 石炭 福岡縣糟屋郡宇美町 山崎和三郎

炭層ハ上部ヨリ「アセモ」炭、「ダングラ」炭、七「ヘダ」炭、天井石炭、強穂炭、助穂炭、赤石炭、鬼石炭、川石炭、舟石炭、一重二重炭ノ十一炭層ヲ含ミ走向百二十度ニシテ傾斜ハ露頭部ニ於テ二十五度ナルモ深度ニ隨テ緩トナル

第一坑ハ一月開坑シ二月「アセモ」層ニ着炭セリ第二坑ハ二月舊坑道取明ケ工事ニ着手セルモ九月一時中止セリ、第三坑ハ二月舊坑取明ケ工事ニ着手シ九月ヨリ舟石炭ノ採掘ヲ開始シタリ採掘法ハ前進式長壁法ナリ

坑内外ノ主ナル設備トシテハ「インガール」五十馬力壓氣機一臺、「ベンシルバニヤ」七十馬力壓氣機一臺、「デンバー」鑿岩機八臺、「タービン」唧筒七十馬力一臺、同三十二馬力三臺、同十馬力一臺、坑内運搬用汽筒徑十四吋蒸氣捲揚機一臺、同百馬力電氣捲揚機一臺、坑外運搬用汽筒徑十二吋蒸氣捲揚機一臺、「シロツコ」式扇風機排氣量二萬立方呎一臺、同一萬立方呎一臺、鑿型鐵板運炭機能力一日五百噸一臺、共益社式水洗機能力一時間三十五噸一臺、沈澱池二個、「ランカシヤ」式汽罐徑七呎長サ二十五呎一基、同徑七呎長サ二十八呎一基、「ガロウエーチユーブ」式汽罐徑七呎長サ二十五呎一基等ヲ設置セリ

月限第二坑 石炭 福岡縣筑紫郡席田村 東 秀保

四月事業ニ着手シ斜坑ヲ開鑿シ延長十九間弱ニシテ目的炭層タル厚サ二尺五寸ノ「ワラシ」層ニ着炭セリ捲揚並ニ排水ノ爲メ徑四呎十吋半高サ十呎ノ鑿型汽罐一臺、汽筒徑八吋「スベシアル」唧筒一臺、汽筒徑八吋蒸氣捲揚機一臺ヲ新設セリ

東松島炭礦 石炭 長崎縣西彼杵郡松島村 堀 三太郎

炭層ハ約二百尺ノ距離ノ間ニ二尺(炭丈二尺)、五尺(同上三尺)、三尺(同上二尺)、四尺(同上三尺五寸)ノ四層アリ其内主トシテ二尺、五尺、三尺ヲ稼行ス、四月事業ニ着手シ舊坑ヲ修繕シ十月坑口ヨリ二百間ニテ目的炭層ニ着炭前進式長壁法ニヨリ採炭ヲナス、坑内ニ於テハ汽筒徑十二吋「エバンス」唧筒一臺、同十八吋二臺、坑口迄ノ捲揚用トシテ十二吋蒸氣捲揚機一臺、同八吋一臺ヲ新設シ之等ノ動力用トシテ徑五尺長サ二十六尺ノ「コルニツシユ」式汽罐一基、徑七尺長サ三十尺ノ「ランカシヤ」式汽罐二基ヲ新設セリ明年度ニ於テハ第二斜坑ヲ開鑿シ動力用トシテ三百「キロ」火力發電機設置ノ筈

鷺尾嶽炭礦 石炭 長崎縣北松浦郡吉井村佐々村江迎村 松井小右衛門

目的炭層タル大潮層ハ厚サ二尺七寸乃至三尺五寸ニシテ其夾雜物ヲ除ク時ハ有價炭厚平均一尺七寸トス、五月事業ニ着手シ第一坑ハ水平坑道ニシテ坑口ヨリ十一間餘ニシテ着炭セリ第二坑ハ五十七間ニシテ豫定ノ炭層ニ着炭スヘシ

神田炭礦 石炭 長崎縣北松浦郡吉井村佐々村 靜 馨

二月事業ニ着手シ本卸ヲ開鑿中ニシテ坑口ニ汽筒徑十二吋蒸氣捲揚機ヲ本卸詰ニ二十馬力揚程二百尺揚水量毎分二十立方呎「タービン」唧筒一臺ヲ各設置シ尙ホ徑六呎長サ二十六呎ノ「ランカシヤ」式汽罐ヲ設置セリ

(ハ) 石 油 山

梶延嶺山 天鹽國試登 石油 天鹽國天鹽郡梶延村 日本石油株式會社

一月ヨリ事業ニ着手シ網掘井一號ヲ選定開坑セリ本坑井ハ石油試掘獎勵金ノ交付ヲ受ケタルモノニシテ豫定深度一、一〇〇米ナリ、年末迄ノ深度八七六米ニシテ豫定深度ニ達スルニハ尙二ヶ月ヲ要スル見込ナリ、坑井掘進用其他ノ動力ト

シテ汽罐一臺、汽機二臺、點燈用トシテ「キロワット」發電機一臺ヲ設置セリ
日高鑛山 日高國試登第五七四號 石油 日高國新那冠村 日本石油株式會社

十二月ヨリ事業ニ著手シ網掘井一坑ヲ選定開坑セリ本坑井ハ石油試掘獎勵金ノ交付ヲ受ケタルモノニシテ年末深度一四・六米ニシテ銳意掘進中ナリ、尙掘進用動力トシテ汽罐一臺、汽機一臺ヲ設置シタリ又現在ハ公害ノ憂ナキモ油井直屬ノ泥溜一個ヲ設置セリ

刈羽鑛山 (採登第八六〇號) 石油 新潟縣刈羽郡刈羽村 中野興業株式會社

當鑛區ハ日本石油株式會社割町及高町兩鑛山ノ間ニ介在スルモノニシテ兩鑛山鑿井ノ成功ニ鑑ミ三月二十五日ロ式一號井ノ開坑ニ着手シ七月一日深度六百六十間ニテ掘止メタルニ當時ノ日産二十五石ヲ得タルヲ以テ引續キ開坑ヲ爲シ年末迄ニ計四本ノ成功井ヲ得タリ

之ガ着手及掘止年月日掘止深度成功當時ノ出油量等ヲ表示スレバ左ノ如シ

坑井番號	着手年月日	掘止年月日	掘止深度	成功當時日產量	備考
ロ式一	三、三、二五	三、七、一	六六〇	二五	ボイメ三八
ロ式三	三、八、三	三、九、二七	六四五	一三〇	
同五	三、九、一六	三、一二、一八	六四九	五〇	
同六	三、一、一	三、一二、二二	六五〇・五	一〇〇	

此等成功井本年中ノ產油高ハ一萬六千六百六十石ニ達シ一躍重要鑛山トナレリ

產油ハ一旦高所ニ設置セル容量五千石ノ鐵槽ニ集メ此所ヨリ南方一里ノ西中通新津製油所迄三吋鐵管ヲ敷設シ流送販賣

セリ

割町鑛山 (試登第九三四五號) 石油 新潟縣刈羽郡刈羽村 日本石油株式會社

試登第九三四二號鑛區内鑿井ノ成功ニ鑑ミ當鑛區ニ於テモ五月二十二日鑿井(割町ロ式五號)ニ着手シ七月一日深度千七百七十二米ニテ掘止メ日産十六疋餘ノ出油ヲ見更ニ十月一日鑿井(割町ロ式九號)ニ着手シ十一月六日深度千八百八十米ニテ掘止メ日産十五疋餘ノ出油ヲ見タリ

右兩井ノ本年中ノ出油量ハ二千九百六十七石六斗三升(ボイメ三十九度)ニ達シタリ

西中通鑛山 (試登第九四四號) 石油 新潟縣刈羽郡西中通村外一 日本石油株式會社

高町油帶ノ走向ヲ探ル爲メ西中通村大字山本字砂山ニ豫定深度千八百米トシテ九月九日開坑ニ着手セル西中通ロ式一號井ハ二百二十六米ニテ少量ノ瓦斯アリ千六十八米ニテ油氣アリ千九十六米、千五百五十二米及千三百四十米ニテ瓦斯アルヲ以テ一先ヅ千四百六十米ニテ掘進ヲ停止シ目下試油中ナリ

米山鑛山 (試登第九八一〇號) 石油 新潟縣中環郡米山村 日本石油株式會社

米山村大字小萱字草生水ニ於テ二月三日開坑ニ着手セル米山ロ式第一號井ハ深度百六十五米及二百二十米ニ於テ少量ノ瓦斯アリ更ニ六百四十米ノ凝灰質灰色頁岩ニテ二千五百立方尺ノ瓦斯アリ目下掘進中ナリ

香取鑛山 (試登第一八〇〇號) 石油 長野縣北安曇郡七貴村 香取利兵衛

石油試掘獎勵金交付坑トシテ七貴村字萩原地内ニ十一月五日網式一號井ノ開坑ニ着手シ豫定深度六百米ノ内年末深度百二十三米ニ達シ順調掘進中ナルガ深度六十一米ニ於テ瓦斯及油氣アリタリ

(ニ) 其他ノ非金屬山

田頭嶺山 硫黃 岩手縣岩手郡松尾村 菅野長知

本嶺山ハ西岩手火山々頂ニ位シ大地嶺谷ニ賦存スル硫黃鑛床ノ探掘ヲ企テ燒取製鍊釜一基ヲ設置シ八月製鍊ヲ開始シタ
リ然レトモ創業日尙淺ク諸般ノ設備整ハサル爲メ本年度ニ在リテハ僅ニ二十七噸ノ製品ヲ産シタルニ過キス更ニ製鍊釜
二基ノ増設ヲ行ヒ産額ノ増加ニ努ムル計畫中ナリ
其他新ニ事業ニ著手シタル嶺山ヲ記スレバ左ノ如シ

北海道

登錄番號	礦種名	位	礦業權者	着手月	登錄番號	礦種名	位	礦業權者	着手月
探 (三六)	金銀銅鉛	關根國山越郡八雲村	大場富太郎	八月	探 (北三)	石	石狩國空知郡砂川村	合資北光炭礦會社	七月
試 (三六)	石	同 勇拂郡厚真村	日本石油株式會社	七月	試 (北三)	金	同 札幌郡厚真村	佐藤吉之進	一月
同 (三六)	金	同 千歲郡惠庭村	横山 貞	十月	試 (北三)	石	同 空知郡美瑛村	上村 七松	十二月
同 (三六)	金銀銅鉛	同 虻田郡真狩村	中井 俊雄	八月	同 (北三)	金	同 上川郡愛別村	阿部 徳藏	六月
同 (三六)	金銀銅鉛	同 山越郡長萬部村	藤野 矢吉	十一月	同 (北三)	石	同 札幌郡豐平村	飯島 貫一	六月
同 (三六)	鐵	同 虻田郡倶知安村	山本夏太郎	六月	同 (北三)	亞鉛	同 北見國網走郡津別村	小川 〆レノ	四月
同 (三六)	鐵	同 虻田郡古宇都泊村	川野新五郎	十月	同 (北三)	金	同 常呂郡留邊村	島居 秀幹	七月
同 (三六)	鐵	同 余市郡大江村	清水寛太郎	六月	同 (北三)	石	同 網走郡網走村	加藤 泰治	十月

青森縣

登錄番號	礦種名	位	礦業權者	着手月	登錄番號	礦種名	位	礦業權者	着手月
同 (一六)	石	同 天鹽國上川郡下川村	三井礦業株式會社	五月	同 (一六)	石	同 釧路國釧路郡昆布村	細川 幸藏	二月
同 (一六)	炭	同 釧路國釧路郡昆布村	濱口 儀兵衛	四月	同 (一六)	炭	同 同川上郡弟子屈村	長井 太作	五月

岩手縣

登錄番號	礦種名	位	礦業權者	着手月	登錄番號	礦種名	位	礦業權者	着手月
探 (三五)	硫黃	下北郡大畑村	宮 幸助	九月	探 (清水)	鐵	中津輕郡清水村	北川 中十郎	五月
同 (三五)	硫黃	同 郡川内町	株式會社	七月	同 (清水)	鐵	南津輕郡山形村	片村 庄次郎	九月
同 (三五)	鐵	同 郡川内町	株式會社	十一月					

登錄番號	礦種名	位	礦業權者	着手月	登錄番號	礦種名	位	礦業權者	着手月
探 (三五)	鐵	下閉伊郡花輪村	河村 限太郎	二月	試 (三五)	亞鉛	江刺郡玉里村外一	佐々木中之助	二月
同 (三五)	鐵	同 和賀郡湯田村	矢澤 和一郎	十月	同 (三五)	鐵	同 下閉伊郡岩泉村外一	日本產業株式會社	二月
同 (三五)	鐵	同 上閉伊郡小友村	東野 耕造	五月	同 (三五)	鐵	同 郡田老村	同	同
試 (三五)	鐵	同 氣仙郡世田米村	千田 紋兵衛	三月	同 (三五)	鐵	同 西閉伊郡葛瀨村	山本 繁治	十月

試 二〇三	鐵種名	備	備須郡境村	柴田福太郎	五月	試 二〇六	金銀鉛	上野賀郡足尾町	曲輪宗吉	七月
同 (石製)			上野賀郡加蘇村	川津義道	十月	同 二〇六	金銀銅鉛	上野賀郡玉生村	石川文之助	九月

群馬縣

鐵山名號	鐵種名	位	鐵種名	位	鐵種名	位	鐵種名	位	
探 犬 硫	黃	吾妻郡津町	(代表者)	着手七 月	鐵山名號	鐵種名	位	鐵種名	位
同	亞	群馬郡片岡村	佐藤清次郎	七月	試 一、五	備	備	備	備
同 (上州)		群馬郡片岡村	川崎三喜雄	四月	同	硫	備	備	備
試 一、五	備	勢多郡保根村	高久馨	一月	同	備	備	備	備
同	備	勢多郡保根村	高久馨	四月	同	備	備	備	備
同	備	勢多郡保根村	高久馨	四月	試 一、三	備	備	備	備
同	備	勢多郡保根村	高久馨	四月	同	備	備	備	備

埼玉縣

鐵山名號	鐵種名	位	鐵種名	位	鐵種名	位	鐵種名	位	
試 三	炭	入間郡香野村	(代表者)	着手七 月	鐵山名號	鐵種名	位	鐵種名	位
		高橋徳治郎	五月						

東京府

鐵山名號	鐵種名	位	鐵種名	位	鐵種名	位	鐵種名	位	
試 五	炭	西多摩郡増戸村	(代表者)	着手七 月	鐵山名號	鐵種名	位	鐵種名	位
		五日市町大久野村	五月						
		五日市町大久野村	八月						
		五日市町大久野村	八月						
		五日市町大久野村	八月						

新潟縣

鐵山名號	鐵種名	位	鐵種名	位	鐵種名	位	鐵種名	位	
探 (刈羽)	油	刈羽郡刈羽村	(代表者)	着手七 月	鐵山名號	鐵種名	位	鐵種名	位
試 (庄川)	同	南蒲原郡長津村	同	十月	同	同	同	同	
同	同	南蒲原郡長津村	同	同	同	同	同	同	
同	同	南蒲原郡長津村	同	同	同	同	同	同	
同	同	南蒲原郡長津村	同	同	同	同	同	同	
同	同	南蒲原郡長津村	同	同	同	同	同	同	
同	同	南蒲原郡長津村	同	同	同	同	同	同	
同	同	南蒲原郡長津村	同	同	同	同	同	同	
同	同	南蒲原郡長津村	同	同	同	同	同	同	

山梨縣

鐵山名號	鐵種名	位	鐵種名	位	鐵種名	位	鐵種名	位	
試 (上野原)	炭	北都留郡上野原村	(代表者)	着手七 月	鐵山名號	鐵種名	位	鐵種名	位
		山田隆	一月						

長野縣

鐵山名號	鐵種名	位	鐵種名	位	鐵種名	位	鐵種名	位	
試 一、七	石	東筑摩郡本城村	(代表者)	着手七 月	鐵山名號	鐵種名	位	鐵種名	位
		窪田重泰	五月						
		窪田重泰	五月						
		窪田重泰	五月						
		窪田重泰	五月						

試 一、八三	石炭	東筑前郡生坂村、 坂北村	野口庄一郡	二月	試 一、八六	黒鉛	上伊那郡伊那町	伊藤榮治郎	十月
同	同	更級郡東郷村	酒井喜代一郡	五月	同	同	東筑前郡波多村	天野彦太郎	八月

岐阜縣

試 三、六五 (下呂)	銀	益田郡下呂町	彦坂惣七	三月	試 三、六九 (奥山)	銅	武儀郡金山町	河合益一	十二月
同 三、七五	同	可兒郡豐岡町	間宮源市	一月	同 三、七五	同	郡上郡下川村	河合壽作	九月
同 三、七五 (同吹)	同	武儀郡富之保村 上郡下川村	昭和鐵業 合資會社	一月	同 三、七五	鋼	加茂郡黒川村	株式會社	四月
同 三、七五 (松田)	同	武儀郡中之保村	白石琢二	九月	同 三、七五	同	山縣郡原村	石川富士松	十一月
同 三、七六	同	本巢郡根尾村	由良英三	四月	同 三、七六 (各務)	同	加茂郡山之上新 稻妻郡各務村	北川治郎	九月
同 三、七八	同	郡上郡下川村	高橋正	三月			西川松藏	十二月	

静岡縣

試 一、七〇 〇	金	賀茂郡下河津村 濱村	河野政廣	一月	試 一、七六	金銀銅硫化鐵	磐田郡山香村	株式會社	八月
同 一、七九	同	引佐郡氣賀町	古橋つれ	五月					

愛知縣

試 八三	亞炭	東春日井郡旭村、 志段味村	神林秀吉	八月	試 八三 (金山)	亞炭	東春日井郡藤岡村	齋平三郎	七月
同 八三 (金山)	同	八名郡石巻村	齋藤武市	一月	同 八三	金銀銅鉛亞鉛	丹羽郡池野村	大橋光子	八月
同 八三	同	知多郡河和村、 海村	久米治吉	三月	同 八三	同	知多郡河合村小鈴 谷村、富貴村	石田清松	十一月
同 八三	同	知多郡須賀町、 上野村	羽場輝四郎	四月					

石川縣

採 二二 (瀨風)	滿	鹿島郡四岸村	野崎仁太郎	七月	採 二二 (黒崎)	滿	鹿島郡南大谷村北 大谷村	河村仁太郎	四月
同 二二 (新瀨風)	同	同	大岡孝能	七月	同 二二	同	同郡中ノ島村、 西島村	合北陸滿 會社	八月
同 二二 (黒崎)	同	同	同	四月	同 二二	同	同	同	八月

福井縣

試 一〇、一〇	石炭	大野郡上庄村	石井文彌	八月	試 一〇、一〇	銀銅硫化鐵	遠敷郡中名田村	山本婦美	十二月
------------	----	--------	------	----	------------	-------	---------	------	-----

三重縣

鑛山名	鑛種名	位	置	鑛業權者	着手月	鑛山名	鑛種名	位	置	鑛業權者	着手月
試 一、〇〇一	炭	員辨郡笠田村		(代表者)	八月	試 一、〇〇六	鑛	度會郡種原村		(代表者)	八月
同 一、〇〇二	同	名賀郡藏持村、葛原村		黒川惣太郎	九月					滑道俊吉	四月

滋賀縣

鑛山名	鑛種名	位	置	鑛業權者	着手月	鑛山名	鑛種名	位	置	鑛業權者	着手月
試 六七	鑛	甲賀郡貼河村		(代表者)	八月					(代表者)	八月
				丹羽正義	十一月						

京都府

鑛山名	鑛種名	位	置	鑛業權者	着手月	鑛山名	鑛種名	位	置	鑛業權者	着手月
探 (小屋ノ谷)	鑛	船井郡高取村		(代表者)	八月	試 二、三三三	鑛	船井郡五ヶ莊村		(代表者)	八月
同 二、三三三	同	同 郡胡麻郷村		白石 琢二	六月	同 二、三三九	同	葛野郡梅ヶ畑村		糖見 兼七	四月
同 二、三三六	同	同 郡賀美村三宮		小吉啓太郎	三月	同 二、三三六	金	加佐郡上宮津村		新井 進	三月
同 二、三三七	同	同 郡五ヶ莊村		川瀬武右衛門	三月	同 二、三三三	同	同 郡河守上村		株式會社	八月
同 二、三三六	同	同 郡高取村		奥瀬 與平	一月	同 二、三三六	鑛	北榮田郡周山村		岡田千之助	一月
同 二、三三七	同	同 郡高取村		岡本竹松	三月	同 二、三三三	同	同 郡知井村		屋井先藏	三月

大阪府

試 二、三三三	鑛	船井郡吉富村		波邊 周市	一月	試 (河守)	鑛	加佐郡河守上村		株式會社	九月
同 二、三三六	同	北榮田郡弓削村、平屋村		奥瀬 與平	三月	同 (大島)	金	天田郡上川口村、下川口村		石川 鏡太郎	五月
同 二、三三六	同	同 郡平屋村、知井村		神能 外範	五月	同 二、三三三	同	船井郡賀美村、三宮村		湊 与一	六月
同 二、三三六	同	同 郡細野村、宇津村		高田 順一	五月	同 二、三三六	同	北榮田郡大野村		花井 金五郎	七月
同 二、三三六	同	船井郡麻氣村、東本梅村		下司 喜市	五月	同 二、三三二	同	同 郡同村		柴田 子カ	十二月
同 二、三三六	同	同 郡世木村		安部 磯八	三月	同 二、三三三	鑛	加佐郡河守上村		株式會社	八月

兵庫縣

鑛山名	鑛種名	位	置	鑛業權者	着手月	鑛山名	鑛種名	位	置	鑛業權者	着手月
探 (赤松)	金	赤穂郡赤松村		(代表者)	八月	試 三三三	金	豐能郡泰野村		(代表者)	八月
試 (小河江)	金	城崎郡奈佐村、八代村		柴田 言寛	二月			小野 實		小野 實	六月
				桐山松之助	二月					(代表者)	八月
										波邊 太吉	四月
										寶壽株式會社	二月

試 二、四八六	同	同	同	同	同	同	同	同	同	試 二、四八八 (江原)	金銀銅鉛也	城崎郡三方村	別所 吉松	八月	試	二、四九六	金銀銅錫重石	朝來郡山口村	門野淺之助	五月
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	格魯誤銀	美父郡關宮村	中西 牛兵衛	六月	同	二、四九六	金銀銅錫	同 郡中川村	四方 繁吉	七月
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	金銀	朝來郡山口村	門野 淺之助	三月	同	二、四九四	金銀銅錫重石	同 郡山口村	同	七月
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	金銀銅錫重石	美父郡關宮村	今井 喬太郎	三月	同	二、四五五	金	城崎郡五莊村	河本 壽四郎	十二月
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	格魯誤銀	水上市郡國領村多紀 郡大山村	緒貫 重吉	三月	同	二、四五五	金	同 郡中竹野村	山本 龜吉	八月
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	格魯誤銀	赤穂郡鞍馬村、赤 松村	小谷 丹治	十一月	同	二、五五七	格魯誤銀	美父郡關宮村	井澤 清兵衛	十月
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	金銀銅亞鉛	養父郡赤井村	中村 兵助	四月	同	二、五五七	金銀銅重石	朝來郡山口村	米田 角藏	十月
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	金銀	美父郡赤井村	小西 力松	七月	同	二、五五七	金	城崎郡津村美 方郡津村	遠藤 平八郎	十月
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	銅硫化鐵	伊都郡見好村	同	七月	同	二、五五七	金	同	同	同

奈良縣

試 二、四八七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	試 二、四八七	銅硫化鐵	伊都郡見好村	水政 政十郎	四月	試	二、四八七	同	同 郡河根村	喜多河 新次郎	十一月
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	水	字陀郡宇太村	同	同	同	同	同	同	同	同

和歌山縣

試 二、四八七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	試 二、四八七	銅硫化鐵	伊都郡見好村	水政 政十郎	四月	試	二、四八七	同	同 郡河根村	喜多河 新次郎	十一月
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	水	字陀郡宇太村	同	同	同	同	同	同	同	同

鳥取縣

試 二、四八七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	試 二、四八七	銅硫化鐵	伊都郡見好村	水政 政十郎	四月	試	二、四八七	同	同 郡河根村	喜多河 新次郎	十一月
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	水	字陀郡宇太村	同	同	同	同	同	同	同	同

島根縣

試 二、四八七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	試 二、四八七	銅硫化鐵	伊都郡見好村	水政 政十郎	四月	試	二、四八七	同	同 郡河根村	喜多河 新次郎	十一月
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	水	字陀郡宇太村	同	同	同	同	同	同	同	同

岡山縣

試 二、四八七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	試 二、四八七	銅硫化鐵	伊都郡見好村	水政 政十郎	四月	試	二、四八七	同	同 郡河根村	喜多河 新次郎	十一月
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	水	字陀郡宇太村	同	同	同	同	同	同	同	同

廣島縣

試 二、四八七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	試 二、四八七	銅硫化鐵	伊都郡見好村	水政 政十郎	四月	試	二、四八七	同	同 郡河根村	喜多河 新次郎	十一月
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	水	字陀郡宇太村	同	同	同	同	同	同	同	同

探 （長谷） （四）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
探 （牛田） （五）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
試 （一、二、六）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
探 （牛田） （五）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
試 （一、二、六）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
探 （牛田） （五）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
試 （一、二、六）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月

探 （牛田） （五）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
試 （一、二、六）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
探 （牛田） （五）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
試 （一、二、六）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
探 （牛田） （五）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
試 （一、二、六）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月

試 （三）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
探 （豐茂） （一）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
同 （上野） （一）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
同 （大野） （一）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月

試 （三）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
探 （豐茂） （一）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
同 （上野） （一）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
同 （大野） （一）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月

試 （三、七、八） （坊泰）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
同 （三、七、三）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
同 （三、七、七） （金比羅）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
試 （三、七、八） （坊泰）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
同 （三、七、三）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
同 （三、七、七） （金比羅）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月

探 （倉川） （一）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
同 （一、〇、六）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
探 （倉川） （一）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
同 （一、〇、六）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月

探 （赤瀬） （三）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
同 （國木山） （六）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
同 （東陽） （三）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
探 （原） （三）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
同 （櫻崎） （五）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
探 （赤瀬） （三）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
同 （國木山） （六）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
同 （東陽） （三）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
探 （原） （三）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月
同 （櫻崎） （五）	鑛山名	鑛種名	位	置	（代表者）	着手月

福岡縣			佐賀縣			長崎縣		
探	登	試	探	登	試	探	登	試
採	採	試	採	採	試	採	採	試
(外務)	山	採	(立岩)	山	採	(木場山)	山	採
採	採	採	採	採	採	採	採	採
亞鉛 銀銅 鉛鋅	鐵 鐵 鐵	鐵 鐵 鐵	鐵 鐵 鐵	鐵 鐵 鐵	鐵 鐵 鐵	鐵 鐵 鐵	鐵 鐵 鐵	鐵 鐵 鐵
亞鉛 銀銅 鉛鋅	鐵 鐵 鐵	鐵 鐵 鐵	鐵 鐵 鐵	鐵 鐵 鐵	鐵 鐵 鐵	鐵 鐵 鐵	鐵 鐵 鐵	鐵 鐵 鐵
四白杵郡岩戸村	竹内令郎	九月	竹内令郎	九月	九月	九井直記	十一月	九月

熊本縣		
探	登	試
採	採	試
(朝日)	山	採
採	採	試
石 炭	石 炭	石 炭
北松浦郡大野村	田川チカ	十一月
同(朝日)	靜	二月

大分縣		
探	登	試
採	採	試
(千懸)	山	採
採	採	試
滿 炭	滿 炭	滿 炭
北海郡津久見町	白石塚二	一月
同(千懸)	渡邊俊雄	一月

宮崎縣		
探	登	試
採	採	試
(城山)	山	採
採	採	試
同	同	同
大野郡小野市村	矢野富四郎	九月
同(城山)	共同齋延藏	七月

探		
採	登	試
(外務)	山	採
採	採	試
亞鉛 銀銅 鉛鋅	鐵 鐵 鐵	鐵 鐵 鐵
亞鉛 銀銅 鉛鋅	鐵 鐵 鐵	鐵 鐵 鐵
四白杵郡岩戸村	竹内令郎	九月

鹿兒島縣

鑛山名	鑛種名	位	置	鑛業權者 (代表者)	着手月	鑛山名	鑛種名	位	置	鑛業權者 (代表者)	着手月
探 (諏訪) 同 (松野川内)	金	川邊郡枕崎町	長野茂	十一月	探 (片茂) 同 (濱里)	銅	給良郡東國分村	島津榮藏	九月		
金	銀	薩摩郡南平田村	元山藤太郎	十月	試 (濱里)	備	大島郡三方村	渡部源太郎	三月		

(四) 事業ヲ擴張シ又ハ擴張ニ着手シタル鑛山

事業ヲ擴張シ又ハ擴張ニ着手シタル主ナル鑛山ニ就キ其ノ概況ヲ記スレハ左ノ如シ

(イ) 金 屬 山

鑛山 金銀 後志國金市郡赤井川村 田中鑛業株式会社

前年末ニ達着セル秀越本脈ノ坑道探鑛ヲ行ヒ總延長三五五米ニ達セリ此ノ脈幅ハ三米乃至八米ニシテ方解石及二酸化滿
 俺ノ多量ヲ夾雜スルニモ拘ハラズ總平均品位金十萬分ノ二、銀萬分ノ九ヲ示シ目下掘進中ナルカ脈勢依然トシテ衰ヘス
 甚タ巨大ナル鑛体トノ見込ナリ、又秀越東坑、一坑、本脈坑ノ下部探鑛ノ爲メ東坑ノ鑛体ヨリ約八〇米下底ニ通洞坑ヲ
 開坑シ延長六〇八米ヲ掘進セルカ坑口ヨリ四四五米附近、一坑ノ下部ニ該當スル點ニテ脈幅狭キモ平均品位金十萬分ノ
 六、銀萬分ノ十五ナル鑛脈ニ會セリ尙掘進中ニシテ現在引立ヨリ約一二〇米ニシテ秀越本脈ノ下部ニ達スル豫定ナリ秀
 越本脈ハ脈幅廣キヲ以テ之ヲ「シユリンケージ法」ニヨツテ探鑛スルコトトシ且ツ機械掘ヲ主トスル計畫ニテ「ストーパ
 ー」二臺ヲ増設セリ
 本脈ノ發見ニ依リ鑛產額ハ増加セルカ此ノ含滿俺金銀鑛ハ普通ノ青化製鍊法ニ依ル處理困難ニシテ此レカ處理ニハ既設

製鍊場ノ設備ヲ多少改造スルヲ要ス爲メニ其間鑛石ヲ毎月七〇〇乃至一、〇〇〇噸ヲ國富鑛山ニ送リテ乾式製鍊ニ附シ
 居レリ

坑内ノ發展ハ諸機械ノ使用増加シ之カ動力タル電力ハ既設水力發電所ノ出力ニ不足ヲ感スルコトアリ依テ此レノ補助ト
 シテ出力六キロワット火力發電所ヲ新設シ發電機及「ロコモビル」型汽機一臺ヲ設置セリ

三井瑞瑠鑛山 金銀銅 天鹽國上川郡下川村 三井鑛山株式会社

山神本坑準以下垂直三〇米迄ノ下底探鑛ノ爲メ斜坑ヲ開坑シ又探鑛ヲ兼テ將來ノ通風及運搬ノ爲メ山神本坑々道ト二十
 米坑々道トヲ貫通スル坑井切上リヲ開始シタリ之レカ爲メ壓氣機二臺(各三〇馬力)鑿岩機、ジャックハンマー」二臺及壓
 氣捲揚機一臺、排水用「ウオシントンポンプ」四臺(各五馬力)ヲ新設シ其運轉用原動力トシテ石油(揮發油)發動機二臺
 (各三〇馬力)ヲ設置セリ

鴻ノ舞鑛山 金銀銅 北見國紋別郡紋別町 住友會社

前年來掘進中ノ第三通洞ハ一月ニ着鑛セリ坑口ヨリノ總延長三、四三〇尺ナリ通洞方面ノ探鑛並ニ既知鑛床探掘ノ爲メ
 壓氣機一五〇馬力一臺、鑿岩機八臺(デンバー式二臺、足尾式四臺、別子式二臺)ヲ設置シ又百尺坑設置一〇馬力捲揚機
 ヲ五百尺坑ニ移設セリ

坑外ニ於テハ格子籠一臺、「クラッシュヤ」二臺、「ベルトコンベヤ」一臺ヲ備フル選鑛場一棟ヲ新築シ又既設製鍊場ノ
 擴張ヲ行ヒ濃聚槽一個、金液槽一個、搗鑛機(十本立)一基、「エアーリフトポンプ」二臺、「タービンポンプ」二臺、「ドロ
 ヲポンプ」一臺ヲ設置セリ
 試登第二四二七號 金銀銅 北見國常呂郡留邊峯町 和田政吉

前年度ニ開坑セル玄武坑ハ坑口ヨリ六四尺ニテ着鑛セリ鑛幅ハ最大二三尺、良鑛部ノ幅八尺ニ及ヒ右鑛押掘進二六尺ヲ行ヒシカ品位金十萬分ノ四乃至八、銀萬分ノ七乃至千分ノ五、左鑛押掘進四九尺ヲ行ヒ品位金十萬分ノ二乃至四、銀萬分ノ六乃至千分ノ四ヲ示セリ

正透坑ヲ前年十二月ヨリ開坑セルカ鑛押坑道ニシテ延長七二尺ヲ掘進セリ鑛幅ハ四尺五寸、良鑛部ノ幅三尺、品位ハ金十萬分ノ七乃至萬分ノ三、銀萬分ノ八乃至千分ノ五ヲ示セル良鑛ナリ其ノ外地表調査、掘割等モ行ヒテ鋭意探鑛ノ歩ヲ進メツ、アリ

俱知安内鑛山 北見國試登郡 二六〇六 金銀銅亞鉛 北見國紋別郡紋別町 住友合資會社

作業能率増進ノ爲メ壓氣機ニ二臺(三〇馬力、三五馬力)、鑿岩機五臺(足尾式二〇型二臺、一一型一臺、四〇型ストーバ

一臺、別子式手持一臺)ヲ新設セリ而シテ之カ動力ハ電力ニ依ルモノニシテ鴻ノ舞鑛山ヨリ送電ヲ受ケツ、アリ

釜石鑛山 銅鑛 岩手縣上閉伊郡釜石町 釜石鑛山株式會社

新山鑛床從來ノ探鑛法ハ其ノ實收率甚タ不良ニシテ大部分ノ鑛石ヲ鑛柱トシテ殘ス欠陥アリシヲ以テ改善ヲ志シ種々研究中ノ處本年ニ入り方針定マリ六番坑八番坑間ノ探鑛ニハ「ジュリソケ」法「ストーピング」法ヲ實施シ六番坑以上ノ各坑道間ニ遺留セル水平鑛柱ハ全部「ケーピング」法ニ依リ六番坑以下ト連絡セシメツ、探掘スルコトニ決シ目下其ノ準備トシテ運搬坑道、坑井、人道ノ開鑿等極力坑内ノ整理ニ努メツ、アリ

尙本年度ニ於テ左記壓氣機及鑿岩機ヲ増加シ益々人力ノ機械化ヲ謀レリ

壓氣機「インガソルランド」RE……………二 一七五馬力 一臺増設
鑿岩機「インガソルランド」R……………七二 ドリフター 三臺同

BCR……………四三〇 ブラツガー 三臺同

CC……………一一 ストーバー 三臺同

「ガードナーデンパーモデル」七型 ドリル 二臺同

空氣捲揚機「インガソルランドPHリットルタガーホイスト」 二臺同

又製鍊ニ於テハ目下第九號高爐ヲ改修中ナル外能率増進ノ爲メ本年新ニ一ヶ月粉礫三千噸ヲ處理スル磁力選鑛場並ニ燒結工場ノ建設ニ着手シ目下工事中ナリ其ノ設備左ノ如シ

イ、磁力選鑛場

バケツトエレベーター 一臺

ボールミル 一臺

チユーブミル 一臺

磁選機 一臺

シエーカー 一臺

離心唧筒 一臺

電動機 一一・五馬力 一臺

電動機 一〇馬力 一臺

ロ、燒結工場

エレベーター 一臺

ブローワー

フイーダー

燒結機

エキゾースター 一七五馬力

ハ、煙道煙塵煙突ノ構造及大サ

煙道 巾七五〇耗 高サ九〇〇耗 角形鐵板製

煙塵室 徑三五〇〇耗 高サ四六四〇耗 鐵板製

煙突 徑九〇〇耗、高サ一五、〇〇〇耗 丸型鐵板製

ニ、排水處理設備

沈澱池 徑一八呎 深六呎 二個

其ノ他本年中増設改廢セル汽罐左ノ如シ

船用返管式汽罐

ランカシャー式同

船用返管式同

ランカシャー式同

又前年來繼續工事中ナリシ港頭設備ノ改良モ九月末竣工シ海陸運輸ノ連絡一層圓滑トナレリ

卯根倉鑛山 銅 岩手縣和賀郡湯田村 藤田鑛業株式會社

支山安久登澤ニ於ケル第二通洞ヨリノ下一番坑五十尺ノ掘下リ探鑛ハ效ヲ奏シ十一月末鑛体ニ當リタリ而シテ鑛押探鑛ノ結果脈巾平均一尺五寸品位五%ニシテ鑛況良好トナレリ又久シク休業中ナリシ大荒澤鑛山ノ元荒澤大坑坑ヲ當山支山トシテ取開ケ中ノ處七月中旬ニ鑛巾一尺乃至一尺五寸平均品位六%ノ優勢ナル鑛脈ニ逢着セリ
向安久登澤坑ニ於テハ安久登澤掘下リ堅坑完成ト共ニ排水設備トシテ下一番坑ニ七馬力半電氣「タービン」唧筒一臺ヲ新設セリ
又元荒澤坑ニ左記設備ヲ有スル小規模ノ機械選鑛場ヲ新設セリ

自家製「トロンメル」 徑二尺五寸 長五尺 一臺

「ハルツ」式粗粒跳汰機 一臺

自家製水車 徑十二尺 五馬力 一臺

水澤鑛山 金銀銅鉛亞鉛 岩手縣和賀郡岩崎村 古河鑛業株式會社

川平坑青葉鑛相當有望ナルヲ確メタルニヨリ鑛押探鑛ヲ中止シ前鑛通洞地並ヨリ三千二百尺ニテ着脈セシム可ク立入坑道ノ開鑿ニ着手セリ又從來使用中ナリシ七十五馬力並ニ十五馬力壓氣機ヲ廢止シテ「インガソルランド」三十馬力一臺ヲ新設シ更ニ選鑛ニ於テ八十吋×七吋大塚製「ブレーキクラッシュヤ」及同所製十五吋×三十吋「クロームロール」各一臺ヲ増設シテ操業ノ圓滑ヲ計レリ

鷺合森鑛山 銅 岩手縣和賀郡湯田村 三菱鑛業株式會社

多年探鑛ヲ繼續シタル結果十五萬噸以上ノ埋藏鑛量アルヲ確メ得タルニ依リ年產四千噸(品位一〇%)ノ計畫ヲ以テ探鑛ヲ開始シ十一月元山大荒澤鑛間五・五哩ニ一日能力拾噸ノ玉村式單線架空索道ノ架設ヲ完成シ又簡單ナル機械選鑛場ヲ

新設スル等鋭意事業ノ進展ニ努メツ、アリ本年中設置セル設備左ノ如シ

選鑛場

五分目圓筒篩 三呎×六呎六
 「ハルツジツガー」 一尺五寸×二尺八寸 三區
 廢水沈澱池 巾五〇尺 長サ六〇尺 深五尺 一個 同
 同 巾五〇尺 長サ四〇尺 深五尺 三個 同

原動機

吸入瓦斯機關 一五馬力 一臺 新設
 池貝製「ユタカ」石油發動機 三馬力 一臺 同

平●●●●●
 煉●●●●●
 鑛●●●●●
 山 金銀 岩手縣二月郡小島谷村 八巻階二

從來青化製鍊設備ハ不完全ニシテ豫定ノ効果ヲ收メ難カリシヲ以テ此等ノ施設ヲ撤廢シ新ニ青化工場ヲ建設セリ其ノ設備ノ大要次ノ如シ

種	類	平均内徑(尺)	深	サ(尺)	容	積(立方尺)	個	數
原	液槽	四五二 四五〇		二四〇	五八六		二	二
滲	出槽	六〇七		五〇六	一九七		六	六
金	液槽	五七四 五七六		四三三	一一三〇		二	二
廢	液槽	三三二 三三二		三四七	三三二		二	二

亞 鉛 箱 幅 一・二 一・〇 長 六尺 四

石油發動機一馬力半

以上ノ外從來搗鑛場附屬沈澱池二個使用中ノ處之ヲ四個ニ増加シ搗鑛鑛尾ヲ完全ニ沈定セシメテ青化工場ニ供給スルコト、シ其ノ容積亦次ノ如ク増大セリ

上部搗鑛場用 二七尺×一四×四 四〇尺×一二×四 二個
 下部同上 二七尺×一五×四 二六尺×一五×四 二個

●●●●●
 細●●●●●
 倉●●●●●
 鑛山 銀銅鉛亞鉛安質母尼 宮城縣栗原郡豐澤村 共立鑛業株式會社

半三本鑛ニ於テハ新ニ鑿岩機ヲ以テ探鑛ヲ開始シ年末約八十尺掘上ヲナセシニ脈巾五尺乃至八尺ニ達シ鉛亞鉛共ニ稍低品位ナルモ粗鑛トシテ充分處理シ得ルモノヲ發見スルニ至レリ

尙本年度ニ於テ左記鑿岩機ヲ増加シテ探鑛能率ヲ高メ著シク探掘量ヲ増加セリ

製 造 所 型 種 類 臺數

「インガーツルランド」 CC 一 番 「ストーバー」 二
 足尾製作品 足尾式 一 番 「ブラツガー」 四

又大鑛土區方面坑内排水ニハ從來自家製渦卷唧筒三臺ヲ使用セルモ坑内水ノ増加ニ伴ヒ能力ニ不足ヲ告クルニ至レルヲ以テ内二臺ヲ廢止シ之ニ換フルニ左記唧筒二臺ヲ以テセリ

式 名 場 所 馬力 排水能力 臺數

日立式三段渦卷 大鑛土區 三〇 八〇 二

運鑛ニ於テハ十五時×九時「ブレイキクラシャー」一臺並ニ「ウヰルフレーターブル」九臺ヲ増設シテ破碎ト分級トヲ一層完全ナラシメ且ツ機械ノ各部分ニ修理及多少ノ改廢ヲ加ヘタル結果取扱能力ニ於テ二割採收率ニ於テ約一〇%ヲ増加スルヲ得タリ製鍊ニ於テハ從來長サ十七間巾十九尺ナリシ熔鑛爐收塵室ヲ長サ二十六間巾十九尺ニ擴張シ又新ニ「ボット」收塵室(巾八尺長サ四十間)ヲ設置シテ極力煙害ノ防止ニ努メ沈澱池ニ在リテモ本年六月容積百五十立坪ノ擴張工事ヲ完成スル等専ラ事業ノ進展ニ努メタリ

大谷鑛山 金銀 宮城縣本吉郡大谷村 日本産業株式會社

大谷本鑛ニ對スル探鑛ハ從來縱斷的ニ偏シタル嫌アリシカ本年九月壓氣機ノ増設及「シャープナー」ノ新設ヲ了スルト共ニ水平的ニ探鑛範圍ヲ擴張セントシ東部ノ舊坑ニ向ヒ九十尺坑ヨリ立入ノ掘鑿ヲ開始セリ、次ニ探鑛ニ於テハ從來主トシテ手掘ニヨリタルモ鑿岩機臺數ヲ増加シテ人力ノ機械化ヲ計リタル結果前年度ニ比シ鑛產額著シク増加スルニ至レリ即チ本年中増設シタル壓氣機並ニ鑿岩機ハ左ノ如シ

名稱	製造品	型名	馬力數	臺數
壓氣機	「インガーツルランド」	ERI	五〇	一
鑿岩機	「デンバー」	#七	—	二
同	同	#三三七	—	一
同	「サリバン」	DT四四	—	三

尙坑内運搬ノ圓滑ヲ計ル爲メ第三豎坑ニ於ケル五馬力輕便捲揚機ヲ三十馬力複胴式電氣捲揚機ニ換フル計畫ヲ立テ第三豎坑ノ改修ニ着手セリ

花岡鑛山 金銀銅鉛亞鉛 秋田縣北秋田郡花岡村外一 藤田鑛業株式會社

前年來探鑛中ノ神山鑛床ハ其廣袤東西三百尺南北二百尺餘ニ亘ルコト判明シタルモ其鑛石ハ銀鉛亞鉛銅ノ緻密混合シタル所謂黑物ニシテ特ニ含銀多キ爲メ目下其選鑛並ニ製鍊方法ニ付研究中ナリ尙前年來施行中ノ試鑛探鑛ハ其ノ範圍ヲ更ニ北方ニ進メ島内區域ニ入り一部黑物ノ存在ヲ認メタルモ其ノ狀況未タ詳カナラス

尾去澤鑛山 金銀銅鉛亞鉛 秋田縣鹿角郡尾去澤村外一 三菱鑛業株式會社

壓氣機及鑿岩機ヲ購入補充シ大ニ坑内ノ進展ニ努力シタル結果探鑛量ハ前年ニ比シ一割以上ノ増加ヲ見ルニ至リ、探鑛ニ於テハ上ニ北向立入、下一南向立入、下一卯西南向立入、奥鑛下ニ下磐立入其他中部立入等ニ於テ孰レモ數條ノ鑛脈ニ逢着セリ

本年中新ニ購入シタル壓氣機及鑿岩機左ノ如シ

壓氣機	「インガーツルランド」	PRE二番型	三百五十馬力	一臺	増設	
鑿岩機	「モデル」七番型	ウオー「デンバー」ロツクドリル	社製	一〇臺	増設	
同	同	同	同	一臺	同	
同	「ライナー」インガーツル	「二四八番型」	「インガーツルランド」	社製	四臺	同
DCR二三型	「チャツクハンマー」	同	同	一臺	同	
DCRW二三型	同	同	同	五臺	同	

ASD 一二型 「ストーパー」 足尾製作所 一臺 同
 CC 一二型 同 「インガンソルランド」社製 五臺 同
 尙坑内運搬ノ圓滑ヲ計ルタメ元山第二堅坑ト昭和鍾十號間(三千五百尺)ニ「オストロデムラー」會社製「ガソリン」機關車
 ノ運轉ヲ開始セリ

又豫テ計畫中ナリシ小又川水力發電所工事ハ愈本年十一月ヨリ著手スルニ至リ明年末竣工ノ豫定ニテ目下墜道整工事中
 ナルカ有効落差百七十尺、水量平水毎秒百二十個、理論馬力千二百四十六「キロワット」ナリ、斯クシテ前年度ニ比シ粗
 銅二十七萬八千餘斤ノ増産ヲ見タリ

荒川鑛山 銀銅 秋田縣仙北郡荒川村 三菱鑛業株式會社

新探鑛法トシテ主要鑛脈ニ並行スル鑛脈探鑛ノ爲メ「ウオー」三四番型「ドリル」ヲ使用シテ兩營ニ「ディーブボーリング」
 ヲ試ミ其最深キモノハ六十米ニ達セリ

本年中購入シタル鑿岩機左ノ如シ

- IR 七二「ドリフター」 「インガンソルランド」社製 二臺 増設
- DCRW 二二三「チャックハンマー」 同 七臺 同
- CA 三一「ストーパー」 同 一臺 同

又坑内運搬用トシテハ前年日蔭坑及ビ嗽澤坑ト運鑛場間ニ使用ヲ開始シタル「ガソリン」機關車ノ成績良好ナルニ鑑ミ更
 ニ之レヲ百目石坑ニモ使用スルコトトシ「フオード」型二十馬力「ガソリン」機關車一臺ヲ増設セリ尙前年來開鑿中ナリシ
 日蔭堅坑六十米掘下リヲ完成シ其ノ排水用トシテ四番坑ニ左記唧筒二臺ヲ増設セリ

樣式 馬力 臺數

三段五吋半電氣「タービン」唧筒 一七〇 二
 吉乃鑛山 金銀銅鉛硫化鐵 秋田縣雄勝郡西成瀨村 大日本鑛業株式會社

「シユランベルゲル」電氣探鑛法應用ノ結果有望ナリシ爲メ真人山ニ試ミタル「キャリツクス」式試鑛ハ本年四月深度五百
 七十三尺二寸ニ達シタルモ遂ニ何等ノ鑛物ヲ發見スル能ハスシテ中止ノ止ムナキニ至レリ、坑内ニ於テハ本年更ニ二坑
 道ヨリ高サ百九十九尺ノ通氣堅坑ヲ掘鑿シテ地表ニ通セシメ大ニ坑内通氣ノ改善ヲ計レリ、鑛水處理ニ關シテハ前年末
 起工セル村尻沈澱池ハ本年五月竣工シ且ツ鑛水ノ導水管トシテ直徑一尺五寸ノ「コンククリート」管延長百十八間ノ敷設ヲ
 完成シタル外更ニ石灰乳攪拌場ヲ新設スルト共ニ鑛水ヲ繰返シ使用シテ總放流量ヲ減少セシメントシ「シツクナー」ノ
 澄水ヲ唧筒ニヨリ竹ノ子澤ニ新設シタル容積九千八百立方尺ノ「コンククリートタンク」ニ揚水シテ反覆使用スルニ至レ
 リ、又「シツクナー」ノ濃泥ハ從來大部分ヲ「オリバーフィルター」ニ送り一部分ノミ小規模ノ乾泥池ニテ處理シ來リタル
 モ今回其ノ全部ヲ乾泥池ニテ處理スルコトニ變更セリ即チ新タニ長サ百二十尺、巾三十六尺、深サ十三尺ノモノニ區ヨ
 リナル鐵筋「コンククリート」製乾泥池ヲ設置シ之レニ「トラベリンングクレーン」ヲ付シテ浚深シタル濃泥ヲ直チニ鐵索ニヨ
 リ廢棄セントスルモノニシテ本工事ハ既ニ大体完成シタルヲ以テ明年二月頃ヨリ使用開始ノ見込ナリ

八盛鑛山 銀 秋田縣山本郡八森村 大日本鑛業株式會社

本鑛山ニ於ケル製鍊作業ハ本年度ヨリ愈々本操業ニ移リ吉乃鑛山ノ產出鑛量増加セルト不老倉、水澤其他ノ鑛山ヨリノ
 買入鑛石モ相當ノ數量ニ上リタル結果粗銅百九十一萬四千餘斤銅鼓六千餘斤ノ產出ヲ見ルニ至レリ

不老倉鑛山 金銀銅鉛亞鉛硫化鐵 秋田縣鹿角郡大浦村外一 古河鑛業株式會社

前年事業復活以來小規模ノ操業ヲ繼續シツ、アリテ本年ニ入り地森坑排水用トシテ十馬力十立方尺電氣「タービン」唧筒一臺ヲ設置シ又前年來工事中ノ火力發電所ノ竣工ヲ見ルニ至レリ、其ノ發電能力ハ三〇「キロワット」ニシテ設備ノ概要左ノ如シ

横置單筒「サクシヨン」瓦斯機關	五〇馬力	一臺
三相交流發電機三〇「キロワット」		一臺
土深井鑛山 金銀銅 秋田縣東角郡鑛木村 清水隆藏		
運鑛設備ヲ擴張シ左記機械ヲ増設セリ		
平鐵製「グリズリー」	長一〇呎巾三呎六吋二寸目	二臺
「バケットエレベーター」	同 二一呎同一〇吋	一臺
「ウオシユトロンメル」	同 一一呎四吋直徑三呎二吋	一臺
「サイジングトロンメル」	同 九呎同二呎六吋	一臺
複式四區「ジツガー」	同 一三呎巾八呎三吋	一臺
單式三區「ジツガー」	同 九呎巾四呎	一臺
「カローコーン」	九平方尺	一臺
「ウヰルフレーターブル」		一臺
三相交流十五馬力電動機		一臺
尙運鑛廢水ノ増加ニ應スル爲メ 既設沈澱池ノ下流約二百三十間ノ位置ニ 更ニ長サ五間巾六間深サ六尺容積六、四八〇立		

方尺ノ沈澱池二個ヲ新設セリ

足尾鑛山 金銀銅鉛鋅銻錳砒 栃木縣上都賀郡足尾町 古河鑛業株式會社

(鑛床)六號鑛地並中段東二十一井附近ニ於テ同鑛ノ枝鑛ト思ハル、モノニ出會ヒタリ品位六・七%内外ニシテ鑛體ノ大サ二十五尺×五十尺位目下盛ニ開鑿中ニシテ相當膨大スル見込ナリ

不動東向探鑛坑道内ニテ立入口ヨリ約千八百尺ノ地點ニ於テ石英粗面岩ノ岩脈ニ逢着シ岩脈中ニ平均品位一・二%ノ銅鑛散點スルヲ認メタルヲ以テ此ノ岩脈ニ沿ヒ開鑿セシ所鑛況次第ニ良好トナリ平均品位三%以上ノモノ相當廣キ範圍ニ存在スルヲ以テ引續キ開鑿中ナリ

下五番坑東立内ニテ一條ノ鑛脈ニ出會シ之ヲ南方ニ開鑿セシニ鑛況次第ニ良好トナリ終ニ立入口ヨリ約八十尺位ノ所ニテ加脊一面ニ膨大シ品位モ亦十六・七%内外トナリ其ノ延長八十尺ニ及ヒ未タ衰微ヲ呈セス、同鑛體ハ從來ノ三百尺河鹿ト異リタルモノラシク其ノ存在ヲ確ムル爲メ盛ニ開鑿中ナリ

鑛脈ニ於テ新ニ發見シタルハ大正十五年鑛上四番坑東四十井南立入ニテ捕捉セル四百尺鑛ニシテ其ノ延長約三百尺ノ間鉛幅五寸平均品位十二・三%ヲ有スル鑛況ナリ

(採鑛)大正十五年二月開鑿ニ着手セル箕子橋下四番坑新斜坑(傾斜六十度大サ十二尺×六尺延長百六十尺)ハ本年三月竣工セシカ更ニ明年一月ヨリ下六番坑迄掘下ケニ著手スル豫定ナリ、又運搬能率ヲ増進スル爲メ前年ヨリ引續キ變更中ノ大型電氣機關車ハ本年度ニ於テ「シーメンス」製二十七馬力重量三噸ノモノ二臺ヲ又鑛製鑛車ハ百二十八臺ヲ完成セリ

(選鑛)粘土質銅鑛ハ從來第二選鑛場ニテ一般ノ粗鑛ト共ニ處理シ居タルモ取扱上頗ル不便ナルノミナラス一般粗鑛ノ實收率ヲ低下セシムル虞アルヲ以テ亞鉛選鑛場ヲ改造シ粘土質銅鑛ノ試驗選鑛場ヲ設置セリ該選鑛場ハ一ヶ月元鑛五十二

萬六千五百貫(乾鑄量)ヲ處理シ得

又既設鐵筋「コンクリート」廢石「ビン」ニ收容スル廢石ハ大塊、中塊、粒及粉各種ノ混合物ナルヲ以テ坑内充填ニ最モ適當ナル小塊及粒廢石ノミヲ得ルコト困難ナルニヨリ之ヲ收容スヘク本年一月既設廢石「ビン」ニ接近シ新ニ幅十五尺長サ三十尺地上面ヨリノ高サ四十尺ノ長方形容積約一萬三千九百五十立方尺ノ鐵筋「コンクリート」ノ設置ニ著手シ九月竣工セリ

尙設計變更中ノ通洞第二運鑛場ハ本年度ニ於テ從來使用中ノ「セントリフニューガル」ラツシグロール「三臺及附屬」「バケツトエレグエーター」ヲ廢止シ大サ八呎×四呎ノ「ハーデンチボールミル」「一臺及附屬」「ドラツグクラシフアイヤー」「三臺、並ニ大サ十二呎×八呎ノ「ボートランドフィルター」ニ臺及附屬「バキヤムポンプ」「二臺」「コンプレッサー」「一臺」ヲ据付ケタリ、

(淨水)間藤淨水場ニ於テ濾過機ニテ處理シタル沈澱物ハ乾泥池ニテ日光乾燥ヲ爲スモ尙水分多ク焙鑛爐ノ裝入ニ適セザルヲ以テ更ニ乾燥スヘク長サ四十八尺直徑三尺二寸ノ回轉乾燥爐一基ヲ設置セリ、該爐ハ回轉數毎分二回燃料ハ石炭ニシテ動力ハ三相交流誘導電動機二十五馬力ナリ

中才沈澱池ノ沈澱泥渣ハ切幹沈澱池又ハ砂形乾泥池ヲ經テ原堆積場ニ運搬堆積シタルヲ壓縮シ水分ヲ除去シテ砂形堆積場ニ運搬堆積スヘク砂形乾泥池西側ニ徑八百耗ノモノ六十枚ヨリ成ル「フィルタープレッス」「七臺及附屬」ノ四吋×八吋複式「ブラシヂャーポンプ」四臺、並ニ三相交流誘導電動機二十馬力二臺又前記「フィルタープレッス」ヨリ出ヅル泥渣ヲ堆積スヘク乾泥池ノ西南ニ隣接セル一千三百九十面坪ノ周圍ニ高サ十四尺ノ石垣ヲ積ミタル堆積場ヲ設置セリ

又原堆積場ハ多年使用ノ結果漸次狹隘ヲ感スルニ至リシヲ以テ現在ノ堆積場ノ西側ニ接續セル一萬二千五百二坪餘ノ畑

地ヲ堆積場トスヘク之カ工事ニ著手セリ、該増設堆積場ハ周圍百六十七間半ニ亘リ中心高サ平均十八尺ノ石垣積壓堤ヲ築造シ西南隅ニハ約百八十四坪ノ淨水池ヲ設ケルモノニシテ周圍堰堤ハ差當中心高サ平均六尺ノモノヲ築造シ爾後必要ニ應シテ高サヲ増スモノナリ

(製鍊)「コットレー」ノ脫塵効率良好ニ伴ヒ蒼鉛原鑛ノ數量ノ増加並ニ成分ノ變化ヲ來シ可溶性合金中ノ錫増加ノ結果作業ノ圓滑ヲ缺クニ至リタルヲ以テ第一電解槽八槽ノモノニ列ヨリナレルヲ各列二十二槽合計四十四槽ニ(二回ニ亘リ)増設セリ

第二號熔鑛爐ハ羽口水準以下ノ深サ二尺五寸ナリシヲ三尺五寸トナシ且ツ水胴ノ大サヲ從來ト略同一ニ保ツ爲羽口水準以上ニ於テ水胴ノ高サ一尺ヲ減シ煉瓦部一尺ヲ増加シ熔體ノ洩出ヲ防キ作業上ノ危險ヲ豫防セリ

昨年十二月著手セル轉爐用橫置單筒式送風機ヲ取外シ「ターボ」式送風機(送風量毎分一萬一千立方尺、風壓十二封度、七百三十馬力電動機直結)据付ケ工事ハ六月完成シ煉銅作業ノ能率ヲ増進セリ

二分置板製徑五呎七吋長サ三十二尺ノ煉銅煙道共通部ヲ改造シテ内法幅六尺五寸高サ七尺、斷面積四十五・五平方尺長サ六十三尺四寸六分トナシ支柱及煙灰溜ハ鐵筋混凝土造、側壁ハ赤煉瓦積、天井ハ鐵板張リトシ且ツ共通部ノ位置ヲ移動シタル結果吸煙能率増進セリ、尙反射爐使用當時設置ノ乾燥爐及微粉炭機ヲ使用シ焙鑛爐ニ微粉炭採用ノ計畫中ナリ

東照鑛山 銅 栃木縣上都賀郡今市町 村上藤郎

七月通洞下百三十五尺ノ地點ニ於テ東北方ニ錘探鑛ヲ開始シ(下三番坑ト稱ス)漸次掘進スルニ從ヒ運搬ニ不便ヲ感スルニ至レルヲ以テ大立坑ノ最下部ヨリ下三番坑ニ連絡スル四十尺斜坑ヲ完成シ運搬、通氣良好トナレリ

又坑内堅坑ノ運搬ハ手捲揚ニ依レルモ通洞地並堅坑側ニ三馬力磨擦抵抗式捲揚機(胴徑十吋、ロープノ直徑二分ノ一時)

ヲ設置シ之ニテ運搬スルコトトセリ、又排水ノ爲メ三馬力「ブランジャヤ」ポンプ」ヲ設置シ、坑内通氣ハ平時自然通氣ニ依ルモ不良時ニ備フル爲メ通洞地並ニ小型送風機ヲ設備セリ、此等ノ動力ニハ角田式四馬力石油發動機ヲ使用セリ

篠井鑛山 金銀銅 栃木縣河内郡篠井村 奥田志人

本年三月搗礦製鍊場設置ニ着手シ四月竣工セリ其ノ設備ノ概要左ノ如シ

搗礦機 薩摩式 重量十二貫ノ杵 五本立 八臺

原動機 直徑十二尺幅二尺四寸ノ木製上射式水車二基(約三馬力)

佐渡鑛山 金銀銅 新潟縣佐渡郡相川町 三菱鑛業株式會社

六月大立脈深部探鑛ノ目的ニテ高任八番坑道地並ヨリ堅坑(加脊二米×四米)掘下ニ着手シ十一月三十五米ヲ掘下リ堅坑々々底ヨリ南立入ヲ開鑿シ掘進二十米ニテ會脈シ堅坑々々底ニ鑛倉開鑿中ナリ

四月青磐脈下底探鑛ノ目的ヲ以テ大立五番坑道地並ヨリ堅坑(加背一・五米×三・八米)掘下ニ着手シ九月五馬力電氣捲揚機(復胴「バケツト」型)ヲ設置セリ

高千鑛山 金銀銅 新潟縣佐渡郡高千村 三菱鑛業株式會社

大正十四年着手セル入川四番坑、立島三番坑間ノ連絡坑道開鑿工事ハ七月貫通シ通氣良好トナレリ

引續キ立島ノ下部ニ向ヒ掘進中ニシテ明年半ニ立島脈ニ達スル豫定ナリ

又漸次事業擴張ノ爲メ動力ノ不足ヲ告グルニ至レルヲ以テ五月入川ニ水力發電所設置工事ニ着手シ土木工事ハ七分進捗シ明年八月竣工ノ豫定ナルカソノ曉ニハ現在ノ火力ヲ廢シ排水捲揚等ノ設備ヲ爲シ鑿岩機ノ使用臺數ヲ増加シ又各工場社宅等ノ電燈ヲ施設スル豫定ニシテ原動機發電機ノ概要左ノ如シ

原動機 「パーソン」式タービン(シングルホヰール、シングルノツズル)一分間六百回轉、最大出力三百五十馬力

發電機 「シンクロ」ナステ「エネレター」三相、三百二十五「キロボルトアンペヤ」三千三百ボルト

六十「サイクル」、一分間六百回轉

葡萄鑛山 銀銅鉛亞鉛 新潟縣岩船郡野野村 葡萄鑛山株式會社

三番鑛ノ下部鑛石ハ手捲揚ニテ捲揚ケタルヲ五馬力單胴式電氣捲揚機(スキップ式)ヲ設置シ之ニ依リ捲揚クルコトトセリ

坑内水ハ從來十馬力及五馬力ノ「タービン」ポンプ「各二臺並ニ五馬力ノ掘下ケ「ポンプ」一臺ヲ以テ排水シ來レルモ配列複雜ニシテ且ツ下部ニ掘下クルニ從ヒ湧水増加スルヲ豫想シ下一坑道ニ二十五馬力「タービン」ポンプ「一臺ヲ新設シ其ノ豫備トシテ前記十馬力二臺ヲ「セリース」ニ結ヒ排水スルコトトセリ

下部探鑛ノ目的ヲ以テ新ニ「サリバン」會社製七十五馬力空氣壓搾機ヲ設置シ鑿岩機L-7、「ウオーター」チユエープロター「ター」三臺、「ストーパー」一臺ヲ使用セリ

選鑛ニ於テ處理鑛量増加シ從來ノ沈澱池ニテハ狹隘ヲ告グルニ至レルヲ以テ六間×五間×六尺ノモノ三個ヲ増設セリ

寶鑛山 銅亞鉛硫化鐵 山梨縣南都留郡寶村 三菱鑛業株式會社

前年六月工事ニ着手セル選鑛場笹子驛間ノ玉村單線式架空索道ハ四月竣工シタルヲ以テ舊索道ヲ廢止シ新索道ニヨル操業ニ變更セリ、之カ爲メ運搬力増大經費ノ節減取扱ノ容易等益スル所大ナリ

又中山式電氣鑿岩機NH二十六型一臺ヲ購入シテ抜合坑主要運搬坑道ノ速進ヲ計リ以テ將來ノ探掘ニ便スルト同時ニ増産ニ付考究準備中ナリ

●●●●● 神岡鑛山 金銀銅鉛亜鉛銻鉛重石砒 岐阜縣吉城郡船津町 三井鑛山株式會社

下ノ本坑「タシロ」平ニ於テ合金銀ノ優良ナル露頭ヲ發見シ錘押探鑛中ナリ

枳洞坑ニ於テ漸次手掘ヲ機械掘ニ替ユル準備トシテ百五十馬力「サリバン」型「アングルコンバウシド」空氣壓搾機（大サ十八吋×十一吋×十四吋、原動機百七十五馬力三相交流誘導電動機）二臺ヲ増設シ茂住坑ニ於テ鑿岩機使用臺數増加セ

ルヲ以テ八番型「ウオードリル」スチール、シャープナー」一臺ヲ増設セリ
鑛石、土砂、材料等運搬ノ爲メ茂住坑二百二十米坑（堅坑）二十五馬力單刷式電氣捲揚機ヲ設置セリ
元鑛品位ノ低下ニ伴ヒ從來ノ比重選鑛法ニテハ採收率思ハシカラサルヲ以テ鹿間、茂住兩選鑛場共之ヲ廢シ全浮遊選鑛法ニ變更セルカ茂住選鑛場ハ從來一ヶ月取扱元鑛量、三千三百六十噸ナリシヲ二千三百二十二噸ニ縮少セリ

●●●●● 森部鑛山 金 岐阜縣大野郡丹生川村 小林信四郎

昭和二年七月發見セル流レ山露頭ハ脈幅八尺合金十萬分ノ三乃至萬分ノ七アリ二十八尺餘掘下ケタルニ益々鑛況良好ナルモ湧水甚クシク採鑛困難ノ爲露頭ヲ去ル四百五十尺（水準下約七十尺）ノ下流ヨリ立入坑道開鑿中ナリ、又第一通洞坑口ヲ去ル千五百餘尺（水準下約百二十尺）ノ下流ヨリ從來ノ鑛床ニ向ツテ立入坑道開鑿中ニシテ前者ハ明年三月末後者ハ十月末着脈ノ豫定ナリ

又前年來工事中ノ搗鑛製鍊場ハ七月竣工シ操業ヲ開始スルニ至レリ其ノ設備ノ概要左ノ如シ

搗鑛機 蔭摩式 重量十八貫五百匁ノ杵二十本立

原動機 直徑二十一尺巾四尺ノ水車、實馬力二十馬力

●●●●● 土肥鑛山 金銀 靜岡縣田方郡土肥村 土肥金山株式會社

蛭山坑北百尺坑井ヲ掘下ケタルコト六十尺ニシテ富鑛帶ヲ發見探鑛ニ着手セリ

桶鑛ニ於テ小山坑東向大鑛入ヲ距ル南二千尺及千二百五十尺ノ地點ニ於テ掘下ケテ開始シ富鑛部ニ到達セシヲ以テ中段錘押坑道ヲ掘鑿シ該坑道ノ上下ニ於テ採鑛ヲ開始セリ、探掘シタル鑛石ハ兩者共「エア―ホイス」ヲ以テ一番坑ニ捲揚ケ坑外ニ搬出ス

前年七月下旬開鑿ニ着手セル中央大堅坑ヨリノ排水及小山中鑛堅坑ヨリノ排水ハ小山坑口ヨリ八百尺ノ所ナル三脈一番坑ニテ落合ヒ錘押坑道ナル大切坑ヲ通シテ坑外ニ流出セシメタルヲ前記合流點ヨリ以南八十尺ノ所ヨリ新ニ水道坑ヲ開鑿シ千尺堅坑北二十尺ノ所ニ貫通セシメ舊水道ノ東方七十尺ノ所ヲ迂回シテ小山舊坑附近ニ放流セシムル計畫ニテ四月起工シ既ニ坑口ヨリ三百五十尺奥ノ東向鑛入九十尺ノ所ナル貫通部迄完成セリ、尙舊坑口迄四百三十尺ノ間ハ明年四月頃迄ニ完成ノ豫定ナルカ該水道坑ノ一部ハ將來空車通路トシテ利用スル豫定ニシテ之カ完成ノ上ハ下底作業ニ伴フ漏水ヲ防キテ排水費ヲ節シ下部探鑛並ニ運搬ニ便益ヲ與フルニ至ルヘシ、排水坑道一部完成ノ爲舊排水坑ナル大切坑道ハ漏水セルヲ以テ此ノ下部探鑛ノ目的ニテ中鑛大堅坑ニ於テ七十尺ノ下位ヨリ錘押坑道ヲ開鑿中ナリ前記中央大堅坑ハ既ニ三百十七尺掘下ケタルカ明年一月末頃迄ニハ豫定ノ三百四十尺迄達スル見込ニシテ堅坑運搬ノ爲メ三十馬力複刷式電氣捲揚機ヲ設置セリ

●●●●● 河津鑛山 金銀銅滿俺硫化鐵 靜岡縣賀茂郡新井村 日本產鑛株式會社

六方鑛ト掛橋鑛トノ中間ニ於テ合金、銀、滿俺脈ヲ發見シ探鑛準備トシテ錘押坑道掘進中ナリ又堅坑運搬ノ爲メ捲揚機三臺ヲ設置セルガ、設置場所種類様式馬力左ノ如シ

設置場所	種類	機	式	馬力
猿喰五番坑南九號堅坑	電氣捲揚機	單		一〇
安城二號三番坑掘下堅坑	同	同	式	三
安城一號四番坑掘下堅坑	同	同		三

繩地鑛山 金銀 靜岡縣賀茂郡白濱村 住友合資會社

第二疏水坑開鑿ハ四月豫定ノ掘進ヲ了シ直ニ下盤支脈富鑛部ニ向ケ掘進五月末着脈更ニ探鑛中ナルガ下部ニ於テ次第ニ良好ナルガ如シ

第二疏水坑準ニ於テ富鑛部益々良好ナルニヨリ下部探鑛ノ必要ヲ認メ十一月ヨリ掘下リ堅坑掘鑿ノ準備作業ニ著手セリ尙第二疏水坑ハ着脈出鑛ヲ見ルニ至リタルト上部坑道トノ連絡坑井完成セルトニヨリ選鑛場移轉ノ必要ヲ生シ十一月工事ニ著手セルカ明年二月竣工ノ豫定ナリ

持越鑛山 金銀 靜岡縣田方郡上野野村 足立顯治

從來ノ探鑛方針ヲ改メ鑛夫ヲ約二倍ニ増員シ探鑛ヲ開始セル爲鑛産額ハ前年ニ比シ二十二割餘ヲ増産セリ

久根鑛山 銅硫化鐵 靜岡縣磐田郡佐久間村 古河鑛業株式會社

本年一月下七番坑西六百五十尺堅坑(下七番坑、下九番坑間二百尺ノ垂直堅坑)ニ二十五馬力ノ「スキップ」複胴式捲揚機設置工事ニ著手シ五月末完成シタルヲ以テ今後下八番坑以下ノ開發ハ該堅坑ニ依ルモノナリ

選鑛ニ於テハ浮游選鑛作業ノ發展ト共ニ漸次是レニ附屬スル諸機械ノ改良増設等ヲ計レリ即チ十四吋×三十吋ノB型「クローム、ロール」、十六吋×六吋ノ「コニカル、ボール、ミル」、M・S式浮游選鑛機(二呎×二呎、六區)及之ニ附屬

スル「バケット、エレベーター」「ドラツダ、クラツシフアイヤー」等ノ増設、位置變更等ヲ行ヒ、一時間約四・五噸ノ原鑛ヲ處理スルニ至レリ

又第二選鑛場第三選鑛場ヨリ流出スル微細ナル泥鑛(二百メツシュ、九十パーセント以上)ハ此レヲ「ドーアー、シツクナ」(三十呎×六呎)ニ導キ此レ又浮游選鑛ニヨリ處理シ相當ノ精鑛ヲ採收スルニ至レリ

尾小屋鑛山 金銀銅鉛亞鉛 石川縣能美郡西尾村外一 合名會社橫山鑛業部

豫テ開坑中ナリシ七番坑準以下二百尺ノ八番坑道地並ニ於ケル第六脈ハ鑛押約九百尺ノ掘進ヲ見タルニ脈幅平均二尺品位含銅七%内外ニシテ鑛況極メテ良好ナリ山崎脈ノ下底七番坑地並ハ波佐羅七番坑舊坑鑛入ニ依テ到達シ鑛押約四百尺ノ掘進ヲ見タリ脈巾二尺内外品位銅四%内外ニシテ引續キ探鑛中ナリ

又前記波佐羅七番坑舊坑鑛入山崎脈ヲ去ル七百尺ノ點ニ於テ新鑛脈ヲ發見シタリ、走向百三十度傾斜東六十五度脈巾四尺品位銅五%内外ニシテ極メテ優勢ナリ

明延鑛山 金銀銅鉛錫重石 兵庫縣朝來郡山口村外二 三菱鑛業株式會社

本山ノ下底探究並ニ六百尺坑開鑿ヲ目的トシテ本年十月大仙堅坑ノ掘下ヲ開始シ右開鑿用トシテ五馬力「ホイスト」及五馬力「ブランチヤーポンプ」ヲ設置セリ

昨年來繼續セシ大仙坑四百尺立入ハ本年五月赤榮脈ニ出會ス其鑛幅二・一米突走向北八十五度西傾斜南六十五度ニシテ錫平均一・七%ヲ含有ス

本坑ヨリノ東北立入ハ三月東山脈ニ出會セリ其鑛幅一米突含錫平均二%又同月北一坑ヨリノ東南立入ニテハ幅脈ニ逢着ス其幅三〇厘含錫平均八%アリ共ニ鑛況良好ナリ

赤榮脈二本松脈大仙脈ハ各々白岩層以南鑛況不良ナルヲ以テ專ラ北部並ニ下部ノ開發ニ努ム赤榮脈二百尺坑北押ハ漸次好況ニ向ヒ幅員一米突乃至二米突ニ及ヘリ

二本松脈二百尺北ハ八月中旬昨年來ノ不良地帯ヲ脱シ錫二%ノ鑛押ニ好轉セリ大仙脈ニ於ケル二百尺坑北四百尺坑北ハ共ニ盛況トナリ特ニ二百尺坑北ハ昨年ノ不況ニ比シ隔世的ノ感アリ

又大仙坑ノ地表探鑛ニ於テハ中央坑脈ニ接近シテ幅員一・二米突含錫二%巾三〇〇〇兩脈ヲ發見セリ

南谷七十尺坑第一層ハ北部ニ於テ層ノ厚サ七米突ニ及ヒ鑛況益々良好ナリ同坑八號立入ハ本年七月新鑛層ニ出會ス五十尺坑東押ニハ鑛石捲揚用ニ五馬力「ホイスト」ヲ排水用ニ五馬力「タービンポンプ」ヲ各々設置シ鑛層ニ沿フ斜坑ノ開發ヲ開始セリ斯クノ如ク南谷坑方面ノ發展ニ伴ヒ鑿岩機操業ヲ擴張シ五〇馬力壓氣機ヲ増設セリ尙試鑛探鑛ニ留意シ本年十月ヨリ水晶山附近ニ上總式試鑛ヲ開始セリ

明延坑南谷坑ノ發展ニ基キ昨年準備作業ヲ開始セシ神子畑選鑛場ニ至ル三千九百三十五米突ノ明延坑道ノ開發工事ハ本年度ヨリ之レヲ開始シ該施設トシテ南北兩口ニ五十馬力壓氣機ヲ各一臺設置シ兩口ヨリ鑿岩機掘進ヲ施シ架空線式四噸電氣機關車ヲ兩口ニ配置セリ

●●●●● 中瀬鑛山 金銀銅鉛安質母尼砒 兵庫縣養父郡關宮村 鈴木仁十郎

從來稼行中ノ石間歩鑛床ニ於ケル本坑地並以下ハ曾テ前鑛業權者カ一部探鑛ヲ行セタルノミニテ中止シ其後久シク浸水ノ儘ナリシヲ本年一月五馬力複動式「フランジャー」唧筒一臺ヲ据付ケ排水ヲ完了セルニ舊坑ハ深サ百二十尺ニシテ其間六十尺毎ニ水平鑛押坑道アリ鑛況見ルヘキモノアルヲ以テ更ニ八月ヨリ第一坑道ノ探鑛掘進及石間歩第二兩坑間ノ鑿坑開發ニ着手シ來年三月完成ノ筈ナルカ前者ハ舊引立ヨリ東ニ約十五尺掘進シタル所ニ鑛幅一尺乃至二尺含金萬分ノ一内

外ノ富鑛部ニ當リ尙探鑛中ナリ又後者ハ舊坑井ヲ利用シ掘下シ年未迄ニ約百尺ヲ開發シ其内石間歩、第一兩坑間ノ六十尺ハ捲揚裝置ヲ施シ五馬力單胴式電氣捲揚機ヲ設ケテ運搬ヲ便ニセリ前記唧筒及捲揚機設置ノ結果之カ原動機トシテ石間歩坑外ニ十五馬力「デイセル」機關一臺及七・五「キロワット」直流發電機一臺ヲ設置セリ

●●●●● 生野鑛山 金銀銅鉛錫亞鉛鋅鉛重石砒 兵庫縣朝來郡生野町 三菱鑛業株式會社

金香湖五井富鑛部ノ下底部ノ探鑛ヲ目的トセル十五番坑ヨリノ掘下リ開發ハ本年三月豫定延長ノ十七番坑（高距五〇米突）ニ達シタルヲ以テ直ニ東立入ヲ開始シ六〇米突ニシテ着鑛シタルモ岩脈、斷層數多錯綜シ鑛況不定ナリ然レ共本坑道ニ於テ五井富鑛部ノ開發探鑛ヲ必要トスルヲ以テ豎坑設備ヲ完成ス可ク本年八月ヨリ同坑道ノ鑛押掘進ヲ中止シ十五番十七番間ノ梓組支柱作業ヲ開始シ來年三月ヨリ「ケージ」ノ昇降及鑛押探鑛ヲ開始スル豫定ナリ

前年度鑛況頗ル優勢ナリシ十三年鑛ハ下底ニ進ムニ從ヒ鑛況劣勢トナリシニヨリ銳意他方面ノ探鑛開發ニ努メ一時中止セシ十五番北向掘進ヲ七月ヨリ再開シ北十號以北ニ存在スル走向延長一五〇米突ノ北部大富鑛部ニ向ツテ立入開發ヲ開始セリ又十五番南押ハ前年末五井富鑛部ノ南端ニ達シ鑛況劣化セルヲ以テ一時中止セシモ本年八月ヨリ十一番南十號以南ノ亞鉛鑛部直下ノ鑛況探究ノ目的ヲ以テ開發ニ着手セリ

慶壽九番立入ハ本年八月着鑛セリ鑛幅一・五米突平均亞鉛品位一〇%内外自然銀ヲ含有シ鑛況良好ナリ

本年七月立入ヲ開始セシ七番坑地並金盛立入ハ十一月掘進一〇〇米突ニテ着鑛ス鑛況良好ナリ

前年度ヨリ掘進繼續中ノ二番坑蟹谷立入ハ本年七月着鑛之レヲ南北ニ展開シタルニ北押ハ一時鑛況良好ナリシモ漸次衰退シ南押ハ約七〇米突掘進シタルニ鑛況良好トナリ鑛幅二米突銅品位一・五%亞鉛七・八%ヲ有ス、同下底ノ探鑛ヲ目的トスル九番蟹谷立入ハ豫定掘進延長四五〇米突ノ内本年度未迄ニ掘進延長三八〇米突ヲ開發シ明年三月着鑛ノ豫定ナリ

其他千珠本鑛ノ北部東側ニ存在スル平行脈眞盛鑛ノ探鑛ヲ目的トシテ本年八月ヨリ千珠二番地並眞盛鑛立入及ヒ一時中止セシ金盛鑛南部探鑛ヲ目的トスル四番東立入ヲ復活シ開鑿ニ着手セリ

以上ノ立入並ニ鑛押ハ凡テ鑛岩機ヲ使用シ高サ二米突幅一・八米突ナリトス

運搬方法ノ改革トシテ金香瀨五番坑道十二井堅坑捲揚ヨリ搬出セラレタル鑛石ヲ五井堅坑五番「ブラット」附近ノ坑井迄運搬スル爲メ其間延長一千九百尺ノ電車軌道（機關車重量三噸馬力二〇軌條二〇封度軌距一尺六寸五分單線鑛車磁製容積二二才自重三二〇噸積載重量一噸「ローラー」ベアリング」付連結車數三〇輛運轉速度最大毎時五哩）ヲ敷設シ本年十二月完成シタリ尙又前年六月下期ヨリ着手セシ大盛金香瀨間連絡工事（右電車軌道ノ延長線路）ハ着々進捗シ研泥土ノ搬出並ニ支柱作業ノ全部ヲ了リ二〇封度軌條ヲ敷設シ更ニ電車觸輪線ノ架設竣工ノ上太盛新堅坑並ニ金香瀨五井堅坑捲揚機據替工事ト共ニ明年四月全部ヲ完成スル豫定ナリ

次ニ神子畑選鑛場ノ施設改善トシテ瘡泥處理ノ目的ヲ以テ前年ヨリ引續キ工事中ノ九尺×八尺「オリバーフィルター」二臺ハ本年四月ヲ以テ工事完成セリ

將來ノ計畫トシテ金香瀨太盛間ヲ連絡スル隧道開通ノ曉ハ現在ノ銅選鑛場ヲ改修シテ金香瀨並ニ本部ニ設置セル各選鑛場ヲ合併統一スル計畫中ナリ

神子畑選鑛場從來一ヶ月明延合銅粗鑛約三千噸ト舊泥鑛八百噸ヲ處理セルモ明延神子畑間隧道開通ノ上ハ明延粗鑛一ヶ月四千噸以上ヲ處理シ得ル機諸設備擴張ノ計畫中ナリ

竹野鑛山 金銀 兵庫縣城崎郡中野村 日本産業株式會社

前年度ニ於テ七坑着脈點附近ヨリ堅坑一〇〇尺ヲ開鑿シ本脈ノ下底ヲ探鑛セシニ鑛況益々良好ナリシヲ以テ本年二月幅

五尺五寸長サ一三尺ノ堅坑進鑿ヲ企テ「チャックハンマー」鑿岩機ヲ以テ六月中旬一〇〇尺ヲ掘下ケ完了ヲ告ケ之ヲ九坑ト命名セリ更ニ九坑ヨリ鑛入坑道ヲ開鑿シ約一五〇尺ニシテ本脈ニ逢着スルコトヲ得タリ鑛申稍縮少ノ觀アレトモ鑛況良好ニシテ掘進繼續中ナリ之カ爲メ堅坑捲揚用トシテ二〇馬力「リチャード」式單胴捲揚機一臺ノ増設ヲ見タリ

又一方本脈ノ西部約五〇〇尺ヲ距テ之ニ平行セル須井脈探鑛ノ目的ニテ第四坑準ニ鑛入ヲ行ヒシカ幅員五尺餘ノ同脈ニ逢着シ南北ニ三〇〇尺餘鑛押ヲ試シタルニ銀分ニ富ム良鑛介在セルヲ以テ引續キ上部探鑛ヲ行ヒ己ニ二〇〇尺ニ達スルモ依然トシテ鑛況優勢ヲ示セリ

尙本脈下底ノ鑛況斯クノ如ク良好ナルヲ以テ將來九坑以下ニ對シ更ニ堅坑開鑿ヲ續行シ十坑ヲ開發スルト同時ニ前記須井脈上部ノ探鑛及其他數個ノ露頭ニ對シテモ積極的探鑛ヲ試ミル計畫ナリ

沖ノ浦鑛山 金銀 兵庫縣城崎郡口佐津村 日本産業株式會社

二月起工セル九坑ヨリ十坑ニ至ル堅坑ハ「チャックハンマー」型鑿岩機ヲ以テ進鑿ヲ續ケ五月竣工ヲ見又九坑ニ於テハ依然トシテ鑛況優勢ナルヲ以テ前年ニ引續キ鑛押ヲ試ミ同時ニ十坑ニ於テモ亦鑛入ヲ開始シ極力探鑛中ナリ

尙次年度ニ於テハ十坑ヨリ更ニ下底ニ向ヒ探鑛ヲ施シ他方本脈ノ北ニ並走セル北鑛ニ對シ六坑上部ニ於テ探鑛ヲ試ミントスル計畫ナリ

飯盛鑛山 銅硫化鐵 和歌山縣那智郡藤生津村外一 古河鑛業株式會社

五坑道西向約三五〇〇尺ノ地點ニ於ケル斜距距離三四〇尺（垂直距離二〇〇尺）ノ下部鑛石捲揚用斜坑開鑿ハ諸般準備作業ヲ完成シタルヲ以テ「ライナー」二六番型鑿岩機二臺ヲ使用シ高七尺巾一四尺ノ大サヲ以テ掘下ヲ開始セリ

更ニ又前年ヨリ計畫セル五坑道地並鑛車運搬用機關車ハ豫定ノ如ク本年ニ入り其運轉ヲ開始スルニ至レリ右ハ二〇馬力

「フォードガソリン」機關車一臺ニシテ一車二〇〇貫装入ノ鑛車八輛ヲ牽引シ一日一〇乃至一五回往復スルモノトス
次ニ運鑛ニ關シテハ四坑選鑛場ニ於テ「ドラツグクラツシファイヤー」一臺「ウイルフレーターブル」一臺及二坑選鑛場ニ
「ウイルフレーターブル」一臺ヲ設置セリ

尙將來ノ計畫トシテ明年モ亦繼續作業スヘキ前記新斜坑完成ノ上ハ六坑道及六坑中坑道ヲ東西ニ開鑿延長ノ豫定ナリ
岩美鑛山 銀銅 鳥取縣岩美郡小田村 日本産業株式會社

大盛鑛下底探鑛ノ爲メ本年九月ヨリ大盛堅坑掘下作業ヲ開始シ年末迄ニ於テ四十四米突ヲ掘進セリ右堅坑ハ梓ノ長サ十
一尺八寸巾五尺四寸ニシテ之ヲ三間ニ區分スル樣設計セラレタリ掘鑿ハASD二〇番型鑿岩機ヲ用ヒ二交替ニテ作業シ
又捨石搬出ノ爲メ電力二〇馬力複胴「スキップ」捲揚機ヲ設置セリ

笹谷鑛山 銀銅亞鉛砒 鳥取縣鹿足郡細道村外一 堀 藤十郎

前年來繼續作業タル最下底ニ於ケル堅坑第三坑道準以下ノ東部安山岩脈接觸部分探究ハ著シク効ヲ奏シ本年六月ニ至リ
テ豫想ノ鑛塊ヲ捕捉シ爾來探掘ノ結果走向略ホ東西傾斜北五〇度東ヲ示シ幅員一〇尺乃至二〇尺含銅量二〇%内外ナル
コトヲ確認セリ斯クシテ走向ニ對シ五〇尺餘ヲ掘進シタルモ鑛物ノ存在確實ナリキ

又堅坑第三坑道ノ西部ニ於ケル掘下ケ探鑛ハ坑道準ヨリ二〇尺ノ下底ニ及ヒテ鑛質急變シ含銅量五乃至一五%ニ上昇セ
ルヲ以テ引續キ高サ及幅各五〇尺長サ六〇尺ノ廣キニ亘リ探掘中ナルモ未タ鑛物存在ノ限界ヲ認ムルニ至ラス
尙堅坑第三坑道西部斷層ノ掘下リハ其深サ七〇尺餘ニ達シ鑛物ハ下底ニ對シ其發展優勢ナルヘキヲ豫想セシムルヲ以テ
來年度ニ於テハ之ヨリ更ニ三〇尺ノ下底ニ堅坑第四坑道ヲ開鑿シ該坑道準ヨリ坑内大堅坑ニ至ル連絡坑道開鑿ノ後上部
堅坑ニ貫通セシムル計畫ナリ

柵原鑛山 銅硫化鐵 岡山縣久米郡吉岡村外二 藤田礦業株式會社

柵原新鑛體ハ一昨年九月發見以來探鑛ヲ繼續シ略其輪廓ヲ確メ得タルヲ以テ本年度ニ入りテハ探鑛準備ニ移リ一、二、
四、六、七番ノ各坑道準ニ於ケル準備坑道ヲ開鑿シ傍ラ外部ニ向ツテ探鑛作業ヲ繼續セル結果鑛床ハ豫想外ノ發展ヲ示
シタリ即チ本年九月中旬着手セシ新鑛體一番坑道二條通東四號中段ニ於テ富鑛體ヲ發見セルカ探鑛ノ結果北方ニ向ヒ豫
定地點ヨリ既ニ二百尺ヲ超ニ又東西ニ於テモ百尺ヲ掘進セルモ尙鑛體ノ伸展ヲ認メラルルモノナリ

其他新規方面ノ探鑛トシテ特筆スヘキモノニアリ一ツハ新坑道四番坑道準ニ於テ鑛體ノ西端ヲ探ラントスルモノニシテ
該方面ハ下柵原地表ニ於テ嘗テ「シユラムベルゲル」式電氣探鑛ヲ行ヒ有望視セラレシヲ以テ地表ト坑内トノ狀況ヲ考慮
シ四番坑道準ニ於テ前記ノ如ク新鑛體ノ西端境界ヲ離レテ約三百尺直進シソレヨリ南方ニ直進スル計畫ナルカ本年度ニ
於ケル掘進延尺ハ約四百尺トス坑道ノ加脊ハ概ネ五尺×六尺ニシテ「デムグアー」式モデル「七番型鑿岩機」ニ依リテ作業セ
リ他ノ一ツハ充墳坑道地並ニ於テ休石坑ニ至ラントスル大探鑛ニシテ直距約三千尺柵原及休石兩坑ノ中間ニ於ケル從來
ノ末探鑛區域ヲ窮メントスルモノニシテ五尺×六尺ノ加脊ヲ以テ「デムグアー」式モデル「七番型鑿岩機」ヨリ掘鑿ヲ續行
セリ

該方面ハ概ネ硅化粘板岩ト輝綠岩トノ接觸部ニ當リ嘗テ「シユラムベルゲル」式電氣探鑛法ニ依リテ調査セラレタル箇所
ニシテ休石ニ向ヒ更ニ西北金掘舊坑方面ヲ併セ探ラントスルモノニシテ本年度ニ於テハ約五百尺ヲ掘進セリ

硫化鐵ノ需要増加シタルヲ以テ本年四月ヨリ約八割ノ増産ヲナスコトトシ既設充墳用第二堅坑ヲ改修シテ五十馬力電氣
「スキップ」捲揚機ヲ増設スルト共ニ既設山元矢田間ノ架空索道(延長約八哩運搬力十時間三百噸)ヲ改修シ送鑛量十時間
四百噸ニ増大シタリ

次ニ本年七月着工シタル新大堅坑「ブラット」ヨリ吉ヶ原ニ至ル直線距離約二千三百尺加脊十五尺×十尺ノ大通洞ハ本年末現在ニ於テ總延長約七百二尺ニ及ヘリ該洞ハ當山將來ノ主要運搬坑道トシテ鑛量増産ノタメ計畫セラレシモノニシテ實現ノ上ハ現在ノ索道ニヨル鑛石輸送ヲ更メテ私設片上鐵道ヲ吉ヶ原迄延長シ之ト連絡セシムル方針ニテ當山輸送機關ノ變革ニ關スル一大工事ナリトス

本工事ハ大体ニ於テ昭和五年三月末迄ニ竣工ス可キ豫定ニテ「デムグアー」式モデル七番型鑿岩機二臺ヲ併用シ晝夜兼行ニテ作業中ナリ

前年來開鑿中ノ新大堅坑ハ開鑿作業ヲ完了セリ本堅坑ハ深サ六番坑ヨリ運搬坑道準迄三百七十九尺「ヘッドギアー」七十尺ヲ加ヘテ約四百五十尺ニ達スル旨堅坑ニシテ其構造ハ内徑十三呎巾九呎ノ長方形トシ之ヲ三區劃ニ分チ二區ハ鑛車二輛ヲ縱列ニ積載スル「ケージ」捲用トシ他ノ一區ハ人道及送風排水管等ノ敷設ニ使用スルモノナリ

尙本鑛山ニ於テハ從來ノ成績ニ微シ鑿岩機應用ノ利得ヲ認メ漸次之ガ増大ノ方針ヲ以テ從來使用セシ小型空氣壓搾機二臺ヲ豫備トシ新ニ左記一臺ヲ増設シ都合型二臺ヲ以テ全鑿岩機ヲ運轉スルコトトセリ

空氣壓搾機

「インガーツ」ラランド「PRE」二型複式電動機直結型

排氣量 毎分千三百二立方尺

空氣壓力 八十乃至百封度

附屬電動機 二百二十五馬力

又鑿岩機ノ統制ヲナス爲メ「デムグアー」式モデル「七」型標準ニ撰定スルト共ニ同型三臺ヲ増設シ益々之カ能率増進ヲ圖リ

ツ、アリ

次ニ除害施設改善トシテ左記ノ如ク沈澱池一部ノ擴張工事ヲ行フヘク本年末著手シ明年六月頃迄ニ完成ノ豫定ナリ

沈澱池 内徑 三十五尺×五十尺×八尺 一個

乾泥池 同 三十尺×三十尺×四尺 二個

尙將來ノ計畫トシテハ前記大堅坑ノ捲揚機關トシテ約二百五十馬力ノ電氣捲揚機ヲ新設シ尙吉ヶ原ニ至ル運搬坑道ニ於ケル運搬機關ハ現在未定ナルモ電力使用ニヨル「エンドレスロープ」或ハ電氣機關車ヲ採用セントス

右運搬坑道完成ノ上ハ久木運鑛場ヨリ備前矢田驛間ノ玉村式單線架空索道輸送ヲ廢シ運鑛場ヲ吉ヶ原ニ移轉シ片上鐵道ヲ延長セシメ今後私設鐵道ニヨル輸送ヲ行フ計畫ナリ

淺川鑛山 銅硫化鐵 德島縣海部郡淺川村外一 平野編吉

前年發見セシ新鑛體ハ鑛況依然良好ナリ新鑛床開發ノ結果坑内ノ運搬ハ從來施設ノ人力捲揚機ニテハ運搬力不足ヲ感スルニ至リタルヲ以テ之レヲ廢シ第一及第二兩捲揚坑道ヲ改修シテ之レニ各五馬力電氣捲揚機ヲ設置シ德島縣海部水力電氣株式會社ヨリ電力ノ供給ヲ受ケ九月ヨリ其運轉ヲ開始セリ

三好鑛山 銅硫化鐵 德島縣三好郡三庄村 日本産業株式會社

前年來繼續中ノ二坑三坑及四坑ニ於ケル探鑛ノ結果ハ二坑ニ於テ東延百十八米突參坑ニ於テ東延百三十五米突又四坑ニ於テハ東西延百三十六米突ヲ各掘進シタリ鑛況依然良好ナリ

尙坑外ニテハ本年十月選鑛場西方毛田山ヨリ黒長谷ニ至ル延長九百四十五米突間ニ複線式自動索道（軌條索徑二二耗）ヲ設ケ大ニ運搬ヲ便ニセリ

三●●●●● 銅硫化鐵 德島縣三好郡三福村外一 日本産業株式會社

本山ニ於テハ三坑東部ニ於ケル鑛況益々良好トナリシヲ以テ第七斜坑ニ於ケル運搬ニ備フル爲メ同斜坑第三坑道ニ五馬力單胴式電氣捲揚機ヲ設置シ又坑外ニテハ既設選鑛場ノ設備不充分ニテ粉鑛ノ處理不完全ナルヲ以テ之ヲ補フヘク「ハルツ」式「デツガー」「ゼームス」式「テーパー」及五馬力電動機各一臺ヲ設備セル選鑛場ヲ増設シタリ

高●●●●● 銅硫化鐵 德島縣麻植郡三山村 共立鑛業株式會社

鑛床ハ猶下底ニ多大ノ鑛量ヲ埋藏スル見込ニテ其探鑛ヲ目的トシ前年度大通洞下三百尺準ヨリ斜坑ハ掘進百五十尺ニシテ良鑛體ノ存在ヲ明確メルニ至レリ同斜坑ハ本年二月延長二百五十尺ニシテ下四百尺準ニ達シ直ニ錐押探鑛ニ移リタルカ鑛況依然良好ナリ

元來當山ノ鑛床ハ下部ニ進ムニ從ヒ著シク南方ニ發展スル傾向ヲ示シ大通洞下三百尺準ニ於テハ大堅坑ノ西南約五百尺ノ位置ニ於テ南北ノ方向ニ亘レル大斷層アリ其レヨリ以西ハ上部各坑共鑛況微々トシテ振ハス數尺若ハ數十尺ヲ掘進セハ鑛體ハ自然ニ尖滅スルヲ例トセシカ下四百尺準ニテハ既ニ斷層豫定線ヲ突破スルコト數十尺ニ及ヘルニ未タ出現セス既述ノ如ク大通洞下四百尺準ニテハ一大富鑛體ヲ顯ハセルヲ以テ更ニ下底ノ狀況ヲ探ラン爲下三百尺準大堅坑西南五百二十尺ノ位置ニ於テ「ダイアモンド」式試鑛ヲ試シタルモ鑛體ニ當ラサリシヲ以テ中止セリ蓋シ鑛體ハ當山特有ノ傾斜ニ沿ヒ褶曲セルモノト想像セララルヲ以テ更ニ探鑛方針ヲ更ヘ下四百尺準坑道大堅坑西南四百五十尺ノ箇所ヨリ堅坑ヲ下シ下四百五十尺準ニ達セシメ其坑底ヨリ東ニ向ヒ鑛入坑道ヲ開鑿中ナリ

次ニ前年來下四百尺準ニ於テ大堅坑ノ西南方四百尺ノ位置ヨリ大堅坑ノ直下ニ向ヒ手掘ニテ開鑿中ナリシ主要運搬坑道ハ本年度ニ至リ鑛岩機掘ニ改メ工事大ニ進捗シ十月ニ至リ大堅坑道直下ニ達シタルヲ以テ直チニ其レヨリ「ハイドロマ

ツクス」ニテ切上リ十一月下三百尺準ニ於テ同堅坑ニ貫通シタリ其結果大堅坑ハ年末ヨリ下四百尺準迄使用スル事ヲ得ルニ至レリ

金●●●●● 銅硫化鐵 愛媛縣喜多郡出海村外一 三菱鑛業株式會社

電氣探鑛ノ結果ニヨリ前年來繼續實施セル試鑛探鑛ハ未タ新鑛床ヲ發見スルニ至ラサルヲ以テ本年度更ニ坑外ニ於テ改良上總掘式試鑛機及三馬力電動機各一臺ヲ増設シ尙坑内ニ於テモ「クレアス」式金剛石試鑛機一臺ヲ備ヘ坑外ニテハ七箇所又坑内ニテハ二箇所ニ試鑛シタルカ未タ鑛床ニ當ラス引續キ探鑛中ナリ

又新盛三坑道以下ヲ探掘スル目的ニテ前年來開坑セル斜坑ハ本年度其掘進約四十米突ヲ完成シタルヲ以テ單胴式五馬力捲揚機ヲ設置シテ其運搬ヲ開始シタリ

伊●●●●● 鑛山 金銀銅硫化鐵 愛媛縣宇摩郡土居村外一 新居田直太郎

昨年來ヨリ通洞坑ノ上下ニ涉リ探鑛ヲ兼テ探鑛ヲ繼續セルニ鑛況依然良好ナリ

通洞坑掘下リニハ七馬力半ノ輕便捲揚機並ニ一馬力「ロータリー」式唧筒ヲ設置シ下底開發ニ努メタリ
本年十月左記壓氣機鑛岩機ヲ設置シ益々出鑛ノ増加ヲ計レリ

壓氣機 SLM「ロータリー」式「エヤーコンムプレッサー」 一臺

馬力四二 回轉數一一八〇 容量一七五立方尺

電動機 BBC「モーター」 一臺

壓縮機直結用 馬力四八 二二〇ボルト

鑛岩機 四三〇番型「ジャックハンマー」 二臺

足尾式一ノ番型

變壓器

別子鑛山 金銀銅硫化鐵 愛媛縣宇摩郡別子山村外二 住友別子鑛山株式會社

三臺
三臺

本山十一番坑道ニ於テハ下部ヨリ採掘接近スルニ伴ヒ其影響ニヨリ軌條ニ狂ヲ生シ甚シク運搬力ヲ低下シ且坑道保存上ニモ支障多キヲ以テ本年一月ヨリ十一番坑道東三・五號間約二十尺ノ下磐ニ切替坑道ヲ開鑿シ本年度ニ於テ約八百尺ヲ掘進セリ、又昨年度來準備作業中ナリシ東二號斜坑(十一番十四番間)ノ開鑿ハ豫定ノ如ク進捗シ僅カニ十三番十四番坑道間ニ約百三十尺ヲ殘スノミトナリタリ

選鑛設備ニ於テハ昨年八月端出場選鑛場ヲ完成シ一部ノ運轉ヲ開始シタルモ本年十月ニ至リ更ニ全部ノ運轉ヲ開始スルニ至レリ又篠津支山ニ於テハ手選鑛場ヲ完成シ六月ヨリ操業ヲ開始シ以テ鑛石運賃ノ節減及ヒ本山ノ選鑛成績ニ對シ大ニ效果ヲ舉ケ得タリ
其施設ノ概要左ノ如シ

一ヶ年取扱元鑛量 五五、〇〇〇噸(最大豫定量)
一ヶ年產出精鑛量及數量

硫化塊鑛 二五、〇〇〇噸

比重選鑛元鑛 一六、〇〇〇噸

「セーキングスクリーン」

二臺

シーブプレートトハ一時三分ノ一ノ孔ヲ有ス

長サ十呎 巾四呎

「ドラムファイダー」

二臺

廻轉胴 經二呎八吋 巾二呎六吋 廻轉數毎分八回

手選鑛帶

巾三十吋 長十四呎九吋

十度ノ上リ勾配速度一分間三十呎

原動機ノ種類ノ種類及實馬力

種類 三相交流電動機

電壓三五〇「ヴォルト」サイクル「110

實馬力 「セーキングスクリーン」用 一〇馬力 一臺

選鑛帶及「ドラムファイダー」 一〇馬力 一臺

四阪島製煉所ニ於テハ前年來漸次擴張中ナリシ熔鑛炉羽口ニ於ケル微粉炭吹込並ニ之カ製造供給設備ハ本年九月ヲ以テ殘部ノ豫備設備ヲ完成セルヲ以テ從來ノ羽口小塊炭ヲ全廢シテ豫期ノ成績ヲ納ムルコトヲ得タリ
又前年度ヨリ工事中ノ轉炉瓦斯ニ對スル電氣收塵本設備ハ本年二月完成シ操業ヲ開始シタリ
尙燒結炉排煙ニ對スル「ペタルゼン」式硫酸製造試驗設備ハ昨年一月完成以來引續キ試驗中ナリシカソノ成績良好ナルコトヲ確メタルヲ以テ同瓦斯ノ全部ヲ該法ニ依リ處理スルタメ本設備工事ニ著手スヘク準備中ナリ又既設燒結炉排煙用鐵製煙道ハ相當腐蝕シ使用ニ堪エサルト前記硫酸製造設備ヘノ通煙ヲ良好ナラシムル爲メ既設吸氣機排出口ヨリ内經二呎

六吋ノ鑄鐵及ヒ内法巾六呎高一呎六吋ノ鑛煉瓦製煙道ヲ以テ在來ノ主煙道及煙突ニ接續セシムヘク工事中ノ處本年四月末完成セリ硫酸洋ニ對スル濕式製煉試驗ハ昨年十一月ヨリ開始シタルモ未タ所期ノ成績ヲ見サルヲ以テ銳意試驗繼續中ナリ最後ニ當鑛山ニ於ケル將來計畫中ノ主ナルモノハ左ノ如シ

(イ) 筏津第二斜坑ノ開鑿

第一斜坑ハ五番坑道準ニ至レハ鑛床ノ落シ方向著シク東方ニ轉位セルヲ以テ鑛床ノ西端ヲ外ルコトナレルヲ以テ新タニ五番坑道準ヨリ九番坑道準ニ達スル延長九百四十四尺(内五番坑道以上八十九尺九番坑道以下五十五尺)傾斜四十五度巾十尺高五尺ノ下磐斜坑ヲ東八號境界線(第一斜坑ヨリ東千六百尺)ニ開設セントス

(ロ) 餘慶坑輕便捲揚斜坑ノ開鑿

鑛床下底ノ探鑛ヲ兼ネ同時ニ各坑道ノ鑛石捲揚運轉ニ資スル目的ヲ以テ鑛床ノ西端ニ沿ヒテ(約三十度ノ傾斜)巾八尺高四尺ノ斜坑ヲ開鑿スルコトニシ昭和四年二月ヨリ着手ノ豫定ナリ斜坑ノ延長大凡六百乃至七百尺ノ見込ナリ

(ハ) 浮選尾鑛ノ「バイブ」流送堆積設備

昭和四年度ニ於テ浮選尾鑛ヲ「サンドポンプ」ヲ以テ水管又ハ「コンクリート」管内ヲ流送セシメ之ヲ山田及金子新田尾鑛堆積場ニ導ク計畫ナリ

(ニ) 燒結炉點火用微粉炭燃燒裝置

燒結炉點火ノ點火ハ現在重油ニ依レルモ之ヲ既述微粉炭ニヨリテ代用シ燃料費ノ節約ヲ計ル目的ヲ以テ目下計畫中ナリ

(ホ) 燒結炉排煙ニ對スル「ベテルセン」式硫酸製造本設備完成ノ曉ニハ更ニ轉炉瓦斯ノ全部ニ對シテ該法ヲ適用シ一層除

害ノ目的ヲ達スヘク計畫中ナリ

(ヘ) 電煉工場電解設備ヲ昭和四年度ニ於テ左ノ通り擴張シ電氣銅及金銀塊ヲ増産セントス

A 電解槽 貳拾四個増設

B 一ケ年取扱元鑛量

合金銀粗銅 凡貳千五百九拾萬斤

C 一ケ年製品ノ種類及數量

電氣銅 凡二千五百二拾萬斤

合金銀塊 凡七千二百貫

丹 礬 凡五十萬斤

D 原動機ノ種類及實馬力

同期電動發電機 一千二百馬力 一臺増加

三相交流電動機 十四馬力増設

(ト) 鐵道運搬

昭和四年七月ヨリ鑛業專用鐵道ヲ地方鐵道ニ改メ當鑛山貨物並ニ一般乗客ノ運送營業ヲナス豫定ナリ

佐々連鑛山 銅硫化鐵 愛媛縣宇摩郡金砂村 岩城鑛業株式會社

下部ノ坑道ノ發展ニ伴ヒ鑛石捲揚用ニ供スル爲メ本年五月中旬第二斜坑ニ十馬力捲揚機ヲ新設シ從來同斜坑ニ設置使用中ナリ

中ナリ五馬力捲揚機ハ本年七月中旬金立坑ニ移設シ下底探鑛用ニ供シタリ

昨年企劃セシ中ノ川發電所ノ起工ハ都合ニ依リ之ヲ中止シ本年六月伊豫鐵道電氣株式會社ト電力賣買ニ關スル締約ヲ了シ爾來電氣施設工事中ノ處其完成ヲ遂ケタルヲ以テ明年一月ヨリ一日八〇「キロワット」時ヲ受電シ得ル豫定ナリ
右受電施設ノ主ナルモノハ佐々連發電所ニ於ケル變電所ノ増設乃チ單相三〇KVA變壓器四臺ノ新設ナルカ更ニ壓搾機原動力トシテ五〇馬力高壓電動機一臺ヲ設置シ押淵索道中間驛ニ於テモ索道原動力トシテ同シク五〇馬力高壓電動機一臺ヲ新設セリ

大峰鑛山 銅硫化鐵 愛媛縣西宇和郡宮内村外一 大峰鑛山株式會社

本鑛山ハ近年鑛況兎角振ハス爲メニ採鑛ハ漸次衰退スルノ傾向ニアルヲ以テ特ニ採鑛ニ努力シツツアリシカ其結果最下底十二番坑南ニ於テ十二月優良ナル新鑛體ニ逢着シ年末迄走向ニ六十尺ヲ掘進シタルニ厚サ最大三尺五寸品位含銅七%ニシテ頗ル優勢ヲ示セリ之レヲ十二番鑛ト命名シ引續キ採鑛中ナリ又五番坑南ニ於テハ曾テ石目ノ爲メ斷絶シ其鑛體ヲ見失ヒタル第四層鑛ノ小脈ヲ辿リテ探鑛セシニ十一月其直上約二十四尺ノ所ニテ鑛體ヲ發見セリ厚サ二尺乃至四尺品位含銅七%ノ良鑛體ニテ之ヲ五番南鑛ト稱シ引續キ採鑛中ナリ

前年來繼續セル九番坑以下ノ大斜坑掘下ハ本年二月延長四百三十尺ニシテ十番坑ニ達シタルヲ以テ直ニ同斜坑ノ索道ヲ十番坑迄延長シ其運轉ヲ開始スルニ至レリ次テ四月十番坑斜坑ニ七・五馬力電氣捲揚機ヲ設置シ十一番坑ヨリ十番坑ニ至ル延長四百尺ノ捲揚ヲ開始スルニ至リ大ニ坑内下部ノ運搬施設ヲ完備セリ
又鑿岩機ハ從來採鑛ニ約八臺ヲ常用セシモ探鑛ニテハ僅カニ一臺ヲ當テタルニ過キサリシカ本年七月尾尾式鑿岩機三臺ヲ増加シ之ヲ採鑛ニ使用スルニ至レリ

尙當山產出鑛石ハ近來漸次精狀ノモノヲ増加シ爲ニ從來ノ選鑛法ニテハ充分ナル結果ヲ得難キニ付本年度ニ於テ口徑十

吋×七吋「ブレイキ」式碎鑛機及十馬力電動機各一臺ヲ設置シ鑛石ヲ碎鑛ノ後之ヲ從來使用シツツアル「ハルツ」式跳汰機ニテ選鑛シツツアルカ將來更ニ「ウイルフレーター」一臺ヲ設置スル計畫ナリ

白瀧鑛山 銅硫化鐵 高知縣土佐郡大川村 日本產業株式會社

本年七月九番坑引立ニ於テ同坑以下ノ探鑛及運搬ヲ目的トシ大サ横一・八米、縱二・八米、深度五〇米ノ九番坑第一堅坑開鑿ニ著手シ本年九月掘下用十馬力電氣復胴捲揚機ヲ設置シBCRW四三〇番及W.T三七番型鑿岩機ヲ以テ掘鑿ヲ續ケ本年末三四米ノ延長ヲ見タリ

尙將來ハ白瀧坑内ニ前同斷ノ目的ヲ以テ大サ横一・五米、縱四米、深度七〇米ナル九番坑第二堅坑開鑿ノ上之ニ三〇馬力復胴電氣捲揚機一臺ヲ設置シ更ニ樞ノ木坑及大川坑ニ於テハ夫々探鑛能力ヲ増大センカ爲メ前者ハ現在容量一二〇立方尺ノ壓氣機一臺ヲ二五〇立方尺ノモノ一臺ニ變更シ後者ハ容量二五〇立方尺壓氣機一臺ノ増設ヲ試ミ一方本山選鑛場ニ於テハ粉鑛處理用トシテ「ハルツ式ジツガー」及「ウイルフレーター」式淘汰盤各一臺宛ヲ増設シ泥鑛處理用トシテkk油選鑛機二臺ノ新設ヲ企テ併テ捨石推積場ノ一部ヲモ擴張セントスル計畫ヲ有ス

下川鑛山(試登第一〇四二號) 銅硫化鐵 高知縣長岡郡吉野村 日本產業株式會社

昨年十一月著手以來専ラ手掘探鑛中ニシテ本年ニ入り鑿岩機運轉ノ目的ヲ以テ白瀧鑛山配電幹線ヨリ分岐セシメ六一五〇米ノ間高壓送電線ヲ架設シ同時ニ左記壓氣機電動機及鑿岩機ヲ設置セリ

壓氣機

種類	個數	備註
カードナー橫置單箱	一	臺

シリンドー徑八吋ストローク八吋
容量一三九立方尺

壓氣機用電動機

種類	三相支流誘導
個數	一臺
馬力數	三〇

鑿岩機

W、T、三七番型	一臺
# 二六番型	一臺
B、C、R、四三〇番型	一臺

宗國鑛山 山口縣美祇郡長田村 鑄谷正輔

本年二月以降探鑛ニハ全部鑿岩機ヲ使用シ壓氣機「サリバン」WG6七十五馬力一臺、鑿岩機「サリバン、レータハンマードリル」三臺、「サリバンDT四二トライストパー」二臺、足尾式十一番型「ハンマードリル」三臺、同十二番型「トライストパー」二臺ヲ増加セリ、坑内排水設備トシテ十五馬力堅型三聯式「ブランシャール」唧筒一臺、坑内運搬設備トシテ十五馬力「スキップ」捲揚機一臺ヲ設置セリ

又一ヶ月間處理鑛量四十二萬貫ノ機械選鑛場ヲ新設シ五月ヨリ操業ヲ開始セリ選鑛機械並ニ附屬裝置ノ主ナルモノハ「ブレイキクラツシャー」十五吋×九吋一臺、同十吋×四吋一臺、「トロンメル」二十吋及三十吋複合式四吋×八吋一臺、「ハ

ーデンデ、コニカルボールミル」六呎×三十吋一臺、「ドラツクベルト、クラツシフアイヤー」二呎×三十吋一臺、「ウヰルフレ、サンドボンブ」二吋五馬力一臺、KO式浮游選鑛機十呎「ダブル」一臺、同十呎「シングル」一臺、「ドア、シツクナー」十呎×八呎一臺、「オリバー、フィルター」四呎×四呎一臺、「タービン」唧筒五馬力毎分六立方呎一臺、同七・五馬力毎分十立方呎一臺等ナリ

尾平鑛山 銅砒錫安質母尼 大分縣大野郡長谷川村 上田源三郎

選鑛採收率ヲ増加セシムル目的ヲ以テ從來ノ設備ニ加フルニ徑三尺水壓式分級器、二呎×八吋「コニカルボールミル」、六呎×十吋「ドア、クラツシフアイヤー」、十番型「ウヰルフレ」、ターブル、直徑十四尺深サ七尺「ドア、シツクナー」、直徑十四尺回轉式「ラウンドフレイム」各一臺ノ設備ヲ以テセリ之カ爲ニ從前ニ比シ著シク實收率ヲ増加セシムルヲ得タリ、製鍊ニ於テハ粉精鑛及煙灰團鑛用能力一晝夜百貫大サ幅二尺五寸高サ二尺長サ五尺「レット」型外部加熱式團鑛炉一基ヲ新設セリ而シテ前年八月開始セル製鍊ヲ引繼キ操業シタル爲メ本年度ハ十一割七分餘増産セリ

横峰鑛山 金銀銅 宮崎縣東臼杵郡北方村西臼杵郡七折村 三菱鑛業株式會社

日ヶ暮五號鑛層下部探鑛ハ本年度ニ入リテ五坑道中段、五坑道、六坑道中段、六坑道ノ四坑道ヲ開發シ各坑道共鑛幅一尺乃至四尺ニシテ頗ル良好ヲ示セリ最下部六坑道ハ約二十米鑛押ヲナスト同時ニ掘下ニ依リテ益々下部探鑛ヲ進メントス通洞中段地並、日ヶ暮鑛層西端ニ於テ上磐北向二百米ノ豫定ニテ立入ヲ開始シ探鑛中ナリ
東坑通洞地並ノ運搬ハ從來人力運搬ナリシカ之カ機械化ヲナシ機關車（ブルツクビルガンソロンロコモチーブ）重量一・五噸牽引力七百五十封度軌道延長七百七十六米軌距五十噸軌條重量二十封度）一臺ノ運轉ヲ開始セリ尙ホ之カ使用ト同時ニ從來ノ木製鑛車ヲ八百噸入鐵製鑛車ニ變更シ通洞地並ノミニ使用ス之カ爲メ東坑第一坑外貯鑛舎ニ直徑五呎長サ四呎

九吋ノ「チツブラー」五臺ヲ新設セリ

磨泥處理ニ關シ從來ノ沈澱池ヲ通過セル磨泥ヲ更ニ大サ夫々幅二十四尺長サ二十二尺深サ四尺、幅二十二尺長サ二十四尺深サ四尺、幅二十二尺長サ二十五尺深サ四尺ナル三個ノ新設沈澱池ニ導キ泥鑛ヲ極力抽取スルコトニ努メタリ之等泥鑛ハ含銅約一%アルヲ以テ近ク浮游選鑛法ヲ實施シ有價鑛石ノ回收ヲ計ル豫定ナリ

從來ノ熔鑛炉排煙用煙突ノ幾分傾斜シ危險ナルノミナラス作業工程ノ能率ヲ計ルタメニ新タニ混凝土造ノ煙突トナシ同時ニ煙座室ヲ擴大シ煙塵ヲ回收シ又煙道ノ斷面積ヲ増加シテ「ドラフト」ノ良好ヲ計レリ尙ホ熔鑛及真吹壓風用トシテ風量毎分一萬三千立方呎風壓水銀柱八十耗馬力百五十ナル送風機ヲ増設セリ、從來真吹ノ排煙ハ各床煙卷キニヨリナセシモ之等ハ何レモ考朽シ建家モ損傷甚タシク加之產出銅量増加、工場衛生等ヲ考慮シ新タニ炬床五個ヲ増設シ從來ノ内五個ト併置シ鐵管煙道ヲ新設ノ煙道ニ連結セリ

見立鑛山 錫 宮崎縣西臼杵郡岩戸村 東洋鑛山株式會社

坑道補修作業ノ完成ニ因ル採鑛能率ノ増進ニ依リ錫精鑛高百割増産セリ而シテ生産増進ノ爲メ一日二百噸ノ處理ニナスヘク選鑛場及架空索道ノ擴張工事並ニ壓氣機工事ニ著手セリ何レモ明年七月頃完成ノ豫定ナリ

山ヶ野鑛山 金銀 鹿兒島縣姶良郡野村伊佐郡水野村 薩摩興業株式會社

夢想谷坑高塚鑛西部ニ於テ新富鑛帶ヲ發見セリ其ノ大サハ鑛幅數尺乃至五十餘尺走向約三百尺傾斜約二百尺ハ見込確實ナリ

從來鑿岩機ハ總テ探鑛坑道開鑿ニノミ用ヒ居リシモ探鑛方面ノ一部ニ機械掘ヲ採用シ鑿岩機「インガーツルランド、ジャックハンマー」BCRW四三〇番型二臺、同BCRW四三〇番型二臺、同「ストロップハンマー」CC一〇番型二臺、同「スト

ロ）石 炭 山

「パーライナー」A五番型二臺、同「ドリフターライナー」一八番型一臺ヲ設置セリ
製鍊ニ於テハ三十吋×六呎×十五呎、コニカルミル一臺、四呎六吋×十五呎複式「ドーア、クラツシフアイヤー」一臺、八百五十封度「スタンプリル」五本、汰盤回轉數二百十、銜程二吋毎時洩汰量一貫五百匁二臺等ノ増設ヲ行ヒタリ

夕張炭礦 石狩國夕張郡夕張町 北海道炭礦汽船株式會社

五月ヨリ最上層坑ノ開坑ニ著手シ石掘通洞堅入一八〇尺ニテ着炭シ沿層水平坑道七九〇尺ヲ掘進セリ又着炭點ヨリ二八〇尺ノ箇所ヨリ斜坑ヲ開鑿シ現在延長四五〇尺ニ及ヘリ

新坑ノ開鑿並ニ既設坑ノ發展ニ備フル爲メ壓氣機五〇馬力一臺ヲ増設シ又坑内運搬用トシテ電力捲揚機十一臺（一〇馬力一臺、三〇馬力一臺、三五馬力二臺、五〇馬力七臺）、汽力捲揚機二臺（二〇馬力一臺、三〇馬力一臺）、總計一三臺ヲ新設又ハ増設シタル外大新坑六〇馬力捲揚機ヲ五〇馬力電動循環機ニ改設シ尙既設捲揚機三臺ノ改設（馬力増加）ヲ行ヘリ坑内ノ發展ハ通氣量ノ増加ヲ必要トスルニ至リ天龍坑三番坑ニ四呎「チャンピオン」型扇風機（風量二二、〇〇〇立方呎）一臺ヲ設置シ又千歲坑ニ於テハ既設四呎「チャンピオン」型扇風機ヲ八呎同型（風量五〇、〇〇〇立方呎）ニ變更シテ風量増加ヲ計レリ

坑外ニ於テモ坑内ノ發展ニ伴ヒ從來ノ電力五〇馬力捲揚機ヲ八〇馬力ニ改設シテ其能力ヲ増加セリ
事業ノ發展ニ伴ヒ主要動力タル電力ノ使用量モ増加シ來リタルニヨリ之レニ備フル爲メ附屬發電所ニ三相交流六千「キロワット」發電機一臺、同機原動力用トシテ氣機（カーチスタービン）一臺、汽罐二臺ヲ増設セリ

新夕張炭礦 石狩國夕張郡夕張町 北海道炭礦汽船株式會社

坑内運搬力ノ増加ヲ計リ松島坑、宮島坑及若菜邊住吉坑等ニ電力捲揚機總計十臺(一〇馬力二臺、二〇馬力三臺、三五馬力三臺、六〇馬力二臺)ヲ増設シ又四臺ヲ改設セリ

又坑内ノ發展ニ伴ヒ坑外運搬力増加ノ爲メ捲揚機二臺(各六〇馬力)ヲ新設セリ
眞谷地炭礦 石狩國夕張郡夕張町 北海道炭礦汽船株式會社

坑内ノ發展ニ主方ヲ注キ電力捲揚機二臺(神坑ニ一〇馬力一臺、桂坑ニ三五馬力一臺)及壓氣機(二五馬力)一臺ヲ増設シ且ツ楓坑一〇馬力電力捲揚機ヲ五〇馬力ニ替ヘタリ尙坑内ノ發展ニ依リ通氣量増加ノ爲メ六呎「チャンピオン」型扇風機一臺(風量三五、〇〇〇立方呎)及四呎同型扇風機一臺(風量一六、〇〇〇立方呎)ヲ増設セリ

坑外ニ於テハ電力捲揚機一臺(三五馬力)ヲ設置シテ坑外運搬力ノ増加ヲ計レリ
萬子炭礦 石狩國空知郡栗澤村 北海道炭礦汽船株式會社

專ヲ坑内發展ニ努メ鑿岩機用トシテ壓氣機一臺(五〇馬力)、坑内運搬用トシテ電力捲揚機一臺(五〇馬力)ヲ増設セル外牡丹坑三五馬力電力捲揚機ヲ五〇馬力ニ、櫻坑五〇馬力電力捲揚機ヲ一二〇馬力ニ改設シテ運搬力ヲ増加セシメタリ

坑外ニ於テモ運搬力増加ヲ計リ五〇馬力電力捲揚機二臺ヲ新設セリ

美流渡坑ニ於テハ採炭能率増進ノ爲メ載炭機一臺(フロットマン會社E—14)ヲ新設シ又坑外ニ五〇馬力捲揚機一臺ヲ新設セリ

空知炭礦 石狩國空知郡歌志內村 北海道炭礦汽船株式會社

通氣方法ノ改善、採炭並ニ運搬等ノ能率増進ヲ計リ居リ壓氣機一臺(一〇〇馬力)、坑内電力捲揚機三臺(明石坑ニ三〇

馬力一臺、三五馬力一臺、神威坑ニ三〇馬力一臺)ヲ増設シ又明石坑五〇馬力捲揚機ヲ六〇馬力捲揚機ニ改設セリ

明石坑及神威坑ニ六呎「チャンピオン」型扇風機(風量三〇、〇〇〇立方呎)各一臺、三春坑ニ八呎同型扇風機一臺(風量

四〇、〇〇〇立方呎)ヲ増設又ハ新設セリ

幌内炭礦 石狩國空知郡三笠山村 北海道炭礦汽船株式會社

坑内ノ發展ニ努メ布引壓機一臺(三〇馬力)、音羽坑ニ坑内捲揚機一臺(一〇馬力)ヲ設置セリ

坑外ニ於テハ材料運搬用ノ既設十六馬力捲揚機ヲ五〇馬力ニ變更シテ其ノ運搬力ヲ増加セシメタリ

電力ハ從來夕張炭礦所屬發電所ヨリ供給サレ居リシカ事業ノ發展ニ伴ヒ電力使用量激増シタルニ依リ使用電力ノ一部ヲ

幾春別炭礦、空知炭礦ト共同ニテ北海道電燈株式會社ヨリ購入スルコトセリ一ヶ月契約高二、〇〇〇「キロワット」ヲ

リ

幾春別炭礦 石狩國空知郡三笠山村 北海道炭礦汽船株式會社

坑内ノ發展ニ伴ヒ青葉坑ニ六呎「チャンピオン」型扇風機(風量三〇、〇〇〇立方呎)一臺ヲ増設セル外壓氣機一臺(八

〇馬力)排水用唧筒一臺(タービンポンプ二二五馬力)ヲ増設セリ

坑外ニ於テハ運搬力増加ノ爲メ三〇馬力捲揚機一臺ヲ新設セリ

炭質向上ノ爲メ既設選炭場ニ「レヲラベル」洗炭機六臺(中小塊炭用三臺、微粉炭用三臺)、同機用「エレベーター」

四臺、「バンドコンベヤー」一臺、「ロータリースターター」一臺、水切「シリンドラー」二臺及「エレベーター」一臺ヲ

増設セリ又洗炭ニヨル汚濁水處理ノ爲「コンタリット」沈澱池一個ヲ増設セリ

登川炭礦 石狩國夕張郡夕張町 北海道炭礦汽船株式會社

奥澤坑ニ於テハ前年八月ヨリ探礦ノ爲メ斜坑ヲ開坑シ本年ニ至リ其延長七七〇尺ニ達シテ略炭層ノ狀況ヲ明カニセリ依テ同坑方面ト本坑方面トヲ連絡スヘク本坑ニ於テハ坑道奥部(坑口ヨリ七、〇〇〇尺地點)ヨリ斜坑ニ向テ堅入坑道ノ開鑿ニ著手シ目下一、〇〇〇尺ヲ掘進セリ豫定延長四、三五〇尺ナリ又奥澤坑ニ於テハ前記斜坑ノ中途ヨリ此ノ堅入坑道ニ向テ斜坑ノ開鑿ヲ開始シ目下五〇〇尺ヲ掘進セリ

坑内ノ發展ニヨリ壓氣機一臺(五〇馬力)、鑿岩機四臺(インガンソルランドR12二臺、デンバー95二臺)、坑内電力捲揚機二臺(各一〇馬力)、排水用「タービンポンプ」二臺(各八五馬力)ヲ増設セリ

住友歌志内炭礦 石狩國空知郡歌志内村 住友炭礦株式會社

起業中ナル第一斜坑ノ完成ニ努メ壓氣機一臺(三〇馬力)、鑿岩機三臺(サリバンD P 321一臺、同331二臺)ヲ新設シ又通氣ノ爲メ「シロツコ」型扇風機一臺(風量八五、〇〇〇立方呎)ヲ新設セリ尙此ノ外坑外ニ豫備捲揚機一臺(一〇〇馬力)ヲ設置セリ

又第二坑ニ「シーメンス」電氣「コールドリル」一臺、第二斜坑ニ排水用トシテ電力可搬式「ブランジヤトポンプ」一臺、「タービンポンプ」(三〇馬力)二臺ヲ設備シ奈井澤坑ニ汽力捲揚機(二〇馬力)一臺、排水用「ウオシントポンプ」(六×四×六)一臺ヲ新設セリ

第二斜坑ハ坑内ノ發展ニヨリ通氣量ノ増加ヲ必要トスルニ至リ從來ノ風量二萬五千立方呎「チャンピオン」型扇風機ヲ風量五萬立方呎「シロツコ」型扇風機ニ替ヘテ通氣量ヲ増加セリ

坑内ノ發展設備完成ニヨリ出炭量増加シタルヲ以テ既設選炭場ニ「ブラツケット」洗炭機一臺ヲ増設セリ尙捨石堆積場トシテ二〇坪及九〇〇坪ノ板圍ヒ堆積場ヲ造レリ又沈澱槽二個ヲ改設シテ水洗ニヨル汚濁水ノ處理ヲ爲シ

ツツアリ

住友新歌志内炭礦 石狩國空知郡歌志内村 住友炭礦株式會社

事業ノ擴張ニ努メ現坑口準以下ベンケウタシユナイ川上流河岸以上ノ間ニ賦存スル一番層ヨリ八番層迄ノ各層ヲ採掘スル計畫ヲ立テ沿層水平坑道ノ開鑿ニ著手セリ此ノ新坑口ヨリノ出炭ヲ選炭場迄運搬スル爲メニ坑外ニ電力捲揚機(六〇馬力)一臺ヲ新設セリ

市場炭ノ品質向上ノ爲メ山元ヨリ約二里ヲ距ツル神威驛附近ニ機械選炭場ヲ新設シテ「デンマークスクリーン」、「ピツキングバンド」各一臺、共益社式水洗機二臺(能力一時間四〇噸及二〇噸)ヲ設備シテ水洗ヲ開始セリ而シテ水洗ヨリ生スル汚濁水ヲ處理スル爲メ沈澱槽三個ヲ設置セリ

住友唐松炭礦 石狩國空知郡三笠山村 住友炭礦株式會社

前年ヨリ掘進中ノ通洞堅入坑道ハ延長九八三尺ニ及ヒ又水準下採炭ノ爲メ斜坑ノ開鑿ヲ開始シ約六二尺ヲ掘進セリ機械設備ハ壓氣機一臺(五〇馬力)、鑿岩機九臺(足尾式20型三臺、同11型三臺、「シーメンスコールドリル」三臺)、捲揚機二臺(電力一〇馬力一臺、「リットルトタツガー」一臺)ヲ新設セリ

動力ハ汽力ノミナリシカ坑内外ノ諸設備ノ擴張ニヨリソノ一部ヲ電力ニ變更スル爲メ一ヶ月三〇、〇〇〇「キロワット」ノ契約ニテ北海電燈株式會社ヨリ電力ノ購入ヲ開始セリ

上歌志内炭礦 石狩國空知郡歌志内村 住友炭礦株式會社

前年末ニ完成セル第一堅坑ハ本年ヨリ其ノ捲揚ヲ開始シ又掘進中ノ佐久志斜坑ハ略完成セリ尙北九番斜坑(四坑道以下北九番層採炭ノ目的)南十番斜坑(四坑道以下十番層採炭ノ目的)及北十番三中切斜坑ヲ開坑シ目下掘進中ニシテ年末

延長夫々七二〇尺、四三〇尺及一四〇尺ヲ示セリ坑内發展ニ依リ電力捲揚機三臺(二〇馬力一臺、三五馬力二臺)、排水

唧筒一臺(「ブレンジャー」五〇馬力)ヲ設置セリ
坑外ニ於テハ十一番層ノ石炭處理ノ爲メ新ニ簡單ナル選炭場一棟ヲ建設シテ「シエーキングスクリーン」一個(能力一

時間三〇噸)ヲ設置セリ
諸設備ノ増加ニ伴ヒ從來ノ八〇「キロワット」時ノ購入電力ヲ一四〇「キロワット」時ニ増加セリ
住友炭礦 石狩國空知郡三笠山村 住友炭礦株式會社

萬世斜坑ノ發展ニ依リ之レカ排水設備ノ改善ヲ行ヒ電力「タービン」唧筒三臺(三五馬力二臺、五五馬力一臺)ヲ新設
セリ動力ハ電力汽力併用ナリシカ今後ハ全部電力トスル計畫ニシテ其爲メニハ既設火力發電所ノ發電力ニテハ不足ナル
ヲ以テ常用電力ハ十月ヨリ購買電力ニ依ルコトトシ發電所ハ之ヲ豫備設備トナシタリ、購買ハ北海道電燈株式會社ヨリ
行ヒ常時七〇「キロワット」ノ契約ナリ

三菱美唄炭礦 石狩國空知郡美唄町 三菱礦業株式會社

探礦ヲ美唄本流ニノ澤上流及瀧ノ澤方面ニテ行ヒ二ノ澤方面ニ於テハ本層ヨリ下部約二、〇〇〇尺迄ニ存在スル下層ノ
露頭調査ノ結果將來採行ノ見込アルモノ數層ヲ發見セリ、尙前年度ニ調査セルウエンシリアン美唄川上流方面ノ下層炭
探礦ノ爲メ下層堅入坑道ヲ開坑シ延長三二〇間ニ及ヘリ今後約二〇間ニテ下六番層ニ着炭スル豫定ナリ

一坑其他ノ既設坑ニ於テハ銳意坑内ノ發展、諸機械ノ完備ニ努メ壓氣機一臺(日立製一〇〇馬力)、截炭機九臺(「フロツ
トマン」コーレンシユナイダー)一五馬力二臺、同「ユニバーサルラヂアル」E S 70型三臺、「サリバン」C L E 2型四臺
鑿岩機三四臺(「シーメンス」電氣「ドリル」E 423型三〇臺、「インガートル」R-12型二臺、同B C R 430型二臺)坑内用電力

捲揚機四臺(三〇〇馬力一臺、一〇〇馬力一臺、五馬力一臺)、「アイコフコンベヤー」一臺、「フエースコ
ンベヤー」原動機三臺、排水用「タービンポンプ」一臺(一〇〇馬力)、局部扇風機(「シーメンス」シユロツターブロー)

二臺ヲ新設又ハ増設セリ

三菱芦別炭礦 石狩國空知郡芦別村 三菱礦業株式會社

第二坑本卸底左捲卸方面及第五坑二號坑深部ヲ探礦スル爲メ各捲揚機(左捲卸五〇馬力電力、二號坑汽力)一臺ヲ新設シ
テ卸掘進ヲ開始セリ、又第二坑、第三坑ニ於テハ可及的長壁式採炭法ヲ採用シテ機械掘ヲ行フ計畫ヲ立テ壓氣機二臺(各
五〇馬力)、截炭機二臺(「サリバン」C L E型一臺、C H-8型一臺)ヲ新設シ又坑内運搬用トシテ電力捲揚機二臺(五
馬力及二〇馬力)ヲ増設セリ

其ノ外汽力捲揚機用トシテ汽罐一臺ヲ設置セリ

大夕張炭礦 石狩國夕張郡夕張町 三菱礦業株式會社

前年來掘進中ノ加南榮坑ハ十一月完成シ從來若葉坑ヨリ捲揚タル石炭ハ之ヲ加南榮坑ヨリ搬出スルコトニ變更シ若葉坑
二五〇馬力捲揚機ヲ加南榮坑ニ移設シタリ之ニ伴ヒ坑外運搬方法モ改善ヲ行ヒ坑外五層下ニ墜道ヲ設ケテ坑外運搬用
「エンドレス」ヲ加南榮坑水平坑道ニ延長セシメタリ尙排水設備モ若葉坑ヨリ移設スヘク其ノ準備中ナリ

又舊清水坑附近炭調ノ結果稍有望ト認メラレタルニヨリ十一月ヨリ清水坑ヲ開坑シ探礦ヲ兼テ採炭ヲ開始セリ

大夕張新坑 石狩國夕張郡夕張町 三菱礦業株式會社

事業擴張ノ諸工事ハ着々進捗シ約六哩ノ鐵道工事ハ年末迄ニ略完成シ建築列車ヲ運轉シツツアリ又鹿島澤、通洞間約二
哩ノ架空索道ハ二月ニ完成シ目下鹿島澤、西常盤澤間一哩三分ノ延長工事中ナリ

通洞坑ノ掘進モ順調ニ進ミ年末迄ノ總延長ハ一、三〇〇米強ニ達セリ又第一斜坑(鹿島澤斜坑)ハ目下主要運搬機、主要扇風機ノ設置準備中ナルカ之レト共ニ探炭準備ニ著手シ昭和四年春ヨリ出炭ノ豫定ナリ、第二斜坑ヲ九月ニ開坑目下掘進中ナリ

製材工場、木工場、職員社宅六二戸、鑛夫住宅四五棟(一棟八戸)ハ完成シ選炭場、電氣工場、仕上工場ハ建設工事中ナリ

動力ハ電力ニ依ル計畫ニテ北海道電灯株式會社ヨリ供給ヲ受ケルモノニシテ二月ヨリ受電ヲ開始セリ尙停電等ノ豫備ノ爲大夕張炭礦發電所ヨリノ送電ヲ受クヘタ送電工事及自家發電所(五〇〇馬力「デイーゼル」ニヨル火力)ノ建設ヲ計畫シ目下其ノ準備中ナリ

大倉茂尻炭礦 石狩國空知郡赤平村 大倉礦業株式會社

事業ノ發展ニ努メ鑿岩機二七臺(ホルマンHW一〇臺、「ボーラー」BH65型六臺、「シーメンズ」電氣「ドリル」E42型二〇臺、泉式「コールドリル」一臺)、坑内電力捲揚機三臺(四〇馬力二臺、一五〇馬力一臺)、排水用「タービン」唧筒二臺(各六〇馬力)、局部扇風機三臺(「バノーブロー」SM250型二臺、SM175型一臺)ヲ新設又ハ増設シ且ツ萬慶新三坑及萬慶斜坑ニ「シロツコ」型扇風機(風量七〇、〇〇〇立方呎)各一臺ヲ設置シテ通氣ヲ良好ナラシメタリ
坑外ニ於テモ坑内ノ發展ニ備フル爲メ既設選炭場ノ設備擴張ヲ行ヒ「コンベルトコンベヤー」一個、「ジツカー」洗炭機二臺、「ミニキン」再洗機一臺並ニ選炭用水供給用「タービン」唧筒(六〇馬力)一臺ヲ増設セリ
之等ノ坑内外發展ハ動力タル電力ノ使用量ノ増加ヲ來シ勢ヒ電力ヲ増加スル必要ヲ生シ既設發電所ニ三相交流一、〇〇〇「キロワット」發電機一臺並ニ其原動機トシテ「ユングストロームスターイームタービン」一臺(一、五〇〇馬力)、「タタ

マ」式汽罐一基、「タービンポンプ」二臺(二〇馬力及六〇馬力)ヲ増設セリ
三井砂川炭礦 石狩國空知郡砂川町 三井礦山株式會社

坑内ノ發展、諸設備ノ完成ニ努メ鑿岩機二四臺(「ジャックハンマー」BAR33型一〇臺、電氣「ドリル」一四臺)、可搬式捲揚機七臺(「サリバン」六・五馬力)、電力捲揚機三臺(各一〇〇馬力)、排水用「タービン」唧筒七臺(六〇馬力五臺、二〇馬力、三〇馬力各一臺)ヲ増設シ尙局部通氣用トシテ局部扇風機「コツパスバノーブロー」(三馬力)五臺ヲ設置セリ

三井美唄炭礦 石狩國空知郡美唄町 三井礦山株式會社

事業ノ發展ヲ計畫中ナルカ先ツ坑内運搬及排水設備ノ改善ヲ行ヒ汽力捲揚機二臺(三五馬力一臺、五〇馬力一臺)、「ウオシントン」唧筒二臺、汽罐六臺ヲ増設セリ
彌生炭礦 石狩國空知郡三笠山村 東邦炭礦株式會社

採炭用トシテ泉式電氣鑿岩機一臺、排水用トシテ電力「タービン」唧筒一臺(七五馬力)、「スリースロー」唧筒一臺(二〇馬力)ヲ増設シ又局部扇風機二臺(「シロツコ」型風量三、〇〇〇立方呎一臺、「シユロツター」風量五〇〇立方呎一臺)ヲ新設セリ

坑内ノ發展ニ連レ出炭量モ増加シ來レルニヨリ既設選炭場ニ共益社式水洗機(能力毎時三五噸)一臺ヲ増設セリ
雄別炭礦 網走國阿寒郡吾妻村 雄別炭礦鐵道株式會社

大群内斜坑本卸ハ坑口ヨリノ延長一、九〇〇尺ニ及ヒ前年末ヨリ設置工事中ノ三〇〇馬力電力捲揚機ハ四月ニ完成セリ又本坑ニ於テハ第二斜坑ノ開鑿ニ着手シ之レニ三〇〇馬力電力捲揚機一臺ヲ設置セリ

其ノ外壓氣機一臺(五〇馬力)、鑿岩機六臺(「インガール」BCR 430型)、截炭機一臺(「フロッツマン」會社)、排水用唧筒三臺(「タービン」二臺、「トラクタ」一臺)ヲ新設又ハ増設シ尙局部扇風機三臺(「オードナンス」一臺、「ウエストリア」二臺)ヲ新設セリ

坑内ノ發展ニ伴ヒ既設選炭場ニ共益社式水洗機(能力毎時五〇噸)一臺及其ノ附屬裝置一式ヲ増設セリ尙大曲坑手選場ヲ機械選炭ニ改良スヘク計畫中ナリ

電力ハ從來毎時最大一〇〇「キロワット」ノ契約ニテ北海道電燈株式會社ヨリ購買シ居リシカ事業ノ發展ニ伴ヒ逐次其ノ需要増加シ目下五〇〇「キロワット」ヲ購買シツ、アリ

大群内坑方面ノ電化ノ爲メ變電所建設、送電線架設工事中ナルカ略完成セリ

●●●●● 春採炭礦 銅路國銅路市 太平洋炭礦株式會社

坑内ニ於テハ截炭機四臺(「サリバン」CIE 2型)、鑿岩機六臺(三池式電力四臺、「インガール」R-12型二臺)、「ローラー」式切端「コンベヤー」四臺ヲ設置シ又運搬用トシテ移動式曳揚機一臺(「サリバン」型六・五馬力)、電力捲揚機一臺(單胴三〇馬力)ヲ新設セリ

尙局部通氣ヲ完全ナラシムル爲メ局部扇風機二臺(「シユロツター」SGOR風量三、〇〇〇立方呎)ヲ新設セリ

坑内ノ發展ニ備フル爲メ既設選炭場ニ水洗機四臺(鐵製跳汰式ジツガー)ヲ新設セリ又洗炭ヨリノ汚濁水處理ノ爲メ沈

澱池三個ヲ設置セリ

●●●●● 別保炭礦 銅路國銅路郡銅路村 太平洋炭礦株式會社

坑内發展ニ全力ヲ注キ截炭機二臺(「サリバン」會社CIE)、鑿岩機一臺(三池製作所)、電力捲揚機一臺(八〇馬力)、移

動式曳揚機(「サリバン」電力)一臺ヲ新設シ又「シロツコ」型扇風機一臺(風量一三、〇〇〇立方呎)ヲ新設セリ

●●●●● 昭和炭礦(元別保三坑) 銅路國厚岸郡厚岸町 森田勲三

前年來掘進中ノ斜坑ハ着炭シ目下各片磐ノ掘進ヲ開始シ坑内運搬用トシテ汽力捲揚機一臺(一八馬力)ヲ新設シ又排水

用「ウオシントン」唧筒三臺、堅型汽罐一基ヲ増設セリ

●●●●● 内郷炭礦 石炭 福島縣石城郡内郷村 磐城炭礦株式會社

(内郷方面)本年中増設又ハ變更セル機械左ノ如シ

排水設備

第三斜坑十一坑唧筒座七〇立方呎ゲバイル型

三臺増設

捲揚機

第三斜坑第二本線切替坑六〇馬力電氣捲揚機

一臺(從來ノ三〇馬力ヲ變更)

(町田方面)町田二下七坑ニ毎分一〇〇立方呎一五〇馬力電氣「タービン」唧筒一臺ヲ増設シ内郷補助坑ニ於テハ從來ノ一〇〇馬力蒸氣捲揚機ヲ同一〇〇馬力電氣捲揚機ニ變更シ又町田補助坑ニテハ坑内ノ發展ニ伴フ通氣量ノ不足ヲ補ハシカ爲ニ從來ノ「シロツコ」型五千立方呎ノ扇風機ヲ廢シ同型二萬立方呎ノモノヲ設置セリ

尙選炭場ニハ毎時二十五噸能力ノ「ドレーバー」型洗炭機一臺ヲ新設セリ

(高坂方面)坑内ノ發展ニ伴ヒ各所ニ排水唧筒四〇〇馬力以下十八臺ヲ増設シ又局部扇風機ヲ五〇、〇〇〇立方尺以下七

臺ヲ新設スル等大イニ坑内施設ノ改善ヲ計ルノ外又一二〇馬力以下電氣捲揚機十臺ヲ新設シ蒸氣捲揚機ヲ變更シ運搬ノ

圓滑ヲ期シタリ

尙選炭場ニハ毎時二十五噸能力ノ「ドレーバー」型洗炭機一臺ヲ新設セリ
 (縦方面)第一斜坑ニ於テハ米國「サリバン」會社製CE七「チエーシントンタイプ」三〇馬力載炭機二臺ヲ新設シテ採炭ノ機械化ニ
 努メ又縱壁坑ハ大正二年五月未曾有ノ坑内出水ニ會シ水没セシテ出炭ノ増加ヲ計ランカ爲メ堅坑坪下附近迄乾水ノ計畫
 ヲ立テ十一月排水ニ著手シ年末豫定ノ乾水ヲ見ルニ至リ引續キ防水「ダム」ノ築造中ナリ
 尙選炭場ニ於テハ毎時能力二十五噸ノ「ドレーバー」型洗炭機二臺ヲ新設セリ
 本年中設置セル排水設備トシテハ「タービン」唧筒四〇〇馬力以下三臺、捲揚機トシテハ三〇馬力電氣捲揚機以下二臺、
 局部用扇風機(「シロツコ式」)二臺ヲ新設セリ
 (住吉方面)住吉斜坑本線ノ掘進ヲ進捗セシムルタメ壓氣機(移動式「サリバン」會社製四〇馬力)一臺並ニ鑿岩機(「サリ
 バン」會社製「ライトロターター」ロP三十二型)二臺ヲ新設シ尙掘進ニ伴ヒ湧水量ノ増加ヲ來タシ爲メニ左ノ如ク唧筒
 ノ増設ヲ見ルニ至レリ

八目貫ポンプ座	電氣タービン唧筒	一臺増設
中段ポンプ座	一〇〇立方呎	二四〇馬力 同
同	一五〇同	二〇〇同
同	四〇同	四〇同
同	三〇同	三〇同
同	同	同

入山炭礦 石炭 福島縣石城郡湯本町 入山採炭株式會社

前年南卸方面ニ試ミタル瀝砂充填ニヨル長壁法ノ結果良好ナリシニ鑑ミ漸次之ヲ五坑全部ニ亘リ採用スルコト、セリ又

五坑右二坑道附近ヨリ下盤堅入ニテ白坂斷層ヲ貫キ舊六坑區域ノ本層ヲ採炭スル計畫ヲ立テ目下鋭意堅入掘進中ナルカ
 一方鑿岩機原動用トシテ英國「センチネル」型一〇〇馬力壓氣機一臺ヲ増設セリ又米國「サリバン」會社製CLE二型三〇
 馬力載炭機二臺ヲ新設シテ笑堂方面ノ採炭ニ使用ヲ開始スルト共ニ切端元運搬用トシテ二〇馬力電氣捲揚機二臺同四〇
 馬力二臺、同五〇馬力一臺ヲ増設シテ漸次切端運搬ノ機械化ニ努メ運搬能力ノ増加ヲ計レリ、而シテ坑内ノ發展ニ伴ヒ
 通氣ニ困難ヲ感スルニ至リタレハ四坑々内ニ五、〇〇〇立方呎ノ局部扇風機一臺ヲ新設シ又五坑南卸ニハ「シロツコ」式
 一三〇、〇〇〇立方呎ノ局部扇風機一臺ヲ新設スヘク目下準備中ナリ

向坑外選炭場ニアリテハ四坑ニ種流式洗炭機ヲ新設シ五坑ニ「ジツガー」三臺ヲ増設セリ
 湯本炭礦 石炭 福島縣石城郡湯本町 三井鑛山株式會社

前年來試ミツ、アリタル長壁式採炭法並ニ採掘跡ノ瀝砂充填ハ結果頗ル良好ニシテ坑内作業ハ順調ニ發展セルカ坑内湧
 水量ノ増加並ニ瀝砂充填ノ進捗ニ伴フ排水量ノ増加ニ備フル爲メ一中段及二中段唧筒座ニ揚水量五〇立方呎一〇〇馬力
 ノ電氣唧筒各一臺ヲ増設シ、又局部通氣用トシテ「メコ」型三、四〇〇立方呎五馬力ノ扇風機三臺ヲ新設シタル外坑内運
 搬ニアリテハ本卸斜坑道軌條ノ從來ニ〇封度ナリシヲ三〇封度「レール」ニ變更シ其他捲揚機ノ新設又ハ變更ヲ行ヒ大イ
 ニ運搬能率ノ増進ヲ計レリ

大倉無煙炭礦 石炭 茨城縣多賀郡南中郷村 大倉鑛業株式會社

九月第三斜坑設置ノ水洗機全部ヲ改造スルト共ニ一基増設(現在五基、一基一時間ノ取扱量八噸)シタル結果從來ノ洗炭
 量一ヶ月二千五百噸ナリシカ八千噸ヲ處理シ得ルニ至レリ。
 又本年度ニ於テ左記捲揚機ヲ設置セリ。

設置場所	種類	樣式	馬力	臺數
第二斜坑 北電卸(斜坑)	電氣捲揚機	單胴式	一五	一
第二斜坑 南電卸(斜坑)	同	同	四〇	一
第三斜坑 南電卸(斜坑)	同	同	四〇	一
第三斜坑 北電卸(斜坑)	同	同	一五	一

尙從來ノ第四斜坑用六十五馬力双汽笛蒸氣捲揚機ヲ二百五十馬力双汽笛蒸氣捲揚機ニ變更スヘク捲揚機並ニ汽罐ニ基設
置工事中ニシテ明年二月竣工ノ豫定ナリ

東見初炭礦 石炭 山口縣宇部市 藤本開作

出炭増加ニ伴ヒ運搬力ノ増大ヲ企圖シ坑内運搬設備ヲ改善セリ即チ五十馬力「エンドレス」一臺、五十馬力捲揚機二臺、二十五馬力捲揚機一臺ヲ夫々八十馬力、百二十馬力、六十五馬力、五十馬力ニ取替ヘ二十五馬力「エンドレス」一臺、二十五馬力捲揚機一臺ヲ据付ケタリ、坑外ニ於テハ石炭及坑内捨硬運搬兼用ノ十五吋蒸氣「エンドレス」ハ運搬力不足トナリタルヲ以テ之ヲ廢止シ更ニ堅坑ノ南部ニ捲揚機ヲ新設シ汽笛徑十二吋及十四吋ノ兩汽笛「エンドレス」各一臺ヲ併置シ以テ十二吋捲ハ貯炭場ニ至ル石炭運搬ニ、十四吋捲ハ捨硬運搬専用ニ改善セリ、坑内ノ擴大ニ伴ヒ局部扇風機ノ必要ヲ認メ三萬立方呎ノ「シロッコ」式扇風機二臺ヲ据付ケタリ

久原炭礦 石炭 福岡縣糟屋郡勢門村外三村 明治礦業株式會社

坑道ノ延長次第二擴大セラル、ニ從テ既設使用ノ壓氣機並ニ鑿岩機ニテハ不足ヲ告グルニ至ルヲ以テ「インガソル」會

社製三十馬力壓氣機一臺ヲ増設シ「デンプー」會社製「ウオー」九十五番型鑿岩機二臺ヲ増加シテ掘進其ノ他ノ工程ノ増進ヲ圖レリ

各坑道ノ延長ニ應ジ運搬ヲ一層圓滑ナラシムル爲メ坑内ニ六十馬力電氣捲揚機二臺ヲ設置シ坑口ニハ從來ノ三百馬力蒸氣捲揚機ヲ豫備トシ新ニ三百五十馬力電氣捲揚機ヲ設置セリ、排水ニ於テハ八十馬力「タービン」唧筒一臺ヲ新設セリ又一萬立方「シロッコ」式扇風機一臺、五千立方「シロッコ」式扇風機一臺ヲ新設シ尙ホ掘進局部ニ二千立方「スミス」式扇風機四臺ヲ増設シテ通氣状態ヲ良好ナラシメタリ

前年來工事中ナリシ徑七呎「ランカシャ」式汽罐一基完成セリ

高松炭礦 石炭 福岡縣遠賀郡水巻村外二町 三好礦業株式會社

三「ヘダ」三尺層ノ採掘區域ノ増大ヲ計レルト共ニ前年六月四「ヘダ」五尺層ニ着炭以來坑道漸次延長シ四「ヘダ」五尺層ハ全部長壁式採炭法ニ依リ本年度ニ入り採炭ヲ開始セルト坑内外設備ノ擴張ニ依リ八割二分餘ノ増産ヲナセリ

運搬系統ノ改善ノ爲メ本年十一月四「ヘダ」五尺層北零片ヨリ三「ヘダ」三尺層左一片捲立ニ貫通セシメ將來三尺部全部ノ運搬ヲ行フベキ坑道ノ掘鑿ニ着手明年完成ノ豫定ナルカ完成後ハ三百馬力電氣捲揚機ヲ設置ノ筈ナリ、坑内主要運搬機トシテ前年計畫セシ五百馬力電氣捲揚機ハ設置ヲ了シ從來ノ百二十馬力電氣捲揚機ハ之ヲ廢止セリ、坑外運搬ニ於テハ前記捲揚機ト新設洗炭機ト連絡ノ爲メ筑豊本線ヲ跨ル長サ百間幅九尺ノ「ワーレン」型鐵橋ヲ架設シ同棧橋上ニ五十馬力「クラーパー」、エンドレス」ヲ設置セリ尙ホ專用鐵道用機關車(四十噸)「タンクエンジン」型一臺ヲ増設セリ

石炭穿孔機トシテ昭和式「コールドリル」一馬力一臺、同半馬力一臺、泉式半馬力一臺、獨逸製「ビツクハンマー」二臺ヲ購入使用中ナリ又前年中企畫セル選炭設備能力一日八百噸「ジンマー」式選炭機一臺、能力一時間三十噸中小塊用共益社

式水洗機一臺、粉炭用能力一時間四十噸共益社式水洗機一臺ヲ完成運轉セリ

其ノ他人車昇降用三百馬力捲揚機一臺、「ランカシャー」式徑七呎汽罐二基、精炭貯炭槽等設置中ナリ
住友忠隈炭礦 石炭 福岡縣嘉穂郡穂波村外一町一村 住友九州炭礦株式會社

第三坑浦田八尺炭層ハ前年着炭以來水平坑道ノ「エンドレス」ノ延長及百馬力電氣捲揚機ノ設置ヲ急キ五月運轉ヲ開始セリ

壓氣機及鑿岩機トシテハ第七坑々口ニ日立製作所製百馬力壓氣機一臺ヲ増設シ「デンバー、ウオー、ハンマー、モデル」九
五番型鑿岩機八臺ヲ増設セリ、第三坑々内浦田八尺層卸ニ百馬力電氣捲揚機一臺、第三坑汽罐場燃料炭運搬ノ爲メ同五
馬力一臺ヲ新設シ既設第三坑十五萬立方呎「シロツコ」式扇風機ノ原動蒸氣機ヲ撤廢シ之ニ代フルニ二百五十馬力電動
機ヲ新設シ、前年工事ニ著手セル第七坑豫備十五萬立方呎蒸氣機直結運轉「シロツコ」式扇風機一臺竣工セリ、既設運
炭機場ニ幅五呎長サ五十五呎「ビツキングベルト」一條、既設水洗機場ニ能力一時間四十噸「バウム」式水洗機一臺増
設シ出炭増加ニ備ヘ、前年起工セシ最大出力二千八百「キロワット」火力發電機一臺（増設）本年五月竣工セリ、發電
機増設ニ伴ヒ之カ原動用トシテ四千馬力「チエリー」式「スタームタービン」一臺増設シ蒸氣「タービン」運轉用トシ
テ前年度起工セシ徑千五百長サ六千四百三三「ガルベ」式汽罐一基及之カ燃料炭ノ乾燥粉碎並ニ燃燒ノ爲メ復式圓
筒型回轉式乾燥機一基、「ボンノミル」一基、「ブユーエル、システム」噴燃器二個竣工セリ
尙ホ第七坑本卸「スキップ」捲揚用トシテ五百馬力「イルグナー」式復刷電氣捲揚機一臺並ニ高サ六十四呎鐵骨製捲揚
一基新設ノ計畫ニシテ基礎工事ニ著手、第七坑左第一卸ニ二百馬力電氣捲揚機新設ノ計畫ニシテ捲揚開鑿ニ著手、第五坑
左八延既設ノ六十馬力電氣捲揚機ハ出炭増加ニ伴ヒ容量過少トナリタル爲メ之ト取替ノ爲メ百馬力電機捲揚機一臺新設

ノ計畫ヲナシ捲揚開鑿ニ著手シ之等ハ何レモ明年竣工ノ豫定ナリ

平山炭礦 石炭 福岡縣嘉穂郡桂川村外一村 平山炭礦株式會社

坑内外諸設備ニシテ新設、増設又ハ改設セシモノヲ舉クレハ壓氣機「フロツトマン」型六十二馬力一臺「インガーツル
ランド」型七十五馬力一臺、鑿岩機「フロツトマン」式十一型六臺、「デンバー」式九十五番型十二臺、「タービン」式唧
筒百三十五馬力二臺、五十馬力一臺、四十馬力二臺、十八馬力二臺、「スベシアル」式改造唧筒十八吋一臺、十四吋一臺、
十二吋二臺、坑内運搬用蒸氣捲揚機二十吋一臺、十四吋二臺、坑外運搬用十二吋蒸氣「エンドレス」一臺、排氣量三千
立方尺「シロツコ」式扇風機一臺「ジンマー」式「ブレットコンベヤー」能力一時間六十噸二臺、共益社式水洗機能力
一時間五十噸一臺、三十噸一臺「ランカシャー」式汽罐徑七尺長サ三十尺三臺、徑七尺長サ二十九尺二臺、徑七尺長サ
二十四尺一臺、徑六尺長サ三十尺二臺等ナリ

山田炭礦 石炭 福岡縣嘉穂郡山田村外一村 野上礦業會社

第一坑左部ハ金片延長大トナリ運搬ニ困難ヲ來タスヲ以テ新ニ左斜卸ノ開鑿ヲ計畫シ十八吋蒸氣捲揚機一臺ヲ新設セリ
又各切羽用トシテ「シーメンズ、コール、ドル」半馬力二十臺ヲ新設シ二坑左五片拂ニ於テ十馬力「チエーンコンベ
ヤー」ヲ使用セリ、二坑二十八吋蒸氣捲揚機ヲ新設シ從前ノ分ヲ廢シ更ニ同坑口ニ排氣量五萬立方呎「シルツマ」式扇
風機一臺ヲ新設シ一二坑共用ノ排氣ヲナサシム、運炭ニ於テハ能力一時間五十噸ノ共益社式「ジツガー」水洗機一臺及
能力一時間四十噸共益社式「ジツガー」再洗機一臺ヲ新設シ五月ヨリ運轉ヲ開始セリ、又徑七尺長サ二十九尺ノ「ラン
カシャー」式汽罐四臺ヲ増設セリ

杵島炭礦第三坑 石炭 佐賀縣杵島郡大町村外二郡三村 佐賀炭礦株式會社

坑内擴張ニ伴ヒ現在使用ノ扇風機一臺ニテハ通風不充分ニ付更ニ一臺ヲ新設東西兩坑ノ通風ヲ區分スル事ニ計畫シ新ニ地表ヨリ百五十間ノ排氣斜坑開鑿ニ著手シ十二月竣工セルカ扇風機ノ運轉開始ハ明年五月ノ豫定ナリ

壓氣機「フロットマン」製Z型移動式三十二馬力半二臺ヲ新設シ鑿岩用トシテ鑿岩機「フロットマン」製Aノ一六型四臺、足尾式手持六臺ヲ新設シシカゴニューマチツクツール」會社製「リツツルジヤイアント」手持十臺ヲ増設セリ

排水設備ニ付テハ前年ニ引續キ努メテ集水的方法ヲ採リ揚程三百五十尺揚水量五十立方呎六十馬力ノ「タービン」唧筒四臺ヲ増設セリ、坑内運搬ニ於テハ運搬系統ノ改善ヲ行フ爲「エンドレッツス」増設、捲揚機ノ變更、運搬坑道ノ開鑿等ヲナセリ

選炭ニ於テ選炭機能力一時間五十噸ノ「セーキングスクリーン」一臺ヲ増設シ水洗機能力一時間五十噸ノ共益社式三臺ヲ増設準備中ナリ尙ホ自家發電ヲ廢シ東邦電力ヨリ受電スル事ニ變更シ從來ノ自家電力ハ單ニ豫備トセリ

●石炭 長崎縣西彼野島郡崎戸村 九州炭礦汽船株式會社

淺浦坑ニ於テハ將來東西一坑道ノ發展ニ伴フ運搬力ノ増加及通氣改善ノ爲メ本年七月現在ノ排氣堅坑ヲ西ニ距ル三十間ノ位置ニ徑五・六五米ノ堅坑開鑿ニ著手シ明年末竣工ノ豫定ナリ

蟬浦坑上、下風坑本卸ハ坑口「レベル」口ヨリ（傾斜十五度）千二百米ノ地點ヲ坑底ト定メ本年一月ヨリ岩石水平坑道唧筒座、中央水溜其ノ他主要片磐ノ掘鑿ニ移リ豫定ノ着炭點ヨリ十五尺炭層ヲ逐フテ東西一坑道ヲ掘進シツツアリ尙ホ本卸切掘メ工事及保強工事繼續中ナリ蟬浦坑排氣用トシテ一月徑四・五四米深サ二八・〇米ノ堅坑掘鑿ニ著手シ三月完成セリ

淺浦坑ニ於テ排氣堅坑開鑿ノ爲メ坑外ニ「スイスロコモチーブアンドマシンウオーク」社製「ロータリ」型六十馬力壓

氣機二臺新設シ向ホ長崎三菱造船所製「ビストン」型五十馬力二臺ヲ購入シ石炭採掘用トシテ「シーメンズ」會社製「コールドリル」E四二三番型二臺、昭和萬能式「コールドリル」二臺、岩石用トシテ足尾式鑿岩機十番型三臺、「デンバー」會社製「ウオート、ハンマー」九十五番型二十臺新規購入セリ、福浦坑ニ於テハ採炭用トシテ「シーメンズ」會社製「コールドリル」E四二三番型三臺、同E四一七番型三臺、泉式「コールドリル」メテラント」九二七六八番型及「メテラント」九二七八八番型各一臺、昭和萬能式「コールドリル」三臺、「ハウエル、コールドリル」五臺、岩石用トシテ足尾式鑿岩機十番型一臺、動式電動鑿岩機七番型一臺、「フロットマン、ハンマー」Aノ十一番型一臺、「サリバン、ロータリ」一、ロツクドリル」八番型一臺ヲ購入シ蟬浦坑ニ於テハ足尾式鑿岩機十番型五臺ヲ斜坑切掘メ用トシテ購入セリ福浦坑ニ於テハ「フロットマン」會社製「コールドリル」C A型二臺ヲ新設セリ

從來採炭方法ハ四尺、五尺、十五尺層共主トシテ殘柱式ヲ採用シタレトモ本年ヨリハ一般ニ前進式長壁採炭法トシ十五尺層ノミハ下層拂ヒ乾式充填ヲナシ約二十間乃至四十間運レテ上層ノ採炭ニ著手スルニ次式採炭法ニ變更シタリ

淺浦坑石炭ノ船舶積込設備トシテ下崎ニ「ベルトコンベヤー」能力一時間二百五十噸「ベルト」幅七十耗長サ百六十米ノモノ一臺、福浦坑及蟬浦坑石炭船舶積込設備トシテ福浦坑貯炭場海岸ニ「ベルトコンベヤー」能力一時間二百五十噸「ベルト」幅七十耗長サ百二十米ノモノ一臺新設セリ

從來蟬浦坑ニ於テハ四萬立方呎ノ「チャンピオン」型扇風機使用中ノ處坑内發展ニ伴ヒ風量不足ヲ生シタルヲ以テ「シロツコ」型排氣量七萬五千立方呎扇風機一臺ヲ新設シ同時ニ「チャンピオン」型ハ之ヲ撤去セリ

發電所ノ豫備能力ヲ確實ニスル爲メ既設ノ發電機ノ内千「キロワット」發電機一臺ヲ撤去シ更ニ三千「キロワット」發電機一臺ヲ増設セリ發電機ノ増設ニ伴ヒ「バブコツクエンドウイルコツクス」水管式汽罐加熱面積五千五百平方呎一臺

第六卷 礦山事業ノ概況

二八七

増設工事中ナリ

鹿町炭礦 石炭 長崎縣北松浦郡鹿町村 商工省

本坑第二通洞開鑿ノ必要ニ應シ日立製作所製六十馬力壓氣機一臺ヲ新設シテ從來ノ古機械ヲ撤廢セリ

本坑第一通洞ノ出炭増加ノ爲メ六十馬力電氣捲揚機一臺新設シ加勢坑本坑道着炭筒所ヨリ運炭場ニ到ル間從來ノ馬匹運

搬ヲ「エンドレス」ニ變更セリ又本坑々道坑内捲揚機三十馬力ヲ六十馬力ニ變更セリ向ホ排水設備ニ於テハ「タービン」

唧筒二十馬力四臺ヲ新設セリ

探掘區域ノ擴張ニ依リ本年度出炭高ハ前年ニ比シ四割七分餘ヲ増加セリ

芳野浦炭礦 石炭 長崎縣北松浦郡中里村佐々村 芳野浦礦業株式會社

坑内ニ三十馬力「タービン」唧筒二臺、第一斜坑(右二片)及第二斜坑(左二片)ニ五十馬力電氣捲揚機各一臺ヲ新設

シ坑外ニ於テハ共益社式水洗機能力一時間二十噸一臺及循環運鑛帶式塊炭選炭機一臺ヲ新設シ出炭全部ヲ處理ス

ハ) 石 油 山

厚真礦山 釧路國勇拂郡厚真村 日本石油株式會社

從來深層油採掘ニハ何レモ網掘式ヲ使用シ居リシカ作業能率増進ノ爲メ「ロータリー」式ニ變更スルコトトシ探登第六

號鑛區方面ハ六月ヨリロ式掘進ヲ開始シ又探登第一二號鑛區方面ニテハ改装ノ準備中ナリ而シテ此ノ掘鑿方法ノ變更ニ

從ヒ汽罐二臺ヲ増設セリ

採油井數ハ前年度ニ比シ網掘式五坑「ロータリー」式一坑、上總掘式十一坑合計十七坑ノ増加ヲ見ルニ至リ採油量約三

一「キロリットル」ヲ増産セリ尙汽罐二臺ノ増設及一號「ボンピングパワー」ノ新設ニ著手セリ、揮發油採收ノ目的ニ

テ昭和二年九月ヨリ「トッピングプランツ」ノ新設ニ著手シ本年二月完成シタリ此ノ爲メニ汽罐一臺、瓦斯發動機一臺

ヲ設置セリ、而シテ本年度ノ揮發油採取量ハ二二七・五「キロリットル」ナリ

其ノ外事業ノ發展ニ伴ヒ鐵工場ニ五分ノ一「ベルトハンマー」及十二吋「シャーピングマシン」ヲ新設セリ

増幌礦山 北見國宗谷郡宗谷村 日本石油株式會社

前年成功セルC第十四號井及第十五號井ノ出油成績良好ナリシヲ以テ本油田西部ニ四〇〇米級ノ油井開鑿ヲ行ヒシカC

第十七號井成功シ當時日産二〇「キロリットル」ニ及ヘリ

本年度開坑井數ハ八坑ニシテ内四坑ハ成功シテ採油井トナシ三坑ハ尙掘進中ニ屬シニ坑ハ出油ニ至ラス廢坑セリ

尙事業ノ發展ニヨリ三「キロ」發電機ヲ六「キロ」ニ變更シ其ノ原動機トシテ一三馬力石油發動機一臺ヲ設置セリ又掘

鑿井用トシテ汽罐一臺ヲ増設セリ

作業用水ハ七月ヨリ増幌川ヨリ揚水供給スルコトトシ唧筒一臺(四吋×六吋三箇)、一三馬力石油發動機一臺ヲ設置セリ

石狩礦山 石狩國石狩郡石狩町 日本石油株式會社

年々事業ノ發展ニ努メ俊別方面ニ「ナシヨナルボンピングパワー」ヲ増設シテ同方面各油井ノ採油能率ヲ増進セシメタ

リ

本年度開坑ノ油井ハ二十三坑ニシテ内十九坑成功セルニヨリ産額ハ前年ニ比シ一、六八八「キロリットル」強ヲ増加セリ

作業用諸機械並ニ物資輸送ノ爲メ八ノ澤俊別間一哩十九頓ノ軌條敷設ヲ行ヒタリ

從來動力ハ汽力ヲ主トシ來レルカソノ一部ヲ電化スヘク一ヶ月約十萬「キロワット」時ノ契約ニテ北海道水力電氣株式

會社ヨリ供給ヲ受クルコトトシ二月ヨリ送電工事ニ著手シ十二月完成送電ヲ開始セリ

尙原油ノ輸送方法トシテ石狩川ハ油送船ニヨリ居リシカ架空鐵管ヲ設置シテ鐵管輸送ヲ開始シ又從來揮發油ハ罐詰ニシテ輸送シ居リシカ之モ鐵管輸送ヲ開始セリ

道川礦山 秋田縣南秋田郡旭川村外一 日本石油株式會社

前年ヨリ繼續掘鑿井三坑同掘下井三坑本年中新規着手ノ掘鑿井十七坑同掘下井八坑ニシテ内成功井十五坑ニ達セリ而シテ當山ノ濁川區域ハ淺層ニシテ比較的出水少ク較近噴傳セラルル石油ノ坑道掘ニハ最適ノ地ト見做ナルヲ以テ先ツ手掘井二坑ヲ開坑シ出油ナキニ至ルヲ俟ツテ兩坑井間ヲ坑道ヲ以テ連絡セシメント計畫シ其手掘一號井ノ位置ヲ網式一〇一號井ノ西三七米ノ個所ニトシ本年五月開坑ニ著手セルカ本計畫ノ成否ハ石油坑道掘ノ將來ニ影響スル處大ナルモノアル可シ手掘一號井ハ其ノ大サ上口内法四尺五寸下部三尺方形ニシテ豫定深度ハ網式一〇一號井ノ狀況ニ鑑ミ百五十米トシ同二號井ハ一號井ヲ距ル西南五〇米ノ地點ニ豫定セリ

黒川礦山附屬秋田製油所 秋田縣南秋田郡土崎港町 日本石油株式會社

前年來著々設備ノ完成ニ努メツツアリタル當製油所ニ於テハ本年更ニ貯油槽十基ヲ増設シタル外電動機五臺及唧筒三臺「ロータリーブローワー」一臺ヲ増設シ又白土乾燥炉一臺ヲ設置セリ

旭川礦山 秋田縣南秋田郡旭川村外三 日本石油株式會社

當山ハ本年一月道川礦山ニ包含セラレタル五礦區ヲ分離獨立セシメタルモノニシテ獨立以來旭川村新藤田方面ノ發展目醒シク前年ヨリノ繼續掘鑿井六坑本年著手掘鑿井二四坑同掘下井一一坑ニシテ成功井ハ一八坑ニ達シ著シク產額ヲ増加スルニ至レリ

桂坂礦山 秋田縣由利郡小山村 日本石油株式會社

當山ハ小國礦山ノ南方約一里ニ位シ附近一帶ハ島海山ノ噴出物ニ被覆セラレ地質構造ヲ精査スルコト困難ナル爲メ久シク願ミラレサリシカ前年桂坂部落ノ北方丘陵地中腹ニ網式第一號井ヲ掘鑿シ引續キ掘進中ノ處四月深度七四〇米ニテ日產三十六石ノ出油ヲ見ルニ至レリ、然ルニ其ノ後連水個所破壞シテ採油不能ノ狀態ニ陥リシヲ以テ目下之レカ復舊ニ努力中ナルカ之レニ勢ヲ得更ニロ式一號井ヲ掘鑿シ年末深度四二四米ニ達シタリ、本礦山ノ出油ハ秋田油田南方進展ノ魁ヲナスモノニシテ將來小國南部油田ノ開發上大ニ矚目ニ値ス

男鹿中礦山 秋田縣南秋田郡男鹿中村 佐藤鐵礦

昨年ヨリ引續キ掘鑿中ノ試掘補助第一號井進捗スルニ從ヒ地質ノ狀況判明シ百八十六米以下ニ於テ時々滲出油ヲ認メタルニ鑑ミ「トノス」澤ニ掘鑿シタル上總式四號井ノ掘下ケヲ續行シ十一月下旬深度二百四十米ニ達スルヤ俄然自噴ヲ初メ槽上數十尺ニ上昇シ當時日產百石ヲ算シタリシモ其後漸減シテ年末ニハ日產四・五石内外ニ減少セリ

此ノ出油ヲ見タル地層ハ第三紀新層ニ屬スル所謂脇本砂質頁岩帶ト呼ハルル青灰色砂質頁岩ニシテ本油田ノ地体ハ特種ノ單斜構造ヲ呈シ其ノ地層ハ西北ニ六十度以上ノ急傾斜ヲナス而シテ油座ハ亦普通鐵床ト異ナリ網狀裂罅帶ニ浸潤セル網狀石油鐵床ヲナスモノノ如シ

試掘補助井ナル網式一號井ハ年末八百米ノ深度ニ達シ所謂北浦互層帶ヲ過キ船川黑色頁岩帶ヲ掘進中ナリ採油施設トシテ六月新タニ深サ二百米程度ノ油井二十坑ヲ汲油シ得ヘキ輕便「ナシヨナルアンダーブル」式「ボンビングバワー」一臺及ヒ之カ動力トシテ十馬力石油發動機一臺並ニ貯油槽九基ヲ設置セリ

本礦山ニ於ケル出油ニヨリ將來脇本砂質頁岩帶ハ含油層トシテ囑望セラルルニ至ルヘク秋田石油界ニ一道ノ光明ヲ與フルモノト云フヲ得ヘシ

西山鎮山 新潟縣刈羽郡二田村外四 日本石油株式會社

鑿井

前年ヨリ繼續掘鑿井二坑、本年新著手掘鑿井八坑ノ中成功井八坑、掘鑿未了井二坑ニシテ既井坑ノ掘下ケタルモノ二坑ナリ、又明年ノ掘鑿豫定ハ二坑ナリ

瓦斯「リフト」試驗施設

茶ノ木「ガソリンプラント」ノ低壓壓搾機ヲ利用シテ瀧谷方面ノ深層油ノ瓦斯「リフト」試驗ノ爲昨年十二月之カ設備ヲ起工シ本年四月竣工實施シタルニ好成績ヲ得タルヲ以テ更ニ長嶺第二「ガソリンプラント」ヲ改造シテ中央揮發油採收所ノ吐出瓦斯ヲ處理シ茶ノ木、入和田、瀧谷方面ノ深層油井八坑ノ油水量約四百石ヲ有利ニ採收スル爲瓦斯「リフト」ノ施設計劃中ニシテ明年一月起工シ二月竣工ノ豫定ナリ

火防線ノ施設

中央揮發油採收所ノ規模擴張ニ伴ヒ火災豫防ノ爲同所ノ周圍ニ水線ヲ施設セリ

附屬柏崎製油所

(イ) 揮發油試驗蒸溜釜設置 原油ヲ蒸溜シテ得タル揮發油原料及該原料ヨリノ溜出油ノ品質ヲ考查研究スル爲容量六百三十立ノ揮發油試驗蒸溜釜及附屬裝置ヲ設置セリ

(ロ) 揮發油蒸溜釜及冷却槽ノ廢止並ニ轉設 百七號揮發油蒸溜釜及九拾五號冷却槽ハ腐朽シタルヲ以テ之ヲ廢止シ休止中ノ大洲工場ノ七號蒸溜釜(張込容量七十五石)及九號、拾號冷却槽ヲ夫々修理改造シ轉設セリ

(ハ) 鐵槽ノ増設 高町方面ノ原油増産セル結果揮發油モ著ルシク豊富トナリ且ツ近來純揮發油ノ需要増加ノ傾向アルニ

鑑ミ揮發油荷造場ノ南方低地約三百五拾坪ヲ埋立テ容量二千石ノ純揮發油貯藏用鐵槽五基並ニ之ニ附帶セル遮熱上屋及「ポンプ」室(五吋×十吋電動「ポンプ」三臺据付)等ヲ建設セリ

又容量五百四十五石ノ鐵槽ヲ大洲工場ヨリ轉設シ機械油受槽トセリ

(ニ) 縱「ハンダ」着機設置 從來新羅鐵「ハンダ」ハ總テ人工ニ依リシカ自動機械着裝置ヲ批把島及大洲ノ兩製罐工場ニ据付ケ著ルシク能率ヲ増進スルヲ得タリ

(ホ) 油槽車注油場ノ擴張 從來ノ油槽車注油場ハ木造二間×十一間ノ狹隘ナルモノニシテ能率惡シキヲ以テ之ヲ四間×

十八間ノ鐵骨亞鉛板張ニ改造シ同時ニ六車ノ注油ヲ可能ナラシメタリ

(ヘ) 鶴川送水場電動機設置 鶴川送水場ノ原動機ハ石油發動機ヲ使用セシカ故障頻發シ送水能力惡シク製油作業上支障

多キヲ以テ二十馬力電動機ニ變更セリ

高町鎮山 新潟縣刈羽郡刈羽村外二 日本石油株式會社

新油層ノ發見ト其ノ採油

ロ式四號及五號兩井ハ三年前ヨリ引續キ多量ノ瓦斯ヲ產出シツツアリ本邦油田ニ於テ稀有ノ事實ナルニヨリ此ノ瓦斯層ノ附近或ハ下層ニハ大ナル油層ノ存在スルコトヲ豫想セラレ且ツ前年秋京都帝國大學教授理學博士松山基範氏ノ同油田ニ於ケル重力偏差計ニ依ル調査ノ結果更ニ之ノ豫想ヲ高メタルヲ以テ前年十二月ロ式八號井ヲ開坑セリ

是ヨリ先中野興業株式會社ノ所有鑛區ニ依リ隔タル割町鎮山(試登第九三四二號)ニ於テ割町ロ式一號井ノ成功ニ鑑

ミ右ロ式八號井ノ掘進ニ努メタルニ二月二十二日深度千四百十三米ニテ新油層ヲ發見シ掘止メ採油シタルニ當時日產四十四・九疋ヲ得タリ、而シテロ式八號井ノ成功ニ鑑ミ相繼キテ鑿井シタルニ左表ニ示スカ如キ好成績ヲ得タリ、本油

帯ハ長嶺油帯ノ南方延長線上ニ位スルモ同油帯ハ瀧谷南端附近ヲ南方ニ横切ル斷層ニテ遮斷セララルヲ以テ全ク獨立セル別個ノ新油帯ナリトス、本油帯ノ發見ハ其ノ附近ニ第三紀層ノ露出若クハ信據シ得ヘキ石油兆候ナキヲ以テ全然構造地質學上ノ純理的推論ニ基ケルモノニシテ其點ニ於テ最モ興味深キ油帯ナリトス

油層ノ狀態ハ發見ノ日淺ク又表面徴候ナキニヨリ未タ審カナラサルモ坑井内ヨリ採集シタル地質標本ニヨリ考察スルニ油層ノ分布狀態及其ノ性質等略々長嶺、瀧谷油帯ト同一ニシテ地表ニ近ク西山層ノ下部ニ存在シ其ノ下底ニ推谷、寺泊ノ兩層アリテ主要油層ハ推谷層ノ下部若クハ寺泊層ノ上部中ニ胚胎スルモノノ如シ、其ノ深度ハ就レモ地表ヨリ千二百米内外ナリ、構造モ亦恐ラク背斜層ナラント想像セララルモ未タ確實ナル資料ヲ得サル爲其ノ軸部ノ位置並ニ延長、方向等ハ究メ難シ

鑿井

前年ヨリ繼續掘鑿井二坑、本年新著手掘鑿ノ井十一坑ノ中成功井十坑、掘鑿未了井三坑ニシテ成功井ノ着手及掘止年月日、掘止深度、成功當時ノ出油量等ヲ表示スレハ左ノ如シ

坑井番號	着手年月日	掘止年月日	掘止深度	成功當時日産量
高町口式八	二、一、二、八	三、二、二、二	一、一、四、三	四四・九〇
同 九	三、三、二、〇	四、三、〇	一、一、六、一	四九・〇〇
同 〇	三、三、二、一	五、二、八	一、二、〇、〇	四・五〇
同 一	三、三、四、一	三、三、一、八	一、二、〇、〇	五・三〇
同 二	三、三、五、九	三、三、七、二	一、一、八、〇	四七・六〇
同 三	三、三、七、七	三、三、八、二	一、一、五、五	一一・九七

同 一	一、五、八、一五	三、三、九、二七	一、二、五、〇	五・五〇
同 六	三、三、九、一五	三、三、一、〇、一八	一、二、〇、〇	四一・七九
同 七	三、三、一、〇、三〇	三、三、一、二、六	一、一、八、〇	二六・六六
同 八	三、三、一、一、二	三、三、一、二、一七	一、一、八、〇	一〇・一五

右表ノ如ク開坑ヨリ掘止メ迄ノ所要日數ハ從來ヨリ非常ニ短縮セラレ從來ニ見サル好成績ヲ現ハシ殊ニ高町口式十號井ノ如キハ一日ニ二百八十五米ヲ掘進シ一日ノ掘進米數ノ最高記録ヲ作レリ

揮發油採取所ノ増設

原油、瓦斯ノ大増産ニヨリ第一揮發油採取所ニテ處理スル能ハサルヲ以テ四月第二揮發油採取所ノ設置工事ニ著手シ十一月竣工セリ、其ノ處理能力一日瓦斯二百萬立方呎、原油三百乃至五百石ナリ

瓦斯及油送線ノ布設

瓦斯輸送ノ爲柏崎製油所及西山、瀧谷間ニ四吋瓦斯管ヲ布設セリ其ノ延長前者ハ七千五百十米後者ハ六千五百米ナリ

又揮發油採取所ヨリ柏崎製油所迄二吋ノ揮發油送油管ヲ布設セリ其ノ延長七千八百八十二米ナリ

大面嶺山 新潟縣南蒲原郡大面村 日本石油株式會社

新油層ノ探究

口式三十六號井ハ新油層探究ノ目的ニテ豫定深度千八百二十米ト定メ前年九月十日開坑ニ著手シタル所同年十二月十一日深度千五百六十米ニテ現出油層ニ達シタルヲ以テ一先ツ停掘シテ日産二・七疋ノ原油ヲ採油シツツアリシモ其ノ後

油量減退セルヲ以テ本年七月二十日ヨリ再ヒ深掘ニ着手シ年末深度千五百米ニ達シ目下掘進中ナリ
又現出油層ハ本年度ノ開坑ニ依リ愈々北東ニ延ヒ殊ニ數百間ヲ隔タル本成寺鑛山(試登第九三九七號)ニ於テ試掘中
ノ網式一號井及ロ式一號井ノ出油ヲ見タルコトハ地質構造上同方面迄延長可能ナルコトヲ確證シタルモノニシテ本油
田ノ爲メ多幸ナリト謂フヘシ

鑿井

前年ヨリ繼續掘鑿井四坑、本年新着手掘鑿井十一坑、掘下井一坑ノ中成功井十一坑、廢坑井一坑掘鑿未了井二坑ナリ
鐵管線ノ敷設

本成寺方面ノ原油並ニ鑛水流送ノ爲本成寺、大面間ニ徑二吋二分ノ一、延長三千八百五十五・八米ノ鐵管線ヲ敷設セリ
又當鑛山產出ノ揮發油ハ從來「ドラム」罐又ハ石油罐ニ詰メ柏崎製油所ニ運搬セシカ之カ費用ト損失ヲ顧慮シテ大面
貯油所ヨリ帶織驛迄徑二吋ノ鐵管ヲ敷設シ同驛ヨリ「タンクカー」ニ積込ミ輸送スルコトトセリ
軌道ノ延長

當鑛山ハ北東ニ進展スルニ伴レ運搬ニ不便ヲ感スルニ至リシヲ以テ軌道ヲ大字矢田地内迄千二百五十米延長シ作業ノ
迅速ニ資スルコトトセリ

成形機及電弧銲接機ノ設置

鑛場ノ發展ニ伴ヒ諸機械、器具ノ修理ヲ要スルモノ愈々増加セルヲ以テ鐵工場内ニ成形機一臺ヲ設置シ又鐵管類並ニ
鑿井機具ノ修理ヲ行フ爲重量輕ク運搬ニ便利ナル交流電弧銲接機一臺ヲ設備セリ

「ポンピングパワー」及「モーターウヰンチ」ノ設置

經費節約ヲ計ル爲從來ノ單獨汲油又ハ二三坑ノ連結採油ヲ廢止スヘク二十四呎「ナシヨナルポンピングパワー」一臺
及採油井個々ノ「ロット」、「チューピング」揚ケ裝置ヲ省略シ數坑共通ノ「モーターウヰンチ」ヲ就レモ新設スヘク之
カ工事中ナリ

新津鑛山 新潟縣中蒲原郡新津町外五 日本石油株式會社

新油層ノ發見ト其ノ採油

(イ) 朝日方面第三層油ノ探究 第三層油開發ノ目的ヲ以テロ式二十一號井、同二十二號井ヲ開坑セリ、又一昨年七月二
十五日開坑ニ着手セルロ式十七號井ハ昨年末深度千六百四十三・一米ニ達シ該機械裝置ニテハ之レ以上ノ掘進困難ナ、
ルヲ以テ四月十二日以降千三百五十五米附近ノ油層ヲ採油セルカ當時日產四百八十立アリ引續キ產油ヲ維持シツ、アリ
ロ式二十號井ハ昨年八月深度六百六十五・三米ニテ油層ニ達着シ日產一・七疋ヲ採油セシカ其ノ後漸減シテ百三十立ニ
低下セシヲ以テロ式十七號井ノ狀況ニ鑑ミ深層ヲ探究スヘク豫定深度ヲ千三百十米トシテ九月九日掘下ニ着手シ年末
深度千二・一米ニ達シ順調ニ掘進中ナリ

(ロ) 小口方面所謂「ザク」層(崩壊性頁岩層)ノ掘鑿 小口鑛場方面ニ於ケル第三層油ヲ究ムル目的ニテ昨年十二月十
七日開坑セルロ式百七號井ハ深度百九十五・五米、三百十三・八米、三百九十五米、四百三十四米ノ各層ニテ油氣アリ
深度六百二十米以下ハ屢々失敗セル所謂「ザク」層ニ達着シ押出シ甚シク難掘ヲ重ネタリシカ年末深度六百八十二・
一米ニ達シ漸ク掘進可能ナル狀態トナレリ

(ハ) 馬寄方面深層油ノ探究 馬寄方面深層油探究ノ目的ニテ昨年八月二十一日豫定深度千米トシテ開坑セル馬寄ロ式十
號井ハ深度九百八十八・四米ニ達シタルモ瓦斯ノ爲「ザク」粒並ニ砂岩塊ヲ無限ニ押上ケ且ツ出水甚シク種々ノ手段モ

奏効セズ浸漬不能ニ陥リ十一月八日廢坑ノ已ナキニ至レリ

鑿井

前年ヨリノ繼續掘鑿井ハ十二坑、本年新着手掘鑿井ハ十六坑、掘下井六坑ニシテ其ノ中成功シタルモノ二十坑、掘鑿未了井六坑ナリ

「ナシヨナルパワー」新設

朝日地内坪ヶ入、高谷、鹽谷ニ涉リ相近接シテ九個所ニ「ポンピングパワー」設置シアリシカ經費ノ節約ヲ計ルヘク内四個所ヲ合併シ新ニ「ナシヨナルパワー」一臺ヲ新設セリ

瓦斯「ホルダー」新設

當礦山ノ動力燃料ハ専ラ天然瓦斯ヲ充當セルカ作業ノ都合上晝夜ニヨリテ繁閑アル爲瓦斯使用量不平均ニシテ晝間ハ不足シ夜ハ過剩ノ有様ナルニ依リ夜間ノ過剩瓦斯ヲ貯ヘ晝間ニ補給スル目的ニテ小口鑛場地内ニ一萬立方呎ノ瓦斯「ホルダー」ヲ新設スヘク十二月二日起工シ目下「タンク」組立中ナリ

附屬新濁製油所

(イ)「アスファルト」製造装置ノ設置 既設「シユルツ」式減壓蒸溜釜ニテ新津石油ヲ蒸溜ノ際生スル殘渣ヲ原料トシテ「アスファルト」ヲ製造スヘク五月之カ工事ニ著手シ六月完成セルカ製造能力一ヶ月約五百噸ニシテ其ノ設備ノ大要左ノ如シ

荷造場	(鐵管骨平家建、退間七間、桁間十二間、軒高十尺五寸)	一棟
「ブローケース」	(橫置圓筒型、鐵槽直徑六呎、二吋、長サ十九呎六吋)	一個

「クローラー」(同上)

一個

(ロ) 製蠟装置ノ増設 七月「プレツスマシン」(直徑四呎、「プレート」數二百七十枚)一臺ヲ増設シ石蠟十三軒、榨油三百二十二軒ヲ増産シ得ルニ至レリ

(ハ) 貯油槽及附屬上家ノ増設 製油其ノ他ノ設備ノ擴張ニ伴ヒ左記貯油槽及附屬上家ヲ増設セリ

鐵槽ノ徑	鐵槽ノ高	容	量	臺	數
二〇呎四吋	一九呎八吋四分ノ三		一、〇〇〇石		一
四一呎八吋一六分ノ五	二四呎七吋三分ノ一		五、二八〇		四
三七呎〇吋二分ノ一	一九呎九吋八分ノ三		三、〇〇〇		二
二五呎一時四分ノ三	一九呎八吋四分ノ三		一、五〇〇		二
一二呎三吋二分ノ一	二四呎三吋		四五〇		一
一二呎六吋	二四呎一時		四七〇		一

三千石貯油槽附屬上家 (鐵管淺野スレート葺、七間一尺×十四間)

一棟

千五百石貯油槽附屬上家 (鐵管淺野スレート葺、五間一尺×十間)

一棟

(ニ) 汽罐ノ増設 製油其ノ他ノ擴張ニ伴ヒ一月外焚多管式汽罐(直徑六呎、胴長十四呎十一吋)一基ヲ増設セリ

柄目木鑛山 新潟縣中蒲原郡新津町 明治石油株式會社

深層油探究ノ目的ニテ前年八月二十七日豫定深度千五百米ニテ開坑ニ著手セル柄目木ロ式一號井(日本石油株式會社共同井)ハ七百七十七米ノ個所ニ油氣、八百三十米及千百五・六米ノ個所ニ瓦斯アリ、千三百十六・四米ニテ油層ニ達着(瓦斯アリ)シ更ニ繼續掘進中千四百十八米ノ個所ニ油氣及瓦斯アリタルモ豫期ノ出油ヲ見サルニ依リ千五百二米ニテ停掘

シ千三百十九米以下ヲ埋立テ十月十六日ヨリ探油セルニ當時ノ日産三千二百五十立(「ボーム」三十九度)瓦斯二百二十
六立方米アリ、斯クテ新油層ノ存在ヲ確メ得タルヲ以テロ式二號井ノ掘鑿準備中ナリ

割町鑛山

新潟縣刈羽郡刈羽村 日本石油株式會社

昨年七月五日開坑ニ著手セル割町ロ式一號井ハ深度八百三十米ニテ日産約二百萬立方尺ノ瓦斯噴出シタルヲ以テ一時瓦
斯井トシテ瓦斯ヲ探收セシモ其ノ後掘下ケテ爲シ深度千三百三十二米及千四百四十二米ニ於テ豐富ナル油層ニ逢着シ千五百
十六米ニテ掘止ヲ爲シ自噴裝置ヲ施シ本年一月十四日ヨリ自噴シ日産十五餘ノ出油ヲ得タルカ本井ハ本油帶ニテ始メ
テ大量ノ産油ヲ見タル坑井ニシテ之カ成功ノ結果高町鑛山ノ急激ナル發展ヲ見ルニ至レルコトハ高町鑛山ノ項ニ記載セ
ルカ如シ

而シテ當鑛山ニ於テモ相繼キテ七坑ヲ鑿井セシ所何レモ成功セリ

刈羽鑛山

新潟縣刈羽郡刈羽村 日本石油株式會社

前年刈羽ロ式一號井ノ成功ニ鑑ミ刈羽村大字刈羽字入用田ニ於テ本年二月九日ロ式二號井ニ開坑シ四月六日深度千三百
六十六米ニテ掘止メ、當時日産平均一・三好ノ出油ヲ見タルヲ以テ更ニ八月十五日ロ式三號井ノ開坑ニ著手シ目下掘進
中ナリ

安田鑛山

新潟縣刈羽郡刈羽村 日本石油株式會社

安田ロ式三號井ハ昨年以來引續キ掘進中ノ處深度六百十八米ニ於テ瓦斯氣、六百二十八米ニ於テ少量ノ油氣、六百五十
二米ニ於テ一日約二百三十立ノ出油アリ、七月十二日ヨリ探油セリ
又一月三十日開坑ニ著手セル安田ロ式四號井ハ深度六百十二米ノ砂質凝灰岩ニ少量ノ瓦斯、六百五十三米ノ灰色砂質凝

灰岩ニ油臭、六百六十米ノ灰色砂質凝灰岩ニ油氣、六百七十米灰色凝灰岩ニ少量ノ瓦斯及一日千五百立ノ出油アリ四月
十日ヨリ探油セルカ兩坑井ノ本年中之出油量ハ八百四十七石九斗二升(「ボーム」二十二・九度)ナリ

本成寺鑛山

新潟縣南蒲原郡本成寺村 日本石油株式會社

本成寺網式一號井ハ深度千二百米ニ達セシモ豫期ノ出油層ニ逢着セサルヲ以テ架橋シテ九百六十五米附近ノ上層油ヲ探
收スルコト、シ六月二十日以降探油セルカ當時日産千三百立ナリシモ現在ハ百三十立ニ減少セリ
網式一號井ノ東方約二百米ノ位置ニ豫定深度千百米トシテ二月十八日開坑ニ著手セル本成寺ロ式一號井ハ豫定深度ヲ超
ユルモ豫期ノ出油ヲ見サルニ依リ更ニ豫定深度ヲ千五百米トシ深層ヲ探究スル目的ニテ掘進中九月二十九日深度千三百
八十八米ニ於テ瓦斯大噴出シ益々有望ノ兆アルニ至レリ
又網式一號井ノ西方約百米ノ位置ニ豫定深度千五十米トシテ十二月二十一日開坑ニ著手セル本成寺ロ式二號井ハ年末深
度二百七十七米ニ達シ目下鋭意掘進中ナリ

(二) 其他ノ非金屬山

幌別鑛山

硫黃 膽振國有珠郡社管村 北海道礦業株式會社

動力ノ充實ヲ計ル爲水力發電所新設ノ計畫ヲ立テタリ、用水ハエコイカオマハツ川ニ堰堤ヲ新設シ「コンクリート」水
路ニヨツテ導水シ有效落差八八尺トナシ常用五四「キロワット」、特殊八六「キロワット」合計一四〇「キロワット」ノ
電力ヲ得ル計畫ナリ、發電所ニハ二一〇馬力橫軸渦卷水車及一七五k.w三相交流發電機各一臺ヲ設置シ又送電路ヲ新設セ
リ山元、幌別驛間六哩二五鎖ノ運搬ハ馬匹ヲ使用シ居リシカ能率増進ノ爲メ蒸汽機關車ニ變更セリ但シ機關車ハ目下
臺ニシテ型ハ四輪連結「サイドボットムタンク」型汽笛五吋ノモノナリ

●松尾鑛山 硫黃 硫化鐵 岩手縣岩手郡松尾村 松尾硫黃株式會社
 探鑛、製鍊、運搬等諸設備ノ改善擴張ヲ行ヒ益々事業ノ發展ヲ計リツツアリ即チ探鑛ニアリテハ本年左記ノ壓氣機並ニ鑿岩機ヲ増設セリ

壓氣機	米國サリバン會社製WG六型	五十馬力	一臺
鑿岩機	同上	L七型	二臺
	米國インガール製DCRW		一臺
	足尾製	一二型	一臺

製鍊ニ於テハ三月燒取釜三基ノ増設ヲ行ヒタル結果前年ニ比シ六白五十噸餘ヲ増産セリ

尙坑外運搬施設トシテ從來使用中ノ製鍊場元屋敷間ノ架空索道ハ其能力不十分トナリシヲ以テ之カ敷設換テ企圖シ積載量五百六十封度延長一萬二千二百二十尺玉村式單線索道ノ架設ヲ完成セリ

此等事業擴張ニ伴フ動力ノ不足ヲ補フ爲メ從來盛岡電燈株式會社ヨリノ購買電力五十「キロワット」ナリシヲ二百「キロワット」ニ増加セリ

●沼尻鑛山 硫黃 福島縣郡南郡吾妻村 日本硫黃株式會社

鑛床ノ下底探鑛ノ爲メ新タニ大正斜坑並ニ第二斜坑ニ毎分二十立方尺、揚程五十尺ノ五馬力「セントリヒウガル」唧筒各一臺ヲ新設シ又坑内外使用動力ノ増加ニ伴ヒ第二水力發電所二百「キロワット」ノ發電機一臺ヲ増設セルカ、更ニ發電所水路一千五百尺間ヲ全部鐵筋「コンクリート」暗渠ニ改修スルコト、シ其工事ニ著手セリ

●那須鑛山 硫黃 栃木縣那須郡那須村 小平鑛下

十月容量元鑛二十貫ノ燒取釜十四箇配列ノ製鍊電一基ヲ増設シ又八月製鍊場、大段間ニ延長一千百三十五間ノ自動輕便索道（運搬能力一時間八百貫）ヲ架設シ物資運搬ノ便ヲ計レリ

●吾妻鑛山 硫黃 群馬縣吾妻郡鹽田村 吾妻硫黃株式會社

大正十五年九月發見シタル現在ノ鑛床下段探鑛準備トシテ昨年九月著手シタル送鑛路延長三百八十間ノ内橫坑道掘鑿百八十間坑外施設工事二百間ハ本年十二月完成シ之レニ依リ送鑛ノ緩和ヲ計リ亦上段トノ連絡ニ依リ坑内通氣及排水上効果ヲ修メ將來ノ發展上利便ヲナカラサルニ至レリ

又製鍊ニ於テハ容量元鑛四十貫ノ燒取釜十箇配列ノ製鍊電三基ヲ増設セリ

●小串鑛山 硫黃 群馬縣吾妻郡鹽田村 東洋硫黃株式會社

第二坑道ノ下部六十七尺ノ地點ヨリ第二坑鑛床下部ニ向ヒテ方位八度ノ方向ニ第三坑道ヲ掘進中ノ處十二月坑口ヨリ延長七百十尺ニテ第二坑鑛床ノ下部ニ於テ下磐ヨリ鑛石露ハレ掘進十尺ニシテ上磐共ニ鑛石ニ達シ引續キ掘進セシニ鑛況益々良好ニシテ第二坑道ノモノト同一鑛床ナルコトヲ確認シタルヲ以テ明年ヨリ探鑛著手ノ豫定ナリ

製鍊ニ於テハ十一月徑三尺五寸深サ二尺ノ燒取釜十二個配列ノ製鍊電三基ヲ増設セリ

●又製鍊釜鑄造場、貯鑛場、倉庫、小學校等各一棟鑛夫寄宿舎二棟、鑛夫長屋五棟等建設セリ

●米子鑛山 硫黃 長野縣上高井郡仁禮村 石原長次

製鍊電一基ニテ製鍊ノ處本年度ニ於テ直徑三尺七寸高サ二尺三寸ノ燒取釜十二箇配列ノ製鍊電二基増設セリ

●硫黃島鑛山 硫黃 鹿児島縣大島郡硫黃島 廣海仁三郎

一基ニ付蒸溜釜十二個ヲ備ヘタル爐二基（一基ハ豫備）其他附屬裝置ヲ設備セル硫黃製鍊場ヲ新設シ三月ヨリ操業ヲ開

始セリ

(五) 事業ヲ縮少シ又ハ休止シタル鑛山

甲) 事業ヲ縮少セル鑛山

美利加鑛山 滿俺 後志國網走郡別府村 合資会社杉林黒鉛鑛務製煉所

從來鑛産月額最低六〇噸ノ方針ニテ稼行シ居リシカ輸入品ト内地産品トノ貯蔵多額トナリ産額ヲ半減スルノ止ムナキニ

至リ依テ八月ヨリ稼行ヲ縮少セリ

小久慈鑛山 砂鐵 岩手縣九戸郡大野村 株式会社常盤商會

先年來専ラ試驗操業中ナリシ海綿鐵ノ還元製煉ハ財界依然不況ノ爲メ運轉資金ノ調達意ノ如クナラスシテ四月十一日遂

ニ一時作業ヲ休止スルニ至レリ

此ノ間ノ設備並ニ操業方法ノ改良ヲ行ヒ以テ燃料ノ節約還元鐵品位ノ向上ニ努メ進ンテ製鋼製鉄方法ノ研究ヲ行ヘリ

阿仁鑛山 銀銅 秋田縣北秋田郡阿仁合町外一 古河鑛業株式会社

本鑛山ニ於テハ小澤坑内下八番坑ニ於テ三號鑛以南ノ探鑛ヲ目的トシ南向鑛入ノ開鑿ニ著手シ延長六〇〇尺ニ達セルモ

此ノ間數條ノ細脈ニ出會セルノミニテ優良ナル鑛脈ヲ發見スルニ至ラス尙引續キ探鑛中ナリ

又同坑東部ノ探鑛トシテ下山大鑛下八番坑ヨリ北向鑛入ヲ掘鑿中ナルモ未タ鑛況詳ナラス

要スルニ全山ヲ通シ鑛況不振ニシテ昨年ニ比シ粗銅五萬一千九百斤餘ノ減産ヲ見ルニ至レリ

長久手炭鑛 亞炭 愛知縣愛知郡長久手村外三 倉平三郎

片平第一坑、竹ノ山第五坑ハ坑内湧水増川シ且ツ豫定區域内ノ探炭略ボ終了シタルヲ以テ前者ハ四月後者ハ六月廢坑シ

タルト、片平第二坑ハ墜坑崩壊シ八月以降操業ヲ休止シタル爲メ鑛産額ハ前年ニ比シ約四割減少セリ

江與味鑛山 銀銅硫化鐵 岡山縣御津郡江與味村 住友別子鑛山株式会社

前年來事業擴張ノ計畫ニテ銳意探鑛中ナリシ最下底八番坑道ハ鑛況豫期ニ反シ甚タ不良ニシテ到底開坑繼續ノ望ミナキ

ニ至レルヲ以テ終ニ其掘進ヲ中止セリ從テ本年度ニ於テ改造ノ豫定ナリシ運鑛場モ更ニ其設備ヲ左ノ如ク變更縮少スル

ノ必要ヲ生シ目下其準備中ナリ

ブレイキ式碎鑛機

ハルツジツガー

ウイルフレーターブル

尙右ハ坑内産出鑛量ヲ處理スル外坑外ノ貯鑛ヲ處理スル目的ニシテ今後二ケ年間ニ貯鑛全部ヲ處理スル豫定ナリ

大君炭鑛 石炭 福岡縣遠賀郡水巻村島郷村 大君鑛業株式会社

高尾三鑛一番坑炭況不良ノ爲メ探炭ノ時季ニアラサルヲ以テ探掘區域ヲ縮少シ高尾二鑛及高尾三鑛三番坑ハ炭況不況ニ

付之亦探炭ノ時季ニアラサルヲ以テ高尾二鑛ハ六月、高尾三鑛三番坑ハ十二月探掘ヲ休止セリ

神之浦炭鑛 石炭 福岡縣嘉穂郡藤波村 帝國炭業株式会社

第一坑ノ事業ヲ休止セリ而シテ同坑口ニ設置シタル五十馬力電氣捲揚機ヲ廢止セリ

大峰炭鑛 石炭 福岡縣田川郡大任村川崎村 礦内鑛業株式会社

大燒炭層大峰一號坑ノ探掘ヲ休止セリ

榎木山炭鑛 石炭 長崎縣北松浦郡今福村調川村 三宅駿二

九月本坑ヲ休業シ僅ニ一坑ヲ殘シテ稼行スルノミトナレリ之カ爲メ本坑ニ附隨スル一切ノ設備(汽罐ニ基、捲揚機一臺、排水用唧筒三臺、「エンドレス」一臺其ノ他)ヲ廢止セリ

(乙) 休業セル鑛山

洞爺鑛山 (探登第四一號) 金銀銅鉛亞鉛 鑛山社 日本産業株式會社

逐年事業ノ發展ニ努メシモ鑛況不良ノ爲メ十月ヨリ休業セリ

望來鑛山 (試登第五九八〇號) 石油 石狩國厚田郡厚田村 日本石油株式會社

嶺泊ニ網式第一號井ヲ開鑿シテ其掘進ニ努メ深度一、〇三五米ニ達シタルモ豫期ノ出油無ク後日ノ研究ニ俟ツコトトシ

六月休業セリ

鴻之巢炭礦 石炭 福岡縣鞍手郡野村 帝國炭業株式會社

出水ノ爲メ九月休業スルニ至レリ

住友殿木炭礦 石炭 佐賀縣東松浦郡殿木村 住友九州炭礦株式會社

十一月第一坑採掘全部終了シタルヲ以テ事業ヲ休止シ第一坑々口ヲ閉鎖シ坑内自動捲揚機、坑内全部ノ軌條、坑外蒸氣捲揚機一臺、水洗機一臺等撤廢シ汽罐三臺ノ使用ヲ廢止セリ

ラサ島鑛山 燐 沖繩縣島尻郡沖大東島 ラサ島燐礦株式會社

前年ヨリ引續キ鑛市況閑散ニシテ需要量減少シタル爲メ十二月迄ニ休止ノ己ムナキニ至リ鑛夫全部ヲ解雇セリ

其他事業ヲ休止シタル鑛山ヲ表記スレハ左ノ如シ

札幌鑛山監督局管内

國府縣別	登錄番號	鑛種	國府縣別	登錄番號	鑛種	國府縣別	登錄番號	鑛種
天鹽	(試) 二二二六	石炭	後志	(試) 二四二七	滿	北見	(試) 二四七〇	金銀
後志	(同) 二二二九	滿						

仙臺鑛山監督局管内

國府縣別	登錄番號	鑛種	國府縣別	登錄番號	鑛種	國府縣別	登錄番號	鑛種
岩手	(探) 二九七〇	銅	宮城	(試) 一七六六	亞炭	秋田	(試) 八二二	石油
同	(同) 二九七二	金銀銅砒	同	七九三	石油	同	八四九	同
同	(試) 四〇三五	銅	同	八七九	金銀銅	山形	(探) 二九三九	金銀銅鉛亞鉛
宮城	(探) 九二〇	金	同	八六六	金銀銅鉛亞鉛			

東京鑛山監督局管内

國府縣別	登錄番號	鑛種	國府縣別	登錄番號	鑛種	國府縣別	登錄番號	鑛種
岐阜	(試) 二七七	金銀銅鉛亞鉛	栃木	(試) 二〇三	滿	栃木	(試) 一九四	滿
同	(同) 二七五	滿	同	(同) 二〇三	同	埼玉	(試) 四〇〇	石
同	(同) 二七五	同	同	(同) 二〇八	同	愛知	(同) 八五九	滿

東京				
計	試掘		計	計
	普通	重要		
普通	普通	普通	普通	計
重要	重要	重要	重要	
要	要	要	要	
三二二三	四三一	三八二二	三三九七二	四
五四七四	三九三	三五四四	六四二	八
二四一五	二二	八三	四九七九	三
五四三五	五五	四三七三五	九九一一	五
六四三〇	九五一三	五四二七	三二四一	九
六二		六二	七二二三	一
一一		一一		
二〇七	五二	一五六	三八二五六	二七

仙臺			札幌			管 内 局 別
試掘	探掘		計	試掘	探掘	
	普通	重要			普通	重要
普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通
重要	重要	重要	重要	重要	重要	重要
要	要	要	要	要	要	要
四七	五七	七二	三〇二八	二九	一一	二七
八	八六	二	五〇二三	九九		三
三	四六	七九	六三四四	七七		二四
五	四〇	一一				
一五	八九	九	八五	三	四四	三
一	六一	二三	二八	三	三三	三
二七	一九	二七	四七五八	五五	一一	四〇

福 岡		大 阪		
試 掘	探 掘	計	試 掘	探 掘
二四四	三六六九	一〇八一七	四四	三五一七
二四四	一九四三二	六七三六	四四	二六三六
八八	二七〇四七	二二	四四	七七
		七七	九九	八八
	一一			
	六五一			
一一	二 二	三一 二		三一 二
三七七	三一九五八〇	二〇五 一六六 三三	九九	一〇六 六七 六三

合 計			
計	試 掘	探 掘	計
三三三	一〇三	二二六	四三六
二二七	二八	一	三六
一九七	一一	一	九
一六五	九四	九三	三六二
一三三	九	三	二六三
一五七	七	四	二二七
四六	三三	三二	一〇五
二六四	三	七	一〇五
二五七	四	四	一〇五
一六二	六	七	一〇五
一五二	六	七	一〇五
一〇三	三	三	一〇五
三〇七	四	四	一〇五
七三	二	二	一〇五
一三五	八	八	一〇五

備考
 一、本表ニハ昭和三年ニ於テ稼業シタル全鑛山數ヲ掲ゲタリ
 二、金銀銅鑛山ニハ鑛區ノ許可鑛種及實際産出シタル鑛物ノ如何チ間ハズ主トシテ右鑛物ヲ目的トスルモノ(右ノ内一種ヲ目的トスル
 ト二種以上ヲ目的トスルトナ間ハズ)ハ全部之ヲ包含セシメタリ
 三、試験鑛山ニシテ一鑛山トシテ稼業セルコト明ナルモノハ數鑛區ト雖モ一鑛山トシテ計上セリ

第七章 製鐵業

概況

昭和三年中ニ於ケル本邦製鐵業ハ歐洲鋼材ノ市價昂騰ニ伴ヒ鋼材ハ一般ニ採算有利トナリ後半期ニ於テハ特ニ其傾向顯著ナリキ

各製鐵所ノ熔鑪ハ何レモ順調ナル作業状態ヲ繼續シ一臺ノ能力ハ次第ニ増大シタル結果前年ニ比シ約十九萬噸ノ鉄鐵増産ヲ示シタリ尙八幡製鐵所及鞍山製鐵所ニ於ケル五百噸熔鑪三基ハ何モ昭和三年中ニ起工セラレ目下工事進行中ニ屬スルヲ以テ本邦製鐵業ハ昭和四年ニ於テ更ニ一段ノ活躍ヲ期待セラレ

鋼材ノ生産額ハ前年ニ比シ約三十萬噸ヲ増加シタリ之カ主因ハ専ラ設備ノ改善、能率ノ増進、技術ノ進歩等ニ在リ鋼材需給ノ獨立ニ一步ヲ進メタルモノト謂フ可シ

(一) 内地鉄鐵及合金鐵生産額

年次	鐵	鉄	年次	鐵	鉄
昭和三年	一〇,七七九	一〇,七九二	昭和二年	八,八五二	八,八六六
昭和二年	三,八一	三,八一	昭和元年	七,九九四	七,九八三
大正十五年	一〇,〇〇五	一〇,〇〇五	大正十四年	六,七六八	六,七六九
大正十四年	八,九六一	八,九六一	大正十三年	五,七八五	五,七八九
大正十三年	一〇,四一四	一〇,四一四	大正十二年	五,九一五	五,九一六
大正十二年	八,一四六	八,一四六	大正十一年	五,三二一	五,三二二
大正十一年	五,八〇五	五,八〇五	大正十年	四,三二八	四,三二九
大正十年	五,九六六	五,九六六	大正九年	四,三九一	四,三九二
大正九年	五,〇八四	五,〇八四	大正八年	五,〇一四	五,〇一五
大正八年	四,七二五	四,七二五			
大正七年	五,二〇三	五,二〇三			
大正六年	五,九五一	五,九五一			
大正五年	五,〇八四	五,〇八四			
大正四年	四,七二五	四,七二五			
大正三年	五,二〇三	五,二〇三			
大正二年	五,九五一	五,九五一			
大正元年	五,〇八四	五,〇八四			

年次	合					
	鐵	金	合	鐵	金	合
昭和三年	1,109,627	1,109,627	1,109,627	1,109,627	1,109,627	1,109,627
昭和二年	921,283	921,283	921,283	921,283	921,283	921,283
大正十五年	821,832	821,832	821,832	821,832	821,832	821,832
大正十四年	696,700	696,700	696,700	696,700	696,700	696,700
大正十三年	599,099	599,099	599,099	599,099	599,099	599,099
大正十二年	600,752	600,752	600,752	600,752	600,752	600,752
大正十一年	559,320	559,320	559,320	559,320	559,320	559,320
大正十年	480,300	480,300	480,300	480,300	480,300	480,300
大正九年	529,875	529,875	529,875	529,875	529,875	529,875
大正八年	621,699	621,699	621,699	621,699	621,699	621,699

(二) 朝鮮、滿洲鐵生産額

年次	朝鮮		滿洲		合
	炭	鉄	炭	鉄	
昭和三年	1,461,599	1,461,599	2,846,755	2,846,755	4,308,354
昭和二年	1,290,031	1,290,031	2,492,035	2,492,035	3,782,066
大正十五年	1,150,036	1,150,036	1,981,425	1,981,425	3,131,461
大正十四年	991,200	991,200	1,666,655	1,666,655	2,657,855
大正十三年	997,955	997,955	1,393,776	1,393,776	2,391,731
大正十二年	999,933	999,933	1,778,999	1,778,999	2,778,932
大正十一年	831,799	831,799	1,598,422	1,598,422	2,430,221
大正十年	830,010	830,010	1,395,511	1,395,511	2,225,521
大正九年	841,218	841,218	1,260,077	1,260,077	2,101,295
大正八年	783,349	783,349	1,060,081	1,060,081	1,843,430

(三) 内地鋼鐵及鋼材生産額

年次	鋼				鐵			
	材	鋼	延	壓	其	坩	電	轉
昭和三年	1,703,826	1,703,826	1,703,826	1,703,826	1,905,707	1,905,707	1,905,707	1,905,707
昭和二年	1,400,426	1,400,426	1,400,426	1,400,426	1,685,242	1,685,242	1,685,242	1,685,242
大正十五年	1,244,771	1,244,771	1,244,771	1,244,771	1,506,251	1,506,251	1,506,251	1,506,251
大正十四年	1,077,055	1,077,055	1,077,055	1,077,055	1,300,103	1,300,103	1,300,103	1,300,103
大正十三年	870,888	870,888	870,888	870,888	1,099,691	1,099,691	1,099,691	1,099,691
大正十二年	759,674	759,674	759,674	759,674	959,008	959,008	959,008	959,008
大正十一年	661,781	661,781	661,781	661,781	809,145	809,145	809,145	809,145
大正十年	564,944	564,944	564,944	564,944	731,428	731,428	731,428	731,428
大正九年	533,327	533,327	533,327	533,327	680,855	680,855	680,855	680,855
大正八年	548,527	548,527	548,527	548,527	634,944	634,944	634,944	634,944

(四) 朝鮮鋼鐵及鋼材生産額

年次	鋼鐵		鋼		計
	平爐鋼	棒鋼	形鋼	延鋼	
昭和三年					
昭和二年					
大正十五年					
大正十四年					
大正十三年					
大正十二年					
大正十一年	八三六九	二,三五九	七,〇五三	九,四二一	
大正十年	五,六二六	二,三三二	二,七七四	三,〇〇天	
大正九年	三,四二二	三,六八	二,二八七	二,六四九	
大正八年	一七,〇〇	三,三三	一,三六	四,九四	

主要製鐵所別鐵鋼材生産額調

製鐵所名	昭和三年		昭和二年		大正十五年		大正十四年		大正十三年		大正十二年	
	鋼	鐵	鋼	鐵	鋼	鐵	鋼	鐵	鋼	鐵	鋼	鐵
釜石鑛山株式會社	六五,〇六四	一〇,九七二	五八,〇九八	一〇,五七二	五三,五三三	九四,〇五四	六八,八〇二	八二,九八五	四六,九五二	四六,九五二	四四,二〇三	四四,二〇三
株式會社日本製鋼所	二〇,九五四	八,四二〇	二七,〇九〇	七,二九六	二九,五〇五	六八,一二〇	七三,四三九	五三,五〇八	四七,一八三	四〇,八四三	四〇,八四三	四〇,八四三
製鐵所	一〇,九七二	一〇,九七二	七,二九六	七,二九六	九四,〇五四	六八,八〇二	八二,九八五	四六,九五二	四六,九五二	四四,二〇三	四四,二〇三	四四,二〇三
株式會社大島製鋼所	一〇,九七二	一〇,九七二	七,二九六	七,二九六	九四,〇五四	六八,八〇二	八二,九八五	四六,九五二	四六,九五二	四四,二〇三	四四,二〇三	四四,二〇三
日本鋼管株式會社	二〇,九五四	八,四二〇	二七,〇九〇	七,二九六	二九,五〇五	六八,一二〇	七三,四三九	五三,五〇八	四七,一八三	四〇,八四三	四〇,八四三	四〇,八四三
同社電氣製鐵所	一〇,九七二	一〇,九七二	七,二九六	七,二九六	九四,〇五四	六八,八〇二	八二,九八五	四六,九五二	四六,九五二	四四,二〇三	四四,二〇三	四四,二〇三
東洋製鐵株式會社 (但シ大正十一年ヨリ八 補製鐵所ニ委託經營)	一八,六三三	一六,一七九	一〇,七三二	九,九七三	一〇,七三二	九,九七三	九,九七三	五,二五〇	五,二五〇	五,〇四九	五,〇四九	五,〇四九
株式會社大島製鋼所	一〇,九七二	一〇,九七二	七,二九六	七,二九六	九四,〇五四	六八,八〇二	八二,九八五	四六,九五二	四六,九五二	四四,二〇三	四四,二〇三	四四,二〇三
川崎車輛株式會社 (元川崎造船所兵庫工場)	七,八四六	一〇,二〇九	二,二九〇	二,九八七	一八,九四六	二九,三〇八	二〇,一八〇	二二,六五五	一五,七六八	三四,一〇五	三四,一〇五	三四,一〇五

製鐵所名	昭和三年		昭和二年		大正十五年		大正十四年		大正十三年		大正十二年	
	鋼	鐵	鋼	鐵	鋼	鐵	鋼	鐵	鋼	鐵	鋼	鐵
釜石鑛山株式會社	六五,〇六四	一〇,九七二	五八,〇九八	一〇,五七二	五三,五三三	九四,〇五四	六八,八〇二	八二,九八五	四六,九五二	四六,九五二	四四,二〇三	四四,二〇三
株式會社日本製鋼所	二〇,九五四	八,四二〇	二七,〇九〇	七,二九六	二九,五〇五	六八,一二〇	七三,四三九	五三,五〇八	四七,一八三	四〇,八四三	四〇,八四三	四〇,八四三
製鐵所	一〇,九七二	一〇,九七二	七,二九六	七,二九六	九四,〇五四	六八,八〇二	八二,九八五	四六,九五二	四六,九五二	四四,二〇三	四四,二〇三	四四,二〇三
株式會社大島製鋼所	一〇,九七二	一〇,九七二	七,二九六	七,二九六	九四,〇五四	六八,八〇二	八二,九八五	四六,九五二	四六,九五二	四四,二〇三	四四,二〇三	四四,二〇三
日本鋼管株式會社	二〇,九五四	八,四二〇	二七,〇九〇	七,二九六	二九,五〇五	六八,一二〇	七三,四三九	五三,五〇八	四七,一八三	四〇,八四三	四〇,八四三	四〇,八四三
同社電氣製鐵所	一〇,九七二	一〇,九七二	七,二九六	七,二九六	九四,〇五四	六八,八〇二	八二,九八五	四六,九五二	四六,九五二	四四,二〇三	四四,二〇三	四四,二〇三
東洋製鐵株式會社 (但シ大正十一年ヨリ八 補製鐵所ニ委託經營)	一八,六三三	一六,一七九	一〇,七三二	九,九七三	一〇,七三二	九,九七三	九,九七三	五,二五〇	五,二五〇	五,〇四九	五,〇四九	五,〇四九
株式會社大島製鋼所	一〇,九七二	一〇,九七二	七,二九六	七,二九六	九四,〇五四	六八,八〇二	八二,九八五	四六,九五二	四六,九五二	四四,二〇三	四四,二〇三	四四,二〇三
川崎車輛株式會社 (元川崎造船所兵庫工場)	七,八四六	一〇,二〇九	二,二九〇	二,九八七	一八,九四六	二九,三〇八	二〇,一八〇	二二,六五五	一五,七六八	三四,一〇五	三四,一〇五	三四,一〇五

株式會社川崎造船場 製鐵工場	大阪製鐵株式會社	株式會社住友製鋼所	住友伸銅鋼管株式會社 尼ヶ崎工場	三菱造船株式會社 長崎造船所	株式會社淺野小倉製鋼所
鋼材	鋼材	鋼材	鋼材	鋼材	鋼材
鐵材	鐵材	鐵材	鐵材	鐵材	鐵材
一三四、〇七〇	五、〇一九	三、四〇六	一七、三三二	二、五五六	七、三九九
二五、九八二	四、八〇三	三、〇七五	二六、五七八	一、八五七	八、四六七
一〇三、五六五	三八、五二七	三、六〇九	一五、二七三	一、〇六	六、二七五
七七、四三五	三八、六三三	三、一三二	二二、三七七	一、〇八一	六、四六三
九七、九九	三七、四三二	二、八一九	一六、七〇八	一、〇六六	四、一四三
四〇、八六六	三五、九九一	二、四二五	二二、六〇六	一、九二二	四、二四二
七六、五五五	二六、七四五	二、二八九	一六、七〇八	一、〇六六	四、一四三
三七、〇九二	二六、二八三	一、八二九	一五、三三〇	二、四二〇	三、八八三
七、二六二	一八、四五四	二、二八九	一六、七〇五	八〇	三、九七三
三九、五七四	一八、四八五	二、六九三	一五、二五九	一、二二九	二、〇、五五二
六、七六三	一五、三〇四	二、九七〇	二二、七四	一、六二六	一、六、八六
三、三四七	一六、七九七	二、六二四	七、九五三	一、八五	六、九九
二、三三九	二、九七九	二、二二四	一、三六九	五、三七四	九、九九
二、三三九	二、九七九	二、二二四	一、三六九	五、三七四	九、九九
二、三三九	二、九七九	二、二二四	一、三六九	五、三七四	九、九九

株式會社神戶製鋼所	東海鋼業株式會社	德山鐵板製造株式會社	株式會社淺野造船部 製鐵	東京鋼材株式會社	三菱製鐵株式會社 兼二浦製鐵所
鋼材	鋼材	鋼材	鋼材	鋼材	鋼材
鐵材	鐵材	鐵材	鐵材	鐵材	鐵材
七、三九九	四、九四二	二、六七三	五、四八〇	八、四八八	一、四六一
八、四六七	四、九四二	二、六七三	五、三六四	一、八八四	一、四六一
六、二七五	三、九四六	二、四〇八	六、七四八	七、六九八	二、九〇二
六、四六三	三、九四六	二、四〇八	四、九二四	一、五二二	二、九〇二
四、一四三	三、七七一	一、七九四	三、三三九	五、七〇〇	一、五〇三
四、二四二	三、七七一	一、七九四	三、三三九	一、〇二二	一、五〇三
三、九七三	三、五七二	一、八五五	二、〇、五八四	九、九〇二	九、九〇二
三、八八三	三、五七二	一、八五五	二、〇、五八四	一、〇、五三三	九、九〇二
二、〇、五五二	三、二七六	二、三九〇	二、一八五	九、七九五	九、九〇二
一、六、八六	二、六、六七	二、三九〇	二、一八五	二、三六四	九、九〇二
六、九九	二、六、六七	二、三九〇	二、一八五	二、三六四	九、九〇二
九、九九	二、六、六七	二、三九〇	二、一八五	二、三六四	九、九〇二

(一) 内地鉄鑄需給高 (合金鐵ヲ含ム)

年次	内地産出額	輸移入額	計	輸移出額	差引需要額	需要額ニ對スル 産出額ノ割合
大正八年	六二,六〇九	三,四八七	九六,三三六	一七,〇三三	九四,二八二	六五%
同九年	五九,八七五	三,九〇四	九〇,三四一	九,七八五	九一,〇五五	五八%
同十年	四八,〇〇〇	二,七六二	七五,五八四	五,七六八	七〇,八二六	六四%
同十一年	五五,九三〇	四〇,九六六	九六,八九六	五,二八二	九一,六一四	五八%
同十二年	六一,〇七一	四,九四四	一,〇四〇,一九三	五,三三一	一,〇三四,九六二	五九%
同十三年	五九,九〇九	五,〇一三	一,二一九,五一一	七,二七〇	一,二一二,二四一	五四%
同十四年	六九,六七〇	四〇,五六八	一,〇九九,一八八	六,五〇三	一,〇九二,六八五	六四%
同十五年	八二,八三三	五,八四二	一,三三〇,一四四	四,六八六	一,三二五,四五八	六二%
昭和二年	九二,一八三	五,〇六七	一,四九二,八五三	四,三二五	一,四八八,五二八	六二%
同三年	一一,〇九六	七,二七四	一,八三三,三六一	四,九〇四	一,八二八,四五七	六二%

(二) 内地鋼材需給高

年次	内地産出額	輸移入額	計	輸移出額	差引需要額	需要額ニ對スル 産出額ノ割合
大正八年	五四,八五七	七,四九九	一,二七三,五八	一〇八,四四五	一,一六五,〇七三	四七%
同九年	五三,三八七	一〇,三九四	一,五七二,八〇五	九七,三八一	一,四七五,四二三	三六%
同十年	五六,四九四	六,四六八	一,二二一,七五	八四,七三二	一,一三六,九四	五〇%
同十一年	六六,一七一	一一,〇〇八	一,七六二,六一九	八三,二九八	一,六七九,三二一	三九%
同十二年	七五,六七四	七,九一七	一,五五,八五一	九七,八五	一,四五五,九九八	五二%

年次	内地産出額	輸移入額	計	輸移出額	差引需要額	需要額ニ對スル 産出額ノ割合
同十三年	八三,七〇八	一,五四四	一,九二,四九〇	九一,〇九九	一,九〇〇,三九五	四四%
同十四年	一〇,三七〇	五,三八九	一,五六九,九〇六	一〇七,五〇五	一,四六二,四〇一	七二%
同十五年	一一,四七七	九,四七三	二,一六九,五三三	一一〇,三八九	二,〇四九,一四四	六一%
昭和二年	一四,〇四二	八,四六四	二,二四六,六〇〇	一五五,七四三	二,〇九〇,八五七	六六%
同三年	一七,〇三六	八,四七三	二,五八,五三三	一七九,八九	二,三〇八,七三四	七三%

第八章 鑛業會社 (鑛業別會社數、資本額、其他)

(一) 會社總數

年次	種別	社數	出資額又 公稱資本額	積立金	純益金	配當金	純損金
大正十一年	金屬鑛採掘及製鍊業	一五二	六〇七,五〇〇,〇〇〇	六七,八〇〇,七四二	一八,六九五,四三七		一一,二二〇,五七四
	石炭採掘業	一一九	三〇〇,八六六,七五〇	一八,三五〇,一五〇	九,三八八,七二二		四,二七五,三四九
	石油採掘及精製業	二五	一三,九〇〇,〇〇〇	一六,六七八,三八	三,〇〇一,〇二二		三,二八六,一
	其他非金屬採取及精製業	一四	一九,一六六,〇〇〇	三三,八五五	六二,二五三		一五五,二五七
	計	三〇九	一,〇五一,〇〇一,九五〇	一〇三,三七六,四五〇	四二,七七八,六二二		一五,八七五,五三四
大正十二年	金屬鑛業	五三	三四七,二九九,〇〇〇	四〇,一七三,八二二	五,一六五,五七〇		五,二二一,九八一
	石炭鑛業	一〇七	四二六,八四九,七五〇	三九,九七五,〇二七	一八,〇五五,六四九		三,〇四三,八三二
	石油鑛業	二三	一五三,二五〇,〇〇〇	二二,四四六,四五	一〇,四三,四八六		二三〇,七五三
	其他ノ鑛業計	二五	三三,八六〇,五〇〇	五〇,九二七	二八七,二二七		四九,六三六
	計	二〇六	九四一,二四一,二五〇	一〇二,八四六,四二二	三三,九二二,九三三		八,九四五,二〇三
大正十三年	金屬鑛業	六四	四七五,四七九,〇〇〇	四二,八五六,四八	一三,四九三,三二〇		三,八〇一,七五
	石炭鑛業	九七	四〇〇,六四一,七五〇	四二,〇一六,七三二	一三,九九七,六六六		四,二五五,五九九
	石油鑛業	二五	一四五,八六五,〇〇〇	二二,一〇二,六三三	一〇,七七七,一九		四,七六七,六七八
	其他ノ鑛業計	二〇	一三,六五〇,五〇〇	四七,〇五四	六〇,六三三		八五,六一〇
	計	二〇六	一,〇三五,六六六,二五〇	一〇六,四二二,四四七	三六,八八三,五九九		八,〇九九,〇三三

年次	種別	社數	出資額	積立金	純益金	儲當金	純損金
及金屬採掘業 石炭採掘業	計	二	三,一八二,〇〇〇	六〇三,九六二	七四九	四	九六九,五三三
		一四	一六〇,〇〇〇				三九,一九
金屬採掘業	計	六	五八,九五二,二五〇	七,三六九,九二	二,一五六,三四八	一六,四四八,六〇〇	二,〇四四,六二
		九	三,四三九,七〇〇	二七,二二,二九四	九四九,九六〇	六,〇七九,〇〇五	八三,四三,九六六
石炭採掘業	計	七	三,四三九,七〇〇	二七,二二,二九四	九四九,九六〇	六,〇七九,〇〇五	八三,四三,九六六
		九	一,四七九,〇〇〇	二〇,一九,四七九	八〇〇,一五六	六,六五,九八三	七四九,九七七
石炭採掘業	計	三	一〇,八八五,〇〇〇	四〇,九九六八	六〇〇,二五九	四二,二五〇	六,一八九
		三	一,一八七,五〇〇	四九,七〇九	五三,三五六	三九,〇〇〇	六七,三四三
其他採掘業	計	一	一,〇五九,三六二,四五〇	二二,六四三,六一九	三六,〇七三,七四六	一七,九九九,八二	八,五六三,三八三
		一	一,〇五九,三六二,四五〇	二二,六四三,六一九	三六,〇七三,七四六	一七,九九九,八二	八,五六三,三八三
金屬採掘業	計	六	五八,九五二,二五〇	七,三六九,九二	二,一五六,三四八	一六,四四八,六〇〇	二,〇四四,六二
		九	三,四三九,七〇〇	二七,二二,二九四	九四九,九六〇	六,〇七九,〇〇五	八三,四三,九六六
石炭採掘業	計	七	三,四三九,七〇〇	二七,二二,二九四	九四九,九六〇	六,〇七九,〇〇五	八三,四三,九六六
		九	一,四七九,〇〇〇	二〇,一九,四七九	八〇〇,一五六	六,六五,九八三	七四九,九七七
石炭採掘業	計	三	一〇,八八五,〇〇〇	四〇,九九六八	六〇〇,二五九	四二,二五〇	六,一八九
		三	一,一八七,五〇〇	四九,七〇九	五三,三五六	三九,〇〇〇	六七,三四三
其他採掘業	計	一	一,〇五九,三六二,四五〇	二二,六四三,六一九	三六,〇七三,七四六	一七,九九九,八二	八,五六三,三八三
		一	一,〇五九,三六二,四五〇	二二,六四三,六一九	三六,〇七三,七四六	一七,九九九,八二	八,五六三,三八三

(二) 合名會社

年次	種別	社數	出資額	積立金	純益金	儲當金	純損金
及金屬採掘業 石炭採掘業	計	一	一,三七一,〇〇〇	三〇,〇〇〇	七四九		四一,三〇〇
		二	三,四七八,〇〇〇	六三,九九二	七四九		一〇,四七八
金屬採掘業	計	五	一,〇四九,〇〇〇	四九,一五八			三,九五二,〇八九
		二	四〇,〇〇〇	二一,〇〇九			四七,〇五七
石炭採掘業	計	二	一〇〇,〇〇〇	三〇,八〇〇			二,三三八
		六	一八,一九五,〇〇〇	一三,九五〇			一,〇,九〇七
其他採掘業	計	一	三,〇〇八,五〇〇	六四,四六七	九,三九二		四一,三,三九二
		一	三,〇〇八,五〇〇	六四,四六七	九,三九二		四一,三,三九二
金屬採掘業	計	八	二,八〇四,〇〇〇	五九,〇一八	七,六二二		一五,〇六一
		三	五〇,〇〇〇				一三,〇九六
石炭採掘業	計	二	四〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇			一九,三八八
		二	四〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇			一九,三八八
其他採掘業	計	一	一〇,〇〇〇	六二,〇一八	七,六二二		一五,〇六一
		一	一〇,〇〇〇	六二,〇一八	七,六二二		一五,〇六一
金屬採掘業	計	一〇	二,七〇九,〇〇〇	五八,〇二七	五,一五〇		二九,三七〇
		一	一〇,〇〇〇				一三,〇九六
石炭採掘業	計	一	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	九		一九,三八八
		一	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	九		一九,三八八
其他採掘業	計	一	三〇,〇〇〇	六二,〇一八	七,六二二		一五,〇六一
		一	三〇,〇〇〇	六二,〇一八	七,六二二		一五,〇六一
金屬採掘業	計	一〇	二,七〇九,〇〇〇	五八,〇二七	五,一五〇		二九,三七〇
		一	一〇,〇〇〇				一三,〇九六
石炭採掘業	計	一	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	九		一九,三八八
		一	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	九		一九,三八八
其他採掘業	計	一	三〇,〇〇〇	六二,〇一八	七,六二二		一五,〇六一
		一	三〇,〇〇〇	六二,〇一八	七,六二二		一五,〇六一
金屬採掘業	計	九	二,六六九,〇〇〇	五八,〇二七	五,一五〇		二九,三七〇
		一	一〇,〇〇〇				一三,〇九六

昭和元年	昭和二年
石油鑛業 其他ノ鑛業 計	石油鑛業 石炭鑛業 金屬鑛業 其他ノ鑛業 計
二 一 一	二 一 二 八
三〇,〇〇〇 五〇〇 二,六九九,五〇〇 五〇〇	一,七九五,〇〇〇 三〇,〇〇〇 六〇,〇〇〇 一,九〇五,〇〇〇
三〇,〇〇〇 五〇〇 六,〇〇,二七三 三〇,〇〇〇	二,六九九,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一,三九,〇〇〇
九三	五九,九一一
五,六二八	五,九二一
二五〇	一〇〇,〇〇〇
三,三六二七	三,八二二
二五〇	一〇,〇〇〇
一,四八三,三四	一,四八三,三四

(三) 合資會社

大正十一年	大正十二年
金屬鑛業 石炭探掘業 及製鍊業 石油探掘業 及製鍊業 其他非金屬探掘業 計	金屬鑛業 石炭鑛業 石油鑛業 其他ノ鑛業 計
一 四 一 四	三 一 四 一
五,一六四,〇〇〇 九,五五〇 二,〇〇〇 六,〇〇〇	一五〇,一八〇,〇〇〇 四六四,八五〇 一六〇,〇〇〇 二二,〇〇〇
九七,六一 七,七九二 四六四,八〇〇 六,三四,六三三	一〇七,三九二 一,〇〇,〇〇〇 二五,三〇六 一三,二六八
一,七三三	二,二,四九四
一三九,八三八	八〇〇
七,六〇七	二,二,四九四
四九〇	二,二,四九四
一八六,六〇〇	一,七四,二二
五八四,五四二	一,七四,二二
九,三三四	五,四〇三
六七,七八六	一三,二七

大正十三年	大正十四年	大正十五年 昭和元年	昭和二年
金屬鑛業 石炭鑛業 石油鑛業 其他ノ鑛業 計	金屬鑛業 石炭鑛業 石油鑛業 其他ノ鑛業 計	金屬鑛業 石炭鑛業 石油鑛業 其他ノ鑛業 計	金屬鑛業 石炭鑛業 石油鑛業 其他ノ鑛業 計
二 五 七 二	七 五 四 三 一	七 七 三 二 一	二 一 四 一 一
一五七,八五〇,〇〇〇 一,四三三,〇〇〇 三三三,〇〇〇 一七八,〇〇〇	一五七,八八〇,〇〇〇 四六五,五〇〇 三三〇,〇〇〇 一六〇,〇〇〇	一五,一九二,七〇〇 五五,五七〇〇 二二〇,〇〇〇 一五〇,〇〇〇	一五,二六六,七〇〇 六六,〇〇〇 二五〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
三二〇,〇〇〇 八五,三九二 五,五〇一 二五,一六二	四九六,五〇〇 九三,三五九 一〇,〇五六 五九九,九一五	九一,五二〇 二一,〇五九 一一,〇一五 二二六,五九四	一〇七,五二〇 二六,六一九 一四,七九四 二三八,九三三
四,七九七,〇三一	四,四六六,六五四	三,九六五,〇二七	二,四五〇,九九三
三,四八七七	三,八九五〇	五,一〇,七三	四三,九六一
三五,七七	五,五六一	七,二九三	二,八七八
四八七,六三五	四,四九一,二六五	一,一六五九	二,五五,八三三
九〇〇,三〇〇	九四〇,三〇〇	六〇七,〇二〇	一,七四,八五〇
三〇〇	四七二	六〇〇,〇〇〇	一,七五〇,〇〇〇
二四,四五九	一,六九〇	二,〇二〇	一〇,〇〇〇
一,六九〇	七四一	五,〇〇〇	四,八九〇
三七,三九四	七四四	四〇〇,五五四	二,三〇六
六三,五四三	八〇,一九六	八七,一九	二,三九,三三六

(四) 株式會社

年次	種別	社數	公稱資本金	拂込資本金	社債額	積立金	純益金	配當金	純損金
大正十一年	金屬鑛業	一〇九	五九九,一五五,〇〇〇	四〇八,八四四,四〇〇	一七,八〇〇,〇〇〇	六七,二九六,一九〇	一八,六六六,二二〇	一〇,二五三,七四九	九,五六六,九八二
	石炭鑛業	一〇七	三〇九,二〇一,二五〇	二〇九,三三四,九〇五	一九,七〇〇,〇〇〇	一八,八三三,三三〇	九,二七九,〇三三	五,五四五,四六三	四,一七八,〇六六
	石油鑛業	一九	一三,五七三,〇〇〇	七,三八三,七五〇	三,五〇〇,〇〇〇	一六,四七三,一五八	一三,一九三,四一四	二,八八八,五八六	二,八〇〇,五五二
	其他ノ鑛業	一三	一九,二九〇,〇〇〇	二,五六八,八七五	—	三三,二八七,八七五	六,一三五	三,一〇〇	一,五五二,五七
	計	二四八	一,〇四一,二二九,二五〇	七〇九,三九九,九三〇	二四,〇〇〇,〇〇〇	一〇二,一〇七,八七五	四二,一九九,二二	二八,五六〇,九〇八	一四,一八〇,八四六
大正十二年	金屬鑛業	四四	一九九,九三〇,〇〇〇	一三〇,八二二,二七五	—	三九,六六六,三三四	五,一六五,二〇〇	一,〇三二,五五〇	一,四二二,三三三
	石炭鑛業	九二	四二二,二〇六,二五〇	二八六,一六〇,〇五八	一六,七九七,〇〇〇	三九,八四六,八〇六	一七,九三五,四〇五	一〇,七五七,三〇七	二,九五三,一五二
	石油鑛業	一六	一五,九九〇,〇〇〇	一〇七,三九九,七五〇	三,五〇〇,〇〇〇	二二,二三三,八四五	一〇,四二二,六六六	七,五六二,一九二	一九一,〇〇〇
	其他ノ鑛業	一四	二二,八〇〇,〇〇〇	一六,一一一,五〇〇	—	三四,四四二	一九,八八五	四六,〇〇〇	二九三,七〇六
	計	一六六	七八二,九四六,二五〇	五四〇,四三三,五八三	二〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇二,〇七二,九六六	三三,七〇九,〇三六	一九,三九六,七四九	四六八,〇〇九
大正十三年	金屬鑛業	五三	三二四,八五五,〇〇〇	二二〇,四九九,七七七	—	四二,九九五,八九〇	八,六八七,六五七	三,二七〇,四九九	三,二一九,二二四
	石炭鑛業	八二	三九九,一五五,一五〇	二六七,五八八,四九九	一六,〇〇〇,〇〇〇	四二,九九三,三三〇	一三,九五二,八〇九	一〇,七六六,三三七	四,二二八,〇〇〇
	石油鑛業	一六	一四,四九〇,〇〇〇	一〇,八九九,二六四	三,六〇〇,〇〇〇	二二,〇六七,三三〇	一〇,七六一,四七三	八,三三二,五〇〇	四,五六六,〇〇〇
	其他ノ鑛業	一四	一三,四六二,五〇〇	一〇,三四五,〇〇〇	—	四二,一八九二	六,〇六三,三三三	三〇,二一五〇	四六,六六七
	計	一六四	八七二,九六二,七五〇	五九七,〇〇一,五九〇	一九,六〇〇,〇〇〇	一〇五,三六六,三三四	三四,〇〇八,三〇二	二二,五八九,九八六	七,八五〇,三三五
昭和十四年	石油鑛業	一五	一五〇,四〇〇,〇〇〇	一〇八,九三七,三九四	一五,五〇〇,〇〇〇	二四,三四〇,三三八	一〇,三〇二,四九九	九,三五三,〇〇〇	一一〇,〇一一
	其他ノ鑛業	一一	六,六七五,〇〇〇	五,五三七,〇〇〇	—	三五,一七二,〇	三三,二六八九	二〇,八〇五〇	八〇,八四四
	計	一六〇	八五二,〇〇〇,〇〇〇	五七三,〇三〇,〇七四	三五,五〇〇,〇〇〇	二〇,〇五九,五〇九	三〇,八八七,七四四	二四,一八二,四四四	五,九四九,一四九
	金屬鑛業	五三	四三三,〇〇五,五五〇	二七二,七一九,九〇二	—	六九,九五七,三四二	一四,八四一,五五四	一〇,一五二,三三七	二,〇六八,三三〇
	石炭鑛業	八八	三一九,九五〇,〇〇〇	二二八,八三三,七七二	二二,〇五三,五〇〇	二六,一一七,六四八	七,四〇七,七八二	五,三七四,一四五	五,八七六,四八七
大正十五年	石油鑛業	一七	一五九,〇〇〇,〇〇〇	一一二,〇二一,九九八	—	二四,二四八,〇五四	九,四三三,〇六四	一,五九七,四一〇	一,八〇八,〇一一
	其他ノ鑛業	一〇	一一,七五五,〇〇〇	六,九三三,八七五	—	四九,七七〇九	五,四〇〇,六九七	三〇,九〇〇〇	二七,〇三九
	計	一六八	九〇三,四四五,五五〇	六八八,八八四,四三〇	三六,一三三,五〇〇	二〇,八六六,七五九	三三,〇三三,〇六六	一七,三九九,七九二	八,一五二,六六七
	金屬鑛業	五三	四四三,五七〇,五五〇	二七〇,一四四,一七六	—	七,〇七〇,四七二	二〇,七〇二,四四四	一四,六九六,〇〇〇	一,七〇〇,六四九
	石炭鑛業	八五	三四三,六七五,〇〇〇	二二二,六七四,四〇一	二二,〇〇〇,〇〇〇	二七,一五四,六七五	九,四五二,九九九	六,〇〇〇,〇〇五	八,二九二,四一七
昭和二年	石油鑛業	一八	一四七,五〇〇,〇〇〇	一一四,〇一四,一七七	—	二〇,一四七,六八五	八,〇四八,二七八	六,六四八,七三三	七,四七七,六八九
	其他ノ鑛業	八	一〇,八七五,〇〇〇	六,〇八八,七五〇	—	四〇,九九六八	六,〇〇〇,二五九	四二,二一五〇	六,八八九
	計	一六七	九六,六〇〇,五五〇	六二,一〇三,九二四	—	三二,五八四,〇〇〇	二九,七六二,七九九	二七,八六六,〇八	一七,五四二,六六三

備考

- 一、前各表ハ商工大臣官房統計課編纂會社統計表ニ依ル
- 二、前各表ニ掲ゲル數字ハ十二月末日現在ノモノトス但シ出資額又ハ資本金、社債額及積立金ハ同年ノ最後ノ決算期ニ於ケル現在額トス
- 三、二種以上ノ鑛業ヲ營ス會社ニ付テハ其ノ主ナル鑛業ニ依ル

第九章 鑛 夫

概要

昭和三年六月末日現在ニ於ケル鑛夫總人員ハ二十九萬三千七百七十二人ニシテ内男二十三萬二千七百二十二名(總人員ノ七割九分四厘)女六萬四百五十名(總人員ノ二割六厘)ナリ、今之ヲ其就業スル鑛山ノ種類ニ依リ大別スレハ金屬山四萬四千六百四十六名(總人員ノ一割五分二厘)、石炭山二十三萬七千八百九十名(總人員ノ八割二分一厘)、石油山五千八百十六名(總人員ノ二分一厘)、其他ノ非金屬山四千八百二十名(總人員ノ一分六厘)ニシテ更ニ之ヲ坑内外ニ分テハ坑内十九萬九千七十五名(總人員ノ六割七分九厘)、坑外九萬四千九十七名(總人員ノ三分一厘)ナリ、年齡別ニ於テハ十四歲未満百六十四名、十四歲以上十五歲未満千七百七十八名(以上ヲ合シ總人員ノ五厘)、十五歲以上二十歲未満三萬六千六百六十名(總人員ノ一分五厘)、二十歲以上二十五歲五千七百七十名(總人員ノ八割七分)ヲ算ス、即チ左表ノ如シ

年齡別鑛夫人員 (昭和三年六月末日現在)

種別	十四歲未満		十五歲未満		二十歲未満		二十歲以上		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
金屬山	六八	五	一九三	四七	四、二五二	八三二	四、二二二	五、〇〇四	四四、六四六
石炭山	六五	二六	六三六	二九二	二〇、七七七	一〇、〇六四	一六、七八五	一八、三二三	五、四六七〇
石油山	一	一	五	一	四九〇	一九	五〇二八	三、四	五、八二六
其他ノ非金屬山	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	一三三	三三	八三九	三三九	二五、六八五	一〇、九七五	二〇、〇六五	四九、一〇五	六〇、四五〇
年齡別計	一六四	一六四	二、二七	二、二七	三六、六六〇	二、二七	二、二七	二、二七	二、二七

第九章 礦 夫

種別	坑內		計
	內	外	
十四歲未滿	八三	五二	一三三
十五歲未滿	二二	二〇	四二
二十歲未滿	三九九	四四〇	八三九
二十歲以上	一三三	二〇七	三三九
合計	一六四〇	九二八	二五六八

更ニ之ヲ作業ノ種類ニ依リ區分セハ以下各表ノ如シ

(一) 金屬山作業別年齡別鑛夫人員

種別	坑內		坑外	合計
	採鑛	支子		
十四歲未滿	七	一	一	九
十五歲未滿	三	一	一	五
二十歲未滿	二五九	一〇三	一〇	三七二
二十歲以上	八〇七	一七八	一	九八六
合計	一〇八七	一八〇	一	一二六八

(二) 石炭山作業及年齡別鑛夫人員

種別	坑內		坑外	合計
	採鑛	支子		
十四歲未滿	三	一	一	五
十五歲未滿	二	一	一	四
二十歲未滿	四〇三	九七九	四〇	一四二二
二十歲以上	二,一〇八	五,七七一	一,四六六	九,三四五
合計	二,五一一	六,七五七	一,九〇七	一〇,一七五

種別	坑內		坑外	合計
	採鑛	支子		
十四歲未滿	二	一	一	四
十五歲未滿	三	一	一	五
二十歲未滿	二,八八三	一,八〇三	一〇	四,六九六
二十歲以上	一,七〇八	五,五三九	一,七〇二	八,九四九
合計	四,五九一	三,六〇二	一七	八,二一〇

第九章 礦

夫

三三七

三三六

一、礦夫ノ分布

合 計	外坑					内坑					種 別	
	採選	製鍊	運搬	機械	雜作	採選	製鍊	運搬	機械	雜作		
	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫		
											男	十四歲未滿
											女	十四歲未滿
											男	十五歲未滿
											女	十五歲未滿
											男	二十歲未滿
											女	二十歲未滿
											男	二十歲以上
											女	二十歲以上
											男	合計
											女	合計
												計

(四) 其他ノ非金屬山作業及年齡別礦夫人員

合 計	製油					種 別	
	井	油	搬	機	工		
	夫	夫	夫	夫	夫		
						男	十四歲未滿
						女	十四歲未滿
						男	十五歲未滿
						女	十五歲未滿
						男	二十歲未滿
						女	二十歲未滿
						男	二十歲以上
						女	二十歲以上
						男	合計
						女	合計
							計

(三) 石油山作業及年齡別礦夫人員

合 計	外			種 別	
	機	工	雜		
	夫	夫	夫		
				男	十四歲未滿
				女	十四歲未滿
				男	十五歲未滿
				女	十五歲未滿
				男	二十歲未滿
				女	二十歲未滿
				男	二十歲以上
				女	二十歲以上
				男	合計
				女	合計
					計

局別	監督				計
	東京	仙臺	札幌	山形	
三和歌重山	岐新長茨 計 阜湯野城	岩山宮福 計 手形城島	膽天北後釧石 計 振鹽見志路狩		
夫	十四歲未滿				
	十五歲未滿				
妻	二十歲未滿				
	二十歲以上				
	合計				

第九章 續

夫

三四三

局別	監督						計
	香廣大三奈滋福	鹿島	宮崎	山崎	福岡	佐賀	
(二) 石炭山	香廣大三奈滋福 計 川島阪重良賀井	鹿島	宮崎	山崎	福岡	佐賀	
夫	十四歲未滿						
	十五歲未滿						
妻	二十歲未滿						
	二十歲以上						
	合計						

第九章 續

夫

三四二

年 齡 別 計	坑 內		坑 外		計	石 炭 山	石 油 山	其 他 ノ 非 金 屬 山
	男	女	男	女				
大正十三年	八	八	八	八	二六	二	一	二
大正十四年	二	二	二	二	一四	一	一	一
大正十五年	三	三	三	三	一四	一	一	一
昭和二年	三	三	三	三	一四	一	一	一
昭和三年	三	三	三	三	一四	一	一	一

大正十三年以降ノ坑内外別及男女別鑛夫人員ノ累年比較ヲ示セハ次ノ如シ

坑内外別並男女別鑛夫人員累年表(六月末日現在)

鑛 種	坑 內		坑 外		計
	男	女	男	女	
大正十三年	一七,八七九	八,〇〇二	一八,七七一	二,三〇〇	二〇,〇七九
大正十四年	一九,五七七	九,〇〇四	一九,四二九	二,四四二	二一,八七一
大正十五年	二〇,二〇八	七,七七八	二〇,七九八	二,五九七	二三,三九五
昭和二年	一九,二四九	六,五一一	一九,九〇〇	二,〇八九	二一,九八九
昭和三年	一九,二四五	五,七七七	一九,八三二	二,〇八九	二一,九二一

計	石 炭 山		計	石 油 山		計	其 他 ノ 非 金 屬 山	
	外	內		外	內		外	內
大正十三年	一八,七七一	二,三〇〇	二〇,〇七九	六,六九六	六,七七一	一三,三八三	二,五七六	三,九一六
大正十四年	一九,四二九	二,四四二	二一,八七一	六,六九九	六,二二一	一五,六五八	二,八八四	三,〇〇八
大正十五年	二〇,七九八	二,五九七	二三,三九五	六,八八七	五,一九九	一六,九九八	三,〇七四	三,二二八
昭和二年	一九,九〇〇	二,〇八九	二一,九八九	五,八八七	四,〇〇四	一六,〇〇〇	二,〇七九	三,一五八
昭和三年	一九,八三二	二,〇八九	二一,九二一	五,四七三	三,四三三	一六,四四四	二,〇八八	三,二二八

第九章 礦夫

合計								
計	外坑		內坑		計	外計		
	計	女男	計	女男			計	女男
計	計	女男	計	女男	計	女男	計	女男
三〇,二五二	七,五七〇	三,〇八二	一〇,一七四	七,五八八	二〇,八二〇	四,八八二	四,五〇〇	二,八七二
一,四七四	一,〇九〇	二,〇八〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇
一,四七四	一,〇九〇	二,〇八〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇
一,四七四	一,〇九〇	二,〇八〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇
一,四七四	一,〇九〇	二,〇八〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇
一,四七四	一,〇九〇	二,〇八〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇
一,四七四	一,〇九〇	二,〇八〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇
一,四七四	一,〇九〇	二,〇八〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇
一,四七四	一,〇九〇	二,〇八〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇	一,〇九〇

第十章 礦夫賃金

一、金屬山

局管内別	札										業務別
	坑		內						坑		
	製鍊夫	選鑛夫	平均	雜夫	工作夫	機械夫	運搬夫	手子	支柱夫	探鑛夫	
大正十五年下期	一,四三四	一,七二一	一,八七七	一,三三三		一,六五二	一,八五九	一,四九三	二,二一〇	二,二三三	二,二二三
	一,四七四	一,六九〇	一,八二二	一,二九一		一,六九八	一,九三一	一,六一七	一,八四七	二,一一九	二,一一九
	一,四九二	一,七七一	一,九六〇	一,三九二		一,六九五	二,〇九二	一,七一〇	二,〇八〇	二,二五九	二,二五九
	一,四八三	一,七二六	一,八九一	一,三四二		一,六九七	二,〇一二	一,六六三	一,九六三	二,一九四	二,一九四
	一,四九四	一,七一五	一,八二六	一,三五二		一,七一四	一,八一六	一,六六〇	一,九七二	二,一一一	二,一一一
	一,五三三	一,七四九	一,八三〇	一,三五六		一,七〇九	一,八八九	一,七八四	一,九六三	二,〇七一	二,〇七一
昭和三年平均	一,五一四	一,六六二	一,八二八	一,三五四		一,七一	一,八五三	一,七二二	一,九六八	二,〇九六	二,〇九六

第十章 礦夫賃金

三五